

通卷第 27 号

令和五年度  
おもだか



三木自然愛好研究会

## 目 次

わが心の鎮魂歌	室谷 敬一	1
成虫越冬のチョウ その不思議	塩田 尚子	4
クラブ活動	小阪 信之	10
コロナ後遺症 その後	塩田 尚子	13
移動手段が歩く事だった時代	小阪 信之	23
ホソバヘラオモダカとヘラオモダカの違い	丸岡 道行	26
わたしのたどった道 (5)	永幡 嘉之	30
三愛研 第2回座談会 ～「増田ふるさと公園」に寄せる想い～	植田 吉則	37
「三愛だより」 No. 228～No. 239		54
令和5年度三木自然愛好研究会一年間の活動		102
編集後記		106

## わが心の鎮魂歌

室谷敬一

数年前から終活という言葉が気になりだした。人生の最期に向けての事前準備と理解する。あくまでも統計上の話だが厚生労働省の統計によると 2010 年の男性の平均寿命（0 歳児の平均余命）は 79.64 歳、女性は 86.39 歳である。私は妻より 5 歳年上で平均寿命の男女差の 6.75 歳を加えると私が死んでから 11 年後に妻が死ぬことになる。間違っても私より先に妻が死ぬことは統計上あり得ない、とっていた。

私は三木自然愛好研究会に入ってチョウの幼虫は食草がほぼ決まっています。チョウの食草を植えると特定のチョウが寄ってくるということを知った。但しわずかだがシジミチョウの仲間には肉食のチョウもいるから要注意だ。

我家の周りにはウマノスズクサ、キジョラン、サンショウ、スダチ、ヒメカンアオイなどが植わっている。数年前にエノキとキハダを植えた。すべてチョウの食草・食樹である。

ジャコウアゲハは卵を産み付け壁でサナギになり羽化して飛び立つ。アゲハ、キアゲハも見る。カワラケツメイは勝手に生えてきてツマグロキチョウが舞うようになった。

野原を歩いていてチョウやトンボに出会うのも楽しいがこのチョウが来るはずだ、寄ってこいと思って食草を植えてそのチョウが来てくれるともっとうれしい。同じ呼ぶなら大型の見栄えのするチョウがいい。

もしかしてアサギマダラが飛んで来たらちょっと自慢したい。名前の由来は浅葱色あさぎいろから来ている。浅葱色は葱の葉を薄めた色で時代によって感じ方・使用され方に変化はあるが私には庶民的で清潔感のある色で好きだ。このチョウはほぼ日本全国で見られるそうだが春は北上し秋には南下する渡りのチョウである。その飛行距離は 1000 km とも 2000km ともいう。小さな体で海を渡る、旅をするところに言葉で表せないロマンを感じる、私には憧れのチョウである。幼虫の食草はキジョランである、植えている、しかし来ない。幼虫はキジョランの葉っぱを食べるが成虫はフジバカマを吸蜜するという。終活の一つにフジバカマを植えよう。

「もし俺が死んでからアサギマダラが飛んで来たらお前に逢いに来たんやからな、話しかけてよ。」と妻に言った。「お父さんはロマン

チックやなあ。」という答えが返って来るかなというさもしい期待が少しある。

「アサギマダラ言うたらチョウチョやな。どんなチョウチョか知らんけど、、、そんなんどっちが先（に死ぬ）か分かるかいな。私が死んでもいいように自分で掃除、洗濯ができるようになってときよ。」と強烈な返事が返ってきた。そう言えば食事、掃除、洗濯は妻任せの50年だった。

2019年、町ぐるみ検診を受診した妻の肺に影があった、、らしい。北播磨総合医療センターで診てもらおうと「この病気は間質性肺炎で治りません。進行を遅らせることです。」と告げられたと言う。

2020年1月15日にコロナ罹患者が日本で初めて確認された。その後驚異的に広まっていく。妻は悲壮感を漂わせて「(コロナを)もらって来んといてよ。」と言う。外出自粛令だ。

2022年6月までは家の中では動けていたが常に「シンドイ」と言い、「このシンドサは私しか分からへん。」と言いながらも酸素吸入は拒んでいた。6月下旬から酸素の管を付けた。酸素の吸入量が多いほど楽ではないかと思うのだが必要量を超えるとCo2が溜まるので寝ている時は少なく、食事や排便の時は多くする必要がある。この時期は食事の準備をしておけば自分で食事を摂った。

2023年1月には総合栄養剤であるラコールに頼るようになった。そのラコールも誤嚥するといけなないのでトロミを付けた。6月にはポータブルトイレが使えない。医者からは「この病気は一方通行です。」と念を押される。訪問看護の看護師は「急激に能力が低下しますよ。いざと言うときは救急車を呼んでください。私にも声をかけてください。」と言う。体重も減り続け25kgまで落ちた。「どっちが先か分かるかいな。」と言った妻の言葉が蘇える、予感があったのだろうか。

ふるさと公園のフジバカマの種子を蒔いたが発芽しない。苗を奥沢弘会員・北村健理事長にもらい休耕畑に植えたがなかなか育たなかったフジバカマが妻の症状の悪化に反して今年は元気そうな茎が上がってきた。

最近の新聞にはアサギマダラが紙面をにぎわしている。何処にでもいて何時でも見るような印象がある。ふるさと公園に頻繁に出かけている塩田尚子会員は5年間で4度目撃したと言う。1年に一度以下なのだ。三木山森林公園ではチョウの生息・飛来状況を調



査している。2016年から2021年の6年間でアサギマダラを目視は一度も報告されていない。来園者からアサギマダラが飛んでいましたとの報告があるそうだから飛来しているのは確かである。だが調査の日に見ていない、出会う頻度は極めて低いのだ。

秋が深まったのか、穏やかな天気誘われて家裏のフジバカマを見に行ったら。1頭の大きなチョウの姿がある、もしかして、、、胸が動悸を打つ、期待が高まる、近づくとなんと、なんとアサギマダラだ。

アサギマダラは「お父さんが来てほしそうにしとるからしょうないやんか。来てあげたんやで。」と恩着せがましく言う、気がした。

私がアサギマダラになって来るはずだったのだが妻が代わりになってやってきたのだ。よく来てくれた。

「千の風になって」の歌詞、

私のお墓の前で 泣かないでください そこに私はいません  
眠ってなんかいません 千の風になって 千の風になって  
あの大きな空を 吹きわたっています  
が浮かんだ。

我家のフジバカマを訪れるアサギマダラは妻なのだ、妻は死んでなんかいない、少なくとも私の記憶の中では生きていてアサギマダラになって旅を続けているのだ。

妻が他界して49日法要の1週間前、<sup>きんもくせい</sup>金木犀の香るお昼前のことであつた。



わが家を訪れたアサギマダラ

# 成虫越冬のチョウ その不思議

塩田 尚子

## 1 はじめに

2024年3月17日の夜、「おもだか」の編集委員長である池田さんからメールが届いた。原稿の校正依頼である。「お待ちしておりました!」。別稿で書いているように、ここ3年病気続きである。体調がよければ動き回れるが、体調がよくなければ閉じこもりがちである。かといって、ずっと臥せっているほどでもない。時間を持て余し気味であるから、三愛研がらみの仕事をいただけると嬉しい。

文章を読むのが好きなので本を紐解くが、切羽詰まった事情があるわけでもないから1時間もすると集中力が途切れる。文章を綴るのも好きであるから、その日見た生物や物について写真と共にまとめるのが日課である。

三愛研に入会して、早6年が経とうとしている。時間と身体が許せばカメラ片手に野山を歩いていたし今も歩いているが、興味の対象はその時次第。時にはキノコ、時には鳥、時には冬芽、時には種子…究めるということからは程遠いながら、その時々面白い、すごい、何故だろう、不思議だ…と思ったことを書き留めてきた。遠い記憶の底から、その時には分からなかったことが頭を擡げ、「そうか!そういうことだったのか!」と観た現象と結びつくときが時たま訪れる。そして、分かったと思ったことが、また覆されたり新たな疑問になったりしながら、結局は「分からん!」となるのだが、生物を自然の中で見続けるということはそういうことなんだろうなど、今日も歩く。

校正依頼を受けた原稿を読んでいて、やはり三愛研の会員として自然に関する原稿をもう1本上げたいと思った。

## 2 越冬中のキタキチョウ

この冬はというと、雑草と共に「キタキチョウ」を見続けていた。一昨年は体力作りにと東条川の河川敷を歩いていたが、昨年12月中旬より山の方にも足を延ばすようになった。2024年1月16日、地区の集団墓地の山側の入り口から少し入ったところに不自然なくぼ地があることに気づいた。通常は車が入る道しか通らないから気づかなかった。ここは、かつて苗床にする土を採取していたために、こういう地形になったのだそうだ。

何だろうと電柵を跨いでネザサの間を歩いて行くと、枯れかけたツユクサの茎にぶら下がっているキタキチョウに出逢った。まさに成虫越冬中である。ふるさと公園の全面草刈りの時に、刈られた草の間に横たわっているこのチョウを何度か見かけていたが、本来の越冬体に出会ったのは初めてである。「へえ～ぶら下がって越冬するのか!」と翌日から毎日観に行き、撮影する。12月～2月

は暖冬とはいえ、日中でも気温は 10℃前後であるから飛び立ちはしない。雨の日も小雪が舞う日も霜の降りた日も、じっとそこにいる。いつしかこのチョウに感情移入するようになっていた。明日は気温が下がる、雨が降るとの予報が出れば近くのシダを被せ、明日は気温が高いとの予報が出れば自然のままがよいだろうとシダをどける。眼に落ちた雫を見た日には、もうダメなのかと心配になる。

と、いつしかその生死を見分けるポイントが分かってきた。先ずは、触角だ！暖かいと閉じた翅の間から出てくる。寒いと閉じた翅の間に完全に入ってしまう。次に、翅の動き。暖かいと前翅と後翅がわずかに上下に開く。寒いと閉じる。脚の位置も微妙に変わる。ツユクサの茎が弱るにつれて、より丈夫な葉の付け根辺りに移動する。ついには、へたってしまったツユクサからシダに移動した。

ある時、気づいた。後翅の一部が欠損している。う～ん、これはリスクだなあ…。また、ある時、気づいた。このチョウは、いつでも地面に垂直に止まっているのだ。なるほど、これなら雨が降っても水滴が翅に当たるのを最小限にできる。おまけに、翅の付け根辺りは毛が密集しているから、雨粒をはじくことができる。

そして、ついに3月15日、キタキチョウはいなくなった。越冬から目覚めて飛び立ったのだ。ゆうに2ヶ月間見続けたチョウである。「おらんかなあ…。」と探していたら、いた。同じ個体かどうかは分からないながら、本当に嬉しそうに飛び続けていた。しばらくすると、近くにメスも出てきて追いかけてっこをしているようだ。

暖冬の影響か、キタキチョウはふるさと公園でも実家の山野でも、この冬何度か見かけている。大方は植物の茎に掴まっている。気温が10℃を越え無風状態、体感的にぼかぼかしてきたら陽だまりスポットに行ってみる。何回かに一度はこのチョウに出会える。2月14日、気温が18℃まで上がったこの日、実家山野の陽だまりスポットには、オスが元気いっぱい飛んでいた。一向に止まる気配がない。それなのに、いつものキタキチョウはまだぶら下がったままだ。どうしてだろう？実はこのくぼ地は日中に頭上から日が射す時間が極端に短いのだ。が、その分風が通らないという安全地帯でもあると気づく。

### 3 飛び出してきたタテハチョウの仲間

この辺りに生息するタテハチョウの仲間では、テングチョウ、ヒオドシチョウ、ルリタテハ、アカタテハ、キタテハ、クロコノマチョウが成虫で越冬する。

3月11日、一番に出会ったのはテングチョウだった。この日の最高気温は14℃である。2頭がくるくる舞いながら高速で飛んでいくが、しばらくすると離れてしまう。が、またくるくる舞い始め、また離れるを繰り返す。

3月15日気温が17℃まで上がった。16日には20℃まで上がる。越冬組が一気に飛び出してきた。15日には、居住地の山縁でルリタテハが2頭でくるくる

舞いながら樹上高く飛んでいく。かつて見たアサギマダラが空へ舞っていく姿と重なる。このチョウはテングチョウよりも大きいから翅の力が強いのだろうか。16日には、やしろの森公園で7頭のルリタテハを見た。2ヶ所でくるくる(2+2頭)と単独で3頭。飛んでいる時の翅表の青白い筋を目印に同定したら、目視で追い、止まったところを特定できれば気配を消して近づく。

他のタテハチョウの仲間もそうだが、止まってもすぐには翅を開かない。敵の気配を探っているのか、閉じては開き閉じては開きを繰り返しながら、ある瞬間にぱっと全開する。ピント合わせをしたまま、この瞬間を待つが、こちらが焦っているとすぐに翅を閉じられてしまうか飛び立たれてしまう。

1時間に7頭も追っていると、止まる場所の共通点が見えてきた。木の柵の上、切り株の上、掲揚柱の土台のブロックの上。前日見たのは、アスファルトの上だった。草地や地面に止まらないことはないが、この時期は体温を上げるために止まって翅を開くのだろうかから、熱を溜めこみやすい物の上に止まるのではないかと、この時は思った。

ところで、この2頭(時には3頭)がくるくるするこの行動は、「武器を持たないチョウの戦い方(竹内剛 著)」によると、オスメスの識別というより縄張り争いとして機能しているという。確かにふるさと公園では6月頃の夕刻になると、ミドリシジミがさかんに卍巴飛翔をしているのを見かける。あそこまで長時間くるくと舞っているのは、やはり縄張り争いかと思う一方で、キタキチョウの場合は素人目にはペアになる相手を探している(探雌飛翔)ように見えてしまう。なぜなら、キタキチョウのオスの翅は黄色みが強く、メスは黄色みが薄いので、どちらがどちらを追っているかはある程度分かる。オスがしばらく追うとメスは離れて行くように思える。

また、成虫越冬するチョウは、飲まず食わずで寒い冬を越して体力的にも厳しいから、種を残すべく目覚めてすぐに相手を見つけることは至上命題であろう。他のチョウが卵や幼虫、蛹でいる間に種を増やす営みをする生き残り戦術であるとも思える。これは、早春に咲くロウバイ、ウメ、サンシュユなどの樹木とも共通する。成虫越冬というのは、寒さというリスクを負っても種を保存するための棲み分けの一形態ではないだろうか。この日は、アカタテハにも出会った。

野ではキタテハをたくさん見かけた。こちらは、ゆるやかに飛翔しながらあいさつでもするかのように交わるとすぐに離れて行く。

#### 4 シジミチョウの越冬

シジミチョウの仲間では、ムラサキツバメ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミが成虫で越冬するが、ムラサキツバメには未だ出会えていない。

ムラサキシジミが越冬する姿は、2度見たことがある。1度目は2019年の12月、実家の古い倉庫裏である。ちょうど目の高さにアベマキの枯れ枝がアラカシ

に引っかかっていた。何気なく丸まった葉の中を覗いてみたら、いた。しかも4頭も！明けて2020年1月2日、気温が14℃まで上がったその日、地面で翅を開いているのに出会った。(ふるさと野のこよみの画像である)

もう1度は、2024年1月12日。室谷さん宅にヤモリの卵と成体を見に行き、ついでに裏山周辺を案内してもらっていた時のことだった。大きなカヤの木にクサグモの卵囊(真っ白い多面体で皮が頑丈)らしきものを見つけて取ろうとしたら、そこから紫色の物体が飛び出してきた。紛れもなくムラサキシジミだったが、すぐに見失った。厳密には越冬している姿を見たわけではないが、まさかクモの卵囊と一緒にいるとは思わなかった。思い込みは捨てなければと、またしても思った。

尚、図鑑「フィールドガイド日本のチョウ」によると、ムラサキシジミとムラサキツバメに関しては「越冬前や越冬後に日中に翅を開いて日光浴を行う」とあるが、他の成虫越冬の種に関してはその記述はない。日光浴って、体温を上げてエネルギーチャージをするためではないのか？とまたしても、タテハチョウの越冬後の行動に思いを馳せる。

このチョウはキタキチョウ同様、気温が上がれば越冬中でも出てきて、気温が下がればまた越冬に入るから同じところにいるとは限らない。

一方、ウラギンシジミは一旦越冬に入るとびくとも動かないようである。常緑樹の葉裏にぶら下がって越冬する。これもまた、2021年の12月から2022年の2月まで断続的に見に行っていたが、脚の位置は全く変わらなかった。越冬に入ると目覚めるまで飛び出してくることはなく、一旦目覚めるとまた越冬することはないとあるサイトに出ていたが、どうなんだろう？そのためか、越冬から目覚めたばかりの個体に出会ったこともなく、翅を開いているのを見たのは、夏場の木陰(年に何度か発生する)や晩秋の地面など様々である。

## 5 越冬後に翅を開く意味

やはり、気になっている。タテハチョウの仲間は越冬から目覚めると日当たりの良いところで翅を開いて体温を上げようとしているように思える。そうであるならば、翅を開かないキタキチョウはますます不思議である。でもなあ…同じシロチョウ科のモンシロチョウやモンキチョウもめったに翅を開かないしなあ…。モンキチョウなんて、冬場に気温10℃くらいでも飛んでいるしなあ…。

キタキチョウとタテハチョウ数種の違いは何なんだろう？全くの思い付きだが、「翅の色」ではないだろうか。キタキチョウは、翅の表も裏も黄色である。しかし、越冬組のタテハチョウは、翅表がとても鮮やかなのに対して翅裏は地味な茶褐色である。ムラサキシジミの翅裏も茶褐色で地味である。が、また立ち止まってしまふ。熱吸収から考えると翅裏の茶褐色の方が効率はよさそうである。つまり、翅を閉じていた方がいい。が、熱吸収の面積からすると翅は開いた方が

よい。頭がこんがらがってくる。やはり、翅裏が茶褐色なのは枯れ葉や樹皮に擬態している以外の意味はなさそうである。

別の観点から考えてみよう。キタキチョウは2ヶ月の観察で、日々微妙に動いていた。一旦、飛び立てるまで体温が上がってしまえば、それ以上に体温を上げる必要はないが、タテハチョウは身体が大きいから、気温差が激しい早春には定期的にエネルギーの補充が必要だとか…。が、これは体の小さいムラサキシジミには当てはまらない。いや、成虫越冬しないミドリシジミは、早朝葉の上で翅を開いている。どう見ても体温を上げようとしているとしか思えない。体の大きさは無関係のようである。

翅の色、大きさが関係しないとすると、翅の薄さか？結局、タテハチョウの仲間が越冬直後になぜ翅を開いて止まるのかは、謎のままである。夏場だって、翅を開いて止まっているのではないと言われてればそれまでである。

いや、待て。チョウに拘るから思考が止まってしまうのかもしれない。冬眠する哺乳類は、秋に多くの食べ物を食べ、脂肪分を体内に蓄え雨風を凌げる穴の中で眠りにつく。両生類や爬虫類は地中、石や倒木の下、水底などの温度があまり下がらない所へ移動し、環境温度の低下に従って体温が低下して冬眠に入る。つまり変温動物である。まさか！チョウも変温動物なのか？知らなかった！更に、体に当たる太陽光の熱によって体温調節をしていて、翅を閉じるのは体が十分に暖かいのでこれ以上体温を上昇させないためであるとあった。やはり、越冬組のタテハチョウが翅を開くのは体温を上げるためだったのだ。

しかし、まだ疑問が残る。キタキチョウは翅を開かない。調べていると、スジボソヤマキチョウは翅を開かず、体を温める時は閉じた翅を傾けて日光を受けるとあった。う～ん、どうだろう？これまで見た限りでは地面に垂直に止まって日光浴をしていた。どちらにしる、シロチョウの仲間はタテハチョウの仲間より低温で活動ができるようである。これは、観察結果と一致する。

因みに、この辺りでもスジボソヤマキチョウやツマグロキチョウも成虫で越冬するが、どちらも希少種である。2023年10月3日、室谷さん宅にツマグロキチョウを見に行かせてもらった。お天気がさほど良くない夕方だったので、ぼつちりカワラケツメイ（食草）に止まっていたのを撮影できた。成虫越冬するとなると、今頃どこかでぶら下がっているのかと想像するのも楽しい。

ともあれ、成虫越冬組のタテハチョウは越冬後、体温調節のために翅を開くが、シロチョウの仲間は開かない。シジミチョウの仲間については情報不足ゆえ不明。これは種による個性ということで収めることにする。

## 6 おわりに

「暑さ寒さも彼岸まで」と言うが、昨日は春分の日。最高気温 11℃ながら、未明の2時と午前11時の気温である。午後からは気温がぐんぐん下がり、15時



頃には小雪が舞った。明くる 21 日の朝は雪景色だった。こう寒暖差が激しくてはやっと越冬から目覚めたのに、チョウたちはどうしているだろうかと気がかりである。通常年（通常という概念が年々怪しく思える）なら、この時期には成虫越冬していたチョウのみならず、卵や幼虫、蛹で越冬していたチョウたちも次のステップに向かって動き始めるのに、「どうしたらいいの？」と困っていやしないだろうか。

卵や蛹といった固定した形態は、冬を越すのに適していると思うが、成虫越冬だけではなく幼虫で冬を越す、例えばベニシジミや多くのタテハチョウの仲間にはどんなメリットがあるのだろうか？変温動物であるから体温維持にさほどのエネルギーはいらないのだろうか、生命維持のためには最低限の栄養分は消費されていく。では、チョウたちはどこに栄養分を蓄えているのだろうか？あの小さな胸と細い胴にか？長く寒い冬をあの細い脚でぶら下がったまま数カ月、改めてキタキチョウの生命力に驚く。いや、これは人間目線だ。哺乳類を基準に考えるからこう思う。案外、チョウの脚にはそういう機能が備わっているのかもしれないと、推測を通り越して想像も通り越して妄想の世界であるが、またそれも面白い。因みに環境温度に適応して夏眠や休眠するチョウもいる。

そう言えば、鍼灸院の先生が言っていた。「塩田さん、動物たちは病気になったり怪我をしたりしたら、じっとうずくまっているでしょ。人間も一緒です。じっと動かずに寝ていることです。」ヒトも生物の一種である。

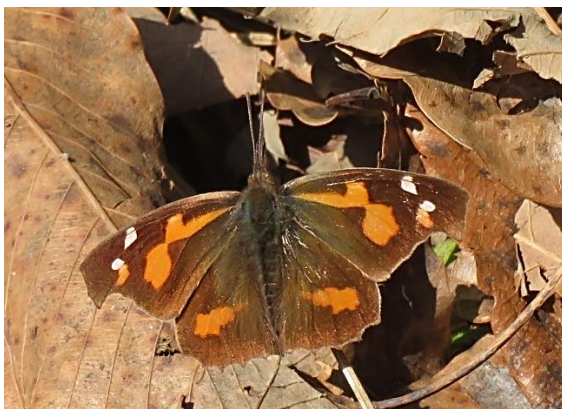


2月11日 越冬中のキタキチョウ

3月11日 目覚めたテングチョウ

3月16日 目覚めたルリタテハ

20240321 記



## クラブ活動

小阪信之

運動が苦手である。群がる事も好きではない。小学生の2年生の9月は出席2日欠席23日とあるので、なんらかの病気を患い長期欠席したようだ。病み上がりで学校に久しぶりに出席したその日に、算数のテストがあり、何を書いて良いのかわからず答案用紙を出した。算数だったので、「解けるまで、何回でも解き直して持って来て下さい。」と先生に言われたが、何を書いて良いかわからず、何回も何回も先生のところまで往復した記憶がある。その為、体育の時間はずっと見学者であった。運動場で学友が体育の授業を受けている間中、校庭からポツンと一人その授業を見ているだけであった。小学生の苦い思い出である。

小学生時代は、体育が苦手でも良かったが、中学生になるとクラブ活動があり、その時何故だか剣道部に入りたいと思った。そのまま剣道部に入っていたら別の人生があったかもしれない。でも、当時の私は内気で、剣道部の扉を叩く勇気はなく、只の帰宅部になっていた。それをどう思ったのか、父親がボーイスカウト活動をするようにしてくれた。そのボーイスカウト活動が三木中学校のクラブ活動であった。社会奉仕クラブと言うクラブで横山先生（通称ゴリマン）がクラブの顧問であり、中学3年間と高校生時代も2年間ぐらいボーイスカウト活動にいそしんだ。その頃は、三木市の交差点には信号がなく、交差点の中心に台を置いてその上に立ち、手信号で誘導したと一つ話で自慢をしている。自分に車が直面している場合は、その車には赤信号を出す。両腕を左右に伸ばすと、体に平行面の車には青信号なので、体の前後を通過していく。腕を上を上げて黄色信号となる。直角に回る時はユックリ手を上げつつ体を回していく。慌てず時間をためていき、急がず動くのが非常に難しかった。

社会奉仕クラブでしたボーイスカウト活動が、中学生時代のクラブ活動であった。

高校生になった。中学時代の友達から声を掛けられ、どこか同じクラブ活動をしようという話になって、文化クラブなら重ならないだろうとのことで、郷土研究クラブを選んだ。文化クラブのはずが、当時の高校時代は埋蔵文化物の発掘が続いて、土方仕事が続く、地下足袋、脚絆で、幅広を振って「就職クラスのクラブやで、文化クラブと違うで！」と軽口をたたきながら、古墳の発掘、三角測量、埋蔵文化物の観察と、楽し



いクラブ活動をしたものだった。

次のクラブ活動は、「三木自然愛好研究会」である。友達の廣田君に電車で出会い、きのこ狩りの話を聞いて、即参加した。小倉先生との出会いである。三木市の旧キャンプ地のキャンプファイヤー広場へ入る道を整備か見回りかで歩いていた方に、車の中から道を尋ねた。「この上です。」

行ってみて驚いた、串刺しにした牛肉、ビール造り講習、薪の火に投げ入れられる濡れ新聞にくるまれた生卵、その横に青竹に注がれた日本酒。本当に宴会だ。そんな楽しい会も、飲酒運転が駄目になって宴会はなくなり、新型コロナウイルスが追い打ちになって、すべて懐かしい思い出になってしまった。

この原稿はクラブ活動について書いたものである。現在、私が行っているクラブ活動は、「三木自然愛好研究会」「三木カスタムナイフギルド」「三木市高齢者大学のパソコンクラブ」この3つであるが、この他に仕事をこなし、家事をしていると、結構忙しいのである。

「三木市高齢者大学のパソコンクラブ」は月2回の講師だ。パソコンのハード部門、パソコン本体、周辺機器、Wi-Fi、LAN等を教えようと始めたのが、いつの間にか分からない事の質問、他の講座の復習、予習、自習の自己啓発時間となり、アメリカンスクールよろしく各自目標を持って取り組んでいると格好良く書いても、実態は三々五々、テンデバラバラ好きな事をしている。講師の私も自分のホームページのメンテナンスをしたり、生徒の携帯電話の疑問に答えたり、正解がない世界なので、本当に遊んでいるみたいだ。

このパソコンクラブの活動で学んだホームページビルダーを用いてのホームページ作りが、もう一つのクラブ活動「三木カスタムナイフギルド」のホームページを開くチャンスを与えてくれた。

ニッチな趣味であるカスタムナイフ作りが、別の仲間を招いてくれている。この三木カスタムナイフギルドの協賛で行っている「オール日本ナイフショー in 神戸」の情報をインターネットにアップしている事で、私のホームページを見に来てくれている人がいる。是非ともカウンターを設置して欲しいと、その要求に応じる事ができたのは、三木自然愛好研究会の池町さんのおかげである。先輩には遠く及ばないが、現在5,000人ぐらいの閲覧者がいる。高齢化の進むカスタムナイフ作りで、この数字が不思議である。月1回の定例会、その議事録のアップ、各個人がカスタムナイフを勝手に作っているのだが、その技術を惜しみなく教えてくれる師匠に先達に仲間達、どこに仲間意識が芽生えるのか、不思議なクラブである。

残念な事に、門外漢であるのが「三木自然愛好研究会」である。花が好きなのわけでもなく、樹木に興味があるわけでもなく、虫たちも好きではない。魚も、鳥も、蝶々も、みんな身近にいて、追っかけまわしたけれど、蛇には気持ちわるがって、蛙は取れるだけとったけれど…そんなことは、昔の子供達には当たり前のことである。

小倉先生や向山さんみたいに少年の心を持ち合わせているわけではない。キノコ汁の言葉にひかれ、初めて参加したときに、永沼さんのビール作りの講座があった。当時私は、自ビールに興味津々であったから食べることに、飲むことに惹かれての参加である。現在でも、ゴキブリよろしく食材の周りをウロウロしている。

自然に対して利用するだけの野外生活（ボーイスカウト活動）から三木自然愛好研究会の活動により少し観点をかえて、オモダカという植物を知り、トノサマガエルの他にダルマガエルを知り、ハッチョウトンボを覚え、キンランがここにあると知る。ショウジョウバカマの群落は凄いで！そんな色んな動植物を知っても、門外漢に変わりはなく、覚える事に必死である。「ナガエツルノゲイトウ」この言いにくい名前が、ブルーギル、ブラックバス、アメリカンザリガニと同様に馴染み深い名前になっていく時代に三木の自然は、どう変わっていくのだろうか。

現在、三木ではアカマツの林はほぼ全滅である。小野では、「アカマツ普請が普通だ！」と言われた時からどれだけ経過しているのだろうか？

現在行っている三木市史の編纂。ここで書かれた自然は、過去はこうだったんだという事になるのか？高校生の時、郷土研究クラブで昔の事を古老に聞くと、それらはみんな美囊郡誌に書いてあるからそれを読めばみんな分かるよと言われた事と同じになるのか？

記録に勝る記憶はないが、その記録された物はどこにあるのか、図書館か？

記憶しなければ、記録は失われる。生まれた時から普通にあった紙による本が、最高の記録媒体とは思われない。

古代メソポタミアでは、土（粘土板）が図書館で保存されていた。つい最近でも記憶媒体は、音源では、レコード盤、録音テープ、MO、CD、USB、と変化し、パソコンの外部記憶装置でも、FD、HD、MO、CD、USB、SSD と変化していくのだ。こんな機械いつまで動くのか？ビデオの記憶媒体でベーターだ VHS だと騒がしかった時代を知っている人は、もう時代おくれなのに。それを知る人もだんだんいなくなる。記録とは何なのだろうか？

自らのクラブ活動を振り返りながら、記録とは媒体を通した個々人の記憶の集大成なのかもしれないと思った。

## コロナ後遺症 その後

塩田 尚子

### 1. はじめに

3年連続して病気について書くことによりかなり迷った。三愛研の会員である以上、やはり自然をテーマに書きたいという思いがあった。

「コロナ後遺症」であろう（「あろう」というのは確定診断を受けていないからである）体調不良と闘いながら、気持ちはふるさと公園に飛んでいた。

昨年度の原稿を書き終えた2023年2月下旬ごろには、来たるべき本格的な春を前に椅子に座って入力をしたり日向ぼっこをしたりするまでに回復していたので、このままよくなるであろう、いや、よくなって欲しいと願っていた。

しかし、ことはそう運ばなかった。高熱と痛みで弱ってしまった身体は、そう簡単には回復してくれない。次から次へと身体のアチコチがサインを出す。体調がよい日もあれば悪い日もある。一日のうちでも体調は上下し、それに伴い心も上下する。2023年の上半期（2～6月）は、1ヶ月の半分が病院通いであった。5つの病院6つの診療科。某病院（血液内科・呼吸器内科）、かかりつけ医院（内科）、最寄りの診療所（泌尿器科）、歯科—2月に奥歯が2本一気に抜けてしまった—、そして一番お世話になった鍼灸院。今にして思えば、お医者様なら何とかしてくれるかと思っていただけのような気がする。それはそれで間違いではなかったと思っているが、いつしか医師や薬は症状や病状を和らげたり治したりする手助けはしてくれるものの、結局は自分の心身は自分で治していくしかないのだらうと思いはじめていた。

お医者様のおかげか、時期が来ていたのか、行きつ戻りつしながら後遺症と思われる症状は少しずつ回復していった。「きっとふるさと公園に行く！」その思いが実現したのは、6月14日の環境体験学習の日のことであった。新型コロナウイルス感染症に罹患してから8ヶ月が経っていた。

### 2. 後遺症 様々

#### （1）間質性肺炎（器質化肺炎）

2023年1月31日、夫に付き添われて3ヶ月ぶりに血液内科を受診した。お気づきの方もあろうが、ステージⅣの血液癌（リンパ腫）の症状を診るためである。前号でも書いたように、その維持療法を2022年11月1日に受けた直後にコロナに感染した。血液検査の結果、炎症反応の指標となるCRP（C反応性たんぱく質）の値は2.55（0～0.3が正常値）、フェリチン（鉄を蓄えるたんぱく質）の値は708.6（6.23～138が正常値）。身体のどこかで炎症が起き

ていることは明らかだったが、血液内科の医師にとっては再発しているかどうかを診るための検査であるから、「たぶんコロナ後遺症でしょう。」と診察は終わり、維持療法は中断されることになった。

2月6日、呼吸器内科でCT検査を受ける。「間質性肺炎を疑う」との所見であったが、コロナ感染から3ヶ月が経っていたため因果関係があるとは言えないということだった。原因を突き止めるためには更に詳しい検査が待っていたが、体力的に無理がある。というより肺生検が怖い。

2月7日の血液検査では、CRP値は更に上昇し3.70。14日、外科でポートを取り外した後、呼吸器内科では器質化肺炎（間質性肺炎の一種で、新型コロナウイルス感染症の後遺症として発症する可能性がある）の可能性と診断？されるが、KL-6という肺疾患のマーカークがぎりぎり500未満であり、肺の聴診でラッセ音という特徴的な音が聴かれなかったため経過観察となった。その後、定期的にレントゲン撮影を行うも、画像でははっきり分からず経過観察が続くことになる。CT検査は放射線を浴びるため頻繁にはできないらしい。

5月9日、CRP値は3.47。フェリチンの値は229.9。フェリチンの値はかなり下がったが、CRP値は3カ月前とほぼ同じである。KL-6の値も441と下がってはいなかった。つまり肺炎症状は改善されていないということだ。

11日、PET検査（主に癌の状態を見るための画像検査）。23日の結果、素人目にも肺の炎症は明らかだった。同病院では呼吸器内科につないでもらえないことは経験上分かっていたので、24日に所見と画像のコピーを持ってかかりつけ医を受診する。「ステロイド治療」という言葉も出たが、かつてほど呼吸自体は苦しくないで、医師と相談して治療は見送った。

ネット検索はずっと続けていた。「指定難病」という言葉が心に刺さる。どうすればよいのか？ただ、不思議なことに、これほど肺に炎症があるにも関わらず、肺活量は同年代の平均値を維持できていた。失くしてしまった肺機能は元に戻らなくても、残っている肺機能を鍛え高めればよいのではないだろうかと考え、ネットに出ていた「呼吸リハビリ」を始める。いろいろな方法があったが、最もよく行ったのが腹式呼吸である。寝ていて、椅子に座って、階段の上り下りで、散歩をしながら。

3か月後の8月1日のCT検査で、なんと肺のすりガラス状の影が消えていた！骨髄浸食までしていたステージIVの癌が入院治療で寛解したことといい、器質化肺炎が完治したことといい、奇跡ではないかと思った。あまりの嬉しさに病院からの帰り道、車を止めて会員の何名かの方に電話を入れた。

今にして思えば、呼吸器内科の医師が積極的に治療を行わなかったことが幸いだったのかもしれない。コロナ感染症のワクチン接種が始まった頃から、それまで副作用と言っていたものが副反応と言われるようになった。副作用と言え

ば薬のせい、副反応と言えれば本人の身体のせいというニュアンスが強まるが、実態は同じである。薬は毒でもあるから、大なり小なり副作用を起こす。ならば、患者の身体状況や意向を踏まえてあえて投薬しないという選択肢もありである。

## (2) 胃腸の不具合

3月に入った。1月はどんどん体重が落ち、煎餅のような身体になっていた。腕のしわしわかさかさに愕然としていたが、この頃になると体重も幾分か増加し始め、息切れも改善してきていたので、少しの散歩と夕食作りを始めていた。と、東条川の河川敷で近所の奥さんに出会った時のこと、私の腕を見て「死にかけの老婆みたいやなあ。」と言われた。腹立ちはなく、「そうかあ、他人から見るとまだそういう状態なんだあ。」と自分の状態を受け止めた。

この頃から、四六時中お腹がごろごろキュルキュル鳴り、お腹がパンパンに張る症状が出始めた。鍼灸院では、お腹に大きなお灸を据えたり、硬くなっている胃腸のガスだまりを小さな木槌でコンコン叩いてガスを散らしたりするなどの治療が行われた。勧められたヨガは3分持続と言われたが、30秒と持たない。池田会員から勧められた「オイルマッサージ」も始めた。オイルなんて塗るとベタベタしないかなあとも思ったが、蒸しタオルで拭き取るまでもなくどんどん肌が吸い込んでいく。

免疫細胞の大半は腸内にあるというから、やはり免疫機能が落ちているのだろうと不安にもなる。腸内環境を整えなければと、かかりつけ医ではミヤBM錠などの整腸剤を処方してもらい、R-1も飲み始めた。ヨーグルトやみそ汁は欠かせない、納豆などの発酵食品も努めて摂取する。

そのおかげか、お腹のごろごろキュルキュルは1ヶ月ほどで治まった。その後も「ここに胃腸がありますよ！」という主張は止めてはくれなかったが、徐々に良くなってきていた。ただ、未だに困るのは、散歩や散策に出るタイミングである。屋外ではトイレがないので、細心の注意を払いながら外出する。勿論、ミヤBM錠他には今もお世話になっている。

## (3) 労作後疲労・自律神経系の機能不全？

3月7日、座っての作業ならできそうだと三愛研のチラシ分け作業に行った。会員の方々は、私の姿を見て驚かれたようだったが、ともかくも三愛研に復帰する第一歩となったことは嬉しかった。無理はしない、できそうなことをして体に少しずつ負荷をかけていくことを心掛け毎日を過ごしていた。

4月になると、我が家も独居の母がお世話になっている民生委員さん宅も米農家であるから、そろそろ忙しくなる。母の身の回りのことをするために、夫と共に週2回実家に出向くようになった。また、何しろ谷間の集落なので、隣接するお宅に迷惑がかからないように、下旬からはハチクなどをタケノコの段階で切り取る作業に赴いた。斜面に座っただけで息が切れる、花粉症もひど

い。「そこに座わるとき。」と夫が言ってくれる。帰宅後は横になるしかない。少し動けば倦怠感がやってくる。あかんわ〜。

5月は寒暖差が激しかった。あの何とも言えない倦怠感は抜けない。休養を取っても睡眠を取っても改善しない疲労感。少し動くと反動が来る。数時間、時には半日横になる日が続いた。ネットで調べると、コロナ後遺症の倦怠感が半年を過ぎると「慢性疲労症候群」になるとかならないとか…。身体の疲労ではなく脳の疲労であるらしく、そうであるならば今度は脳神経外科を受診しなければならぬらしい。もうたくさんだ！これ以上病院に行っても何になる！

しかし、中旬を過ぎた頃には、38℃台の発熱もあり、1日単位で寝込んでしまう。ひどくなると数日布団の中だった。前述したようにCRP値は下がらないままだったので不安は募る。本気で後遺症外来を探さなければ！この頃には、新型コロナウイルス感染症の5類への移行と時を同じくして、厚労省の要請を受けて各都道府県に後遺症外来ができ始めていた。兵庫県のホームページで探すと、加東市には3件上がっていたが、それぞれの病院の専門性はある程度知っていたので、内心「無理やなあ…。」と思った。病院の規模の問題？給付金の問題？もうこれ以上コロナに関わったら病院が回らなくなるとか？よくは分からなかったが、北播磨医療センターやお世話になっている病院の名前は上がっていなかった。勿論、神戸や明石まで出向けば、もっと早い段階から後遺症を専門的に診察治療する病院があることは知っていた。しかし、そういう病院は予約でいっぱいだったし、体力的にも行くこと自体無理だと諦める。

6月は暑さと湿度が応えた。5月よりはましになっていたが、相変わらず半日、1日単位で寝込んでいた。何よりもお天気が下り坂になると、朝は全く起きられない。自律神経系がうまく働いていないのだろうかと考えていたところ、鍼灸院では脚や腕の三里、頭のとっぺん、脚の甲、背骨に沿って鍼が打たれるようになっていた。自律神経のツボだという。

6日に「三光丸」の方が置替え薬の点検に来られ、事情を話すと「高麗人参エキス錠」を薦められる。営業トークに乗せられたとも言えるが、その頃は、一向に良くなっていかない状態に焦っていた。ここでは書けないが5月から別の心配事を抱えるようになり、心身の不調を聴いてもらったのが何よりも嬉しかった。1ヶ月14,000円の出費がこの時は痛いとは思えず、購入を決めた。

9日には6回目のワクチンを接種し、発熱する。後日談であるが、「8月にやっと肺炎の影が消えました。」とかかりつけ医のお父さんである医師に話したところ、「ワクチンを打ったからではないですか？」と言われた。確かにネットにも、後遺症にワクチンが効くということは出ていたけれど、半信半疑である。ワクチン接種によって体内に残っていたコロナウイルスが減ったと考えればその通りなのだが、そもそも私の場合、ワクチン接種をしてもコロナウイル

スに対してほぼ抗体ができないタイプの癌である。神戸新聞に「B細胞リンパ系腫瘍に使用される抗CD20抗体治療薬(リツキシマブ、オビヌツズマブ)を実施した患者は、投与終了後9ヶ月までは抗体獲得が困難であることが推測され…」と掲載されていたのではないかと推測されている。いや、待て待て！推測に過ぎない。個人差がある。いいように考えれば、コロナに感染したおかげで抗癌剤投与が中止になり、ワクチンが効くようになったということかもしれない。医療のことは分からない。もとより人間一人ひとりの身体は違うのだから、何がどうなったのかは不明ながら再発への不安よりも倦怠感が軽減したことの方が嬉しかった。

話は6月に戻る。14日には豊地小学校の環境体験学習に参加した。どこかに突破口を見つけたかと言えば、大袈裟に聞こえるだろうか？7カ月ぶりのふるさと公園には、モノサシトンボ・キイトトンボ・カキラン・ササユリ・オカトラノオ・イシモチソウ…自然と子供たちに触れ、何だか元気が戻ったような気になったものの、一時のことだった。

忘れもしない6月24日、鍼灸院での施術中、背中と胸が激しく痛み出し動けなくなった。仰向けになったまま何とか呼吸をしているしかない。脈が弱く、生命力が落ちているという。逆戻りだ！

7月に入った。暑い！熱帯夜が明けると朝から気温は30℃、日中には35℃前後の日が続くようになった。しかしながら、寒暖差が少なく暑さが一定しているという状態は、私にとっては身体の状態が安定してくれることに繋がる。2日には定例観察会、5日には環境体験学習、16日には植生調査に参加することができた。動植物が最も躍動するこの時期、そのエネルギーにあやかりたいものだ。思い起こすと、どうやらこの頃から体調は徐々に上向きになっていったようで7月・8月の通院回数は10回と、月の3分の1になっていた。

#### (4) 花粉症・黄砂・PM2.5…

4月中旬から目のかゆみ、鼻づまり、咳、そして鼻水が出始めた。紛れもなく花粉症の症状だ。私は、イネ科とブタクサにアレルギー反応を起こす。40代半ばに発症して以来、いろいろな市販薬を試し、最後に行き着いたのは「アレグラ」だった。即効性はないが、口の中が乾く(鼻水は止まるが、唾液の分泌も止まるのは職業柄よくない)ことが避けられるからだ。

が、今回は効き目が悪い。鼻水がだらだらと流れ続けるので、すぐにティッシュペーパーの山はできるし、鼻の穴周辺はかびかびである。後遺症で寝込むようになってからは自室に空気清浄機を入れてもらっていたのだが、PM2.5にも反応していた。黄砂もひどかったので、3者相まつの症状だったのかもしれない。鍼灸院に行ってもティッシュの箱を頭の横に置いていた。

5月のある日のこと、鍼灸院の女性スタッフからかかりつけ医で診てもら

とよいとアドバイスを受ける。早速受診したところ、飲み薬、目薬、鼻スプレーが処方された。嘘だろうと思うほど、あっさりと症状が改善した。この時ばかりは、薬の威力を痛感せずにはいられなかった。

#### (5) 泌尿器の違和感

6月中旬、泌尿器（尿道）に違和感を覚え、17日に最寄りの診療所の泌尿器科を受診した。残尿感も排泄痛もなかったが、「膀胱炎」であろうということ、一般的に大腸菌に効く抗生物質が処方された。全く効き目はなかったが飲み続けるしかない。5日後医師から「塩田さん、その薬は効いていません。違う薬を出すのですぐに来てください。」と電話が入った。分かっている！培養検査の結果「緑膿菌 4+」に感染しているという。空気中などどこにでもいる弱毒性の細菌なので、健康体の人は感染しないらしい。効く抗生物質は数種類しかなく、そのうちの 하나가処方された。効かない！一週間後、別の抗生物質を試すが効かない！漢方薬や塗り薬で様子を見るも効かない。ついに点滴で抗生物質を入れる。「これで効くはずです！」ダメだった。8月1日の培養検査では、「エンテロコッカスフェカーリス 3+」に感染していることが判明した。いつの間にか緑膿菌がこのややこし名前の細菌に取って代わられていたのだから、緑膿菌に効くはずの薬を飲んでいても効かないはずである。何故こういうことになったかは定かではないが、培養検査は保険の関係なのかそう頻繁にはできないらしい。また違う抗生物質を処方されて効かなったら？抗生物質に対しての耐性菌になってしまったら、本当にひどくなった時に効く薬がなくなってしまう。この細菌も弱い菌であるから我慢できそうなら薬は飲まない方がいいのではないかなどと考えて、結局薬はもらわずに病院を後にした。

余談ではあるが、妙なところに感心してしまった。培養検査では必ず「同定」という言葉が使われるのだ。そうなのか！動物であれ植物であれ「あなたは何者？」に答えが出た時に「同定」と言うのだなあ。では、生物ではないとされているウイルスには同定という言葉は使うのであろうか？

18日、泌尿器の違和感は続いていたが、この日三木山森林公園で開かれた「見て！見て！この虫なあに？」のイベントに参加した。連日の暑さとお盆の諸々のことで疲れていたのかもしれない。朝から体調は思わしくなく、芝生広場を一周するのに何度も休憩をする始末だった。子供たちやその保護者が捕獲して来た昆虫の同定も終わった頃には座り込んでしまった。閉会を待つすぐに帰宅して横になる。尿道が焼けるように痛かった。

9月になっても違和感は続いていたので、15日に受診し培養検査に出してもらおうと、今度はコアグラーゼ陰性ブドウ球菌とクレブジェラオキシトカという2つ菌が確認された。この時の医師の言葉がよかった。「塩田さん、尿道は菌に感染しにくいところです。尿道に雑草が生えていて、除草剤で枯らしてもま



た別の雑草が生えてくる、その繰り返しです。自分の免疫力を高める（元に戻す）しかありません。で、お薬はどうされますか？」

3日前の12日、血液検査でやっとフェリチンが正常値に戻っていた。体内の炎症反応がなくなったということである。ホッとしたのもつかの間、いつものように血液内科の医師が言った。「あなたは抗体の一つが働いていません。」

「それはどれですか？」「IgA抗体です。」「でも、数値は出ていますし、この数値はいつも低いですが…」「それはあなたに使っていた抗癌剤の影響です。人より低いので働きが悪いということです。」云々。IgA抗体は、粘膜にくっつく細菌をやっつけてくれる抗体である。なるほどなあ、それで尿道に菌がくっつき続けるのかと妙に納得した。「あなたの場合戻りません！」は常套文句である。好意的に解釈すれば「気を付けなさいよ。」ということなのだろうが、人の身体は数値だけでは測れない。平均値とか範囲とかは医療の指針で、個々人に必ずしも当てはまるものではないだろう。ならば、抗体量を増やすためには、母体である白血球を増やせばよいのではないか…？で、どうやって？

ともあれ、泌尿器科での薬は断った。よく寝る、栄養バランスの良い食事を心がける、散歩など適度の運動をするといった当たり前のことを意識的に行うしかない。鼻や口などの粘膜から入る細菌やウイルスにも気を付けなければならないので、「うがい・消毒・マスク・人込みは避ける」は欠かせない。

この時の医師の話が心のどこかにひっかかっていたのだろうか、今は雑草に興味を持っている。雑草はなかなかの知患者である。むやみに抵抗しないしたかさと言えよいのかもしれない。何よりも人間の思い通りにならないところに心惹かれる。

#### (6) 回復に向かって

とにかく暑い夏だった。8月から再開した散策も朝夕の比較的涼しいときにしかできない。ある時、室谷会員から三木市史の執筆に必要なのか、ふるさと公園のチョウとトンボを教えて欲しいと依頼が来た。私が確認できていない数種も含め、チョウは60種近く、トンボは40種程度生息（飛来種もいる）している。そのデータを整理している時、ふと考え付いた。どうせ暇なのだから画像と簡単な説明をつけて整理しファイリングすれば、環境体験学習やひよっとして来園者への説明に役立つかもしれない。画像選定は意外と早くできた。過去の「おもだか」の執筆や「野のこよみ」の作成で、どんな画像があるかはある程度頭に残っていたからである。更に「直翅目」に着手したが、これには手こずった。2019年に池町会員の提案でブログにアップしていただいていたのだが、2023年になると撮影画像も増えている上、若干の知識も増えている。今までの間違いがどんどん見つかる。何より直翅目（バッタやキリギリスなどの仲間）は脱皮回数が多いので、何齢かによって随分と姿かたちが違う。緑型と褐

色型でも混乱する。因みにチョウの幼虫も図鑑はたいてい終齢幼虫なので同定に困る。その後「爬虫類・両生類」も作成したが、これは種が少ない上、遭遇頻度も低いため画像自体も少なく意外とすぐにできた。ふるさと公園の倉庫に置いているので、見ていただく機会があれば幸いである。

8月の連絡会で「ふるさと野のこよみ」の作成に今年も関わることになった。編集は主に米村会員が引き受けて下さったが、日がない！藤田会員にも画像を依頼し、突貫工事のように作業は進み、8月下旬にはレイアウトまで漕ぎつける。今から思えば、何らかの仕事を下さったおかげで、幾ばくかは体調不良に向き合わないで済んだとも言える。

9月は、まだまだ夏の盛りだったが、体調は総じて上向いてきていた。10月になると朝晩が急に冷え込むようになり、「この気候はよろしくないなあ。」と5月頃のことを思い出し、午後の2～3時間は努めて横になって過ごした。11月は、日中の気温が20℃を下回る日が増え、爽やかな秋晴れの日が続くようになった。お天気が安定すれば体調の波も治まってくる。3日、4年ぶりに「里山まつり」が通常開催され、スタッフとして参加することができた。新型コロナウイルス感染症に罹患してから1年が経っていた。

まずまず体調が回復した昨年11月から今年1月にかけては、冬場ながら週1回のペースでふるさと公園に入っていた。全面草刈り、全面畔焼きがなされたふるさと公園に何があるのか。全ての生き物たちが生命活動を停止してしまったように見える里山に、生き物たちは確かに息づいている。ヒトとしてその気配を感じながら、守池1号、2号の縁に佇みボ～と園内を見ているときに至福の時だったのかもしれない。風が冷たい日はそれなりに、暖かい日もそれなりに、快晴の日も曇天の日も「いいなあ」と思いながら歩く。時たま、人として気ままにシャッターを切る。そして、人間の社会に戻っていく。

そんな穏やかな日々が続く（はずだ）と思っていた。

#### (7) 口腔感染症・歯根膜炎

し・か・し、1月24日の最強寒波の到来と共にまたあの倦怠感がやってきた。本格的な菜種梅雨を前にお天気が不安定になった頃には、お腹はぐるぐるキュルキュル、泌尿器の違和感もある。またしても日に数時間、半日と横になる日が続いた2月上旬、今度は「口腔感染症」になってしまった。遠因は、1年前に抜けた2本の奥歯か？感染症には気をつけ過ぎるほど気を付けていたつもりだったのに、「またか…。これまたきつい！炎症に鎮痛剤（バファリン）が全く効かない。食べられない、眠れない。激痛に耐えながら涙がこぼれる。

7日、歯科の紹介状を持って口腔外科へ向かい、点滴で抗生物質を入れてもらうが、激痛は治まらない。処方された一番強いと言われた頓服も効かない。細菌と白血球と抗生物質が三つ巴で戦っている姿が浮かぶ。血液内科の医師の

「あなたの場合、抗体の一つが働いていません。」という言葉が頭をよぎる。

3日間朝夕2回の通院治療でやっと痛みから解放された。その後、飲み薬で炎症は落ち着き、入院して全身麻酔による抜歯となった。

27日、入院前に主治医から説明を受ける。先日のレントゲン画像ではなく、CT画像をクリックしながら「歯になりそこなった歯が…ここ（上顎）の中にあって…その周りに空洞ができて…炎症を起こしています。」画像を回転させながら「この歯は2つに割れていますね、この歯は鼻に近いので…あっ、ここにも小さいけれどもあります…」と説明が続く。CT画像はなかなかえぐいなあとか思いながら、隣にいる夫の顔をちらっと見ると、3年前に癌の治療で入院する前に説明を受けたときと同じように悲壮感が漂っていた。これは、まずい！「入院、全身麻酔、3本」の言葉に何日か前からビビッっていたのが嘘のように心が定まった。説明は更に続く。「この歯は神経に近いので骨を削って…親不知も埋まっていますね、下あごに食い込んでいます…」と、更に抜きましょうという気配を感じる。親不知は以前に2本抜いていた。2人の医師が2時間がかかりで抜歯した後、出血が止まらず翌日は仕事を休まざるを得なかったという苦い思い出がある。「いえ、親不知はそのままにしておいて下さい。」と即答した。これは3本ではすまないなあと覚悟を決め、手術時のリスクの説明が終わった後訊ねた。「それで、何本抜くのですか？」「8本です。」

何故一度に8本も抜くことに同意したのか。つまりは、上顎に埋伏していた過剰歯の周りに徐々に嚢胞ができ、それに口腔内の細菌が感染し、永久歯の歯根にも影響を及ぼしているということなので、放置すればいずれまた感染症になる可能性があるからである。感染症の恐ろしさは身に染みていた。

過剰歯というのは、ヒトが胚から胎児に成長する段階で歯胚が通常より多くできてしまうことによって起こるという。頻繁に起こることでもなさそうだがそこそこあるらしい。そうか、歯が多く生えていたのか…生物の発生とは不思議なもんだと感心している場合ではない。大抵は、幼少期に生え方がおかしいことで気づかれるか大人になっても歯科でのレントゲン撮影で見つかるらしいのだが、何故今まで見つからなかったのか？歯並びは悪くなかったから、完全に埋伏していて悪影響がなかったために放置されていたのかもしれない。

明るる28日の手術日、何人かの看護師さんに「付き添いの方は？」と訊かれる。「全身麻酔の方には大抵付き添われます。」とのことだった。何しろ人生7回目の組板の鯉であるから、夫には「付き添わんでええで。」と断っていた。そもそも、付き添いとは患者の不安を和らげるためのものであろう。全身麻酔では自発呼吸が止まるから、医療サイドからすれば安全を期してということだろうが、付き添われると付き添う方の不安がこちらに感染するではないか！

2月4日の定例観察会以降、三愛研の活動は休止となってしまった。

### 3. おわりに

昨年の「おもだか」に、後遺症は長引くと半年、1~2年になる人もいるという書いた。まさか自分がそれに当てはまるとは思ってもよらなかった。

イエール大学岩崎明子教授の仮説によると、コロナ後遺症が長引くのは

- ① 初期症状後も残ったウイルスや断片が長期にわたり炎症反応を起こすから
- ② 免疫が自分の身体を攻撃するから
- ③ 感染でダメージを受けた臓器の修復が長引いているから
- ④ 以前から体内に存在するウイルス（ヘルペスウイルスなど）が再活性化するから

とある。今なお、感染症の研究者や医師が後遺症の原因を突き止めようと日夜奮闘されているのであろうが、今は対処療法に頼るしかない。

新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同じ第5類になってからは、テレビや新聞などのメディアが取り上げることはめっきり減った。また、ウイルスも宿主である人間を殺してしまっただけでは元も子もないから、変異を繰り返しながら弱毒化していることだろう。さほど恐れることはないのかもしれない。しかし、感染からの1年5ヶ月を思い起こすと、表立たないだけで今尚たくさんの方が後遺症に苦しんでおられることは想像に難しくない。ロシアからの攻撃で戦場と化したウクライナの地で、ハマスへの報復という大義名分でイスラエルから攻撃されているガザ地区で、今年元日に起きた能登半島地震の被災地でもコロナ感染症は広まっているに違いない。恵まれた日常生活を送れている自分でもこの有様である。劣悪な生活環境なら命の危機、死に直結する。

この1年間、たくさんの本を読みいろいろと思考した。人間以外の生き物は、ただそこに存在しそこで生き抜くだけだ。無用に他者を攻撃することもない。人間とはつくづく厄介な生き物だなあ…とか、生態系や気候変動は臨界点に近づいていると言われるが、核が使われな限り人類が滅びても地球自体は大丈夫だろうなあ…とか。因みに今読んでいる本は「人間対コロナ 神戸市立医療センター中央市民病院の3年」である。

一個人としては、この1年間会員の方々からメールや電話、時にはふるさと公園の生き物の画像を送っていただき、何度も何度も折れそうになる心を励ましてもらっていた。そのおかげで、三愛研に復帰する、ふるさと公園に行くという思いが途切れずに済んだことに感謝申し上げます。

ともあれ「三愛研」に復帰はできた。生き物たちが本格的に活動を始める啓蟄を前に、今年度は作業やイベントにコンスタントに参加できればいいなあ…環境保全にもう少し関わってみたい…いや、欲を出してはいけない。人間以外の生き物は「欲」などとは無縁だと自らを戒める。

# 移動手段が歩く事だった時代

小阪信之

## 1 太閤道雑感

三木自然愛好研究会の会員である室谷さんの呼びかけに応じて、太閤道を2024年1月15日に歩いた。高校生のクラブ活動(郷土研究クラブ)で歩いた事と道が広いと感じた事だけが記憶にあって、入口なんかは全然覚えていなかった。

駐車場に10時30分集合。総勢12名、室谷さんを先達に与呂木から歩き出す。さすが三木自然愛好研究会のメンバーだ。早々に塩田さんが、越冬中の去年大発生したカメムシ(今回はグリーン色)を発見して披露する。山を登るのだから、先ず坂道が出てくる。「ゆっくり歩いてください。」の声がかかるが、誰も聞かずにマイペースで進んでいく。12人の隊列が長く伸びだしたその頃、やっと檜台上の土盛りがみえてくる。それから平井山ノ上付城跡と主郭と考えられる場所に木造で作られた現代の物見台が現れた。朽ちて登る事は出来ない。残念さを胸に、周りを見ると開かれた状態なので、西南方向に上の丸がよく見える。本丸、二の丸、鷹の巣とりでと順序よく並んでいる。空から見ることが出来ない時代、山の上からやっと見られる景色である。広さが分かりにくく、縄張りを知るのが難しい城と思われた。景色を楽しめるのはここまでで、後は落ち葉で葺かれた道をヒタスラ歩いて行く。「このあたりは、道が崩れているから」「ここは分かれ道だから、こっち側を歩いて下さい」の声に耳を傾けながら歩いた。気がつくと、急ごしらえの階段状になった所にでた。室谷さんと渡瀬さんが、危険だからと道を直して下さったところである。コワゴワ進むと村の道に出た。そこは、安福田の地であった。村の道を安福田のバス停にまで歩いて行く。

安福田のバス停で安福田の地名の由来を読んだ。先にアブタと言う場所があり、安福田の字を当てたと言うのが通常である。北海道のオシャ

マンベと言う発音に対して、長万部の文字を当てた。オーストラリアでもジュンダラップという発音にたいして、joondalup の文字を当てている。これが当たり前だ。しかし安福田は安福と田がひっついて安福田となり、それをあえてアブタと読んでいる。高校生時代の私は、これを面白がって、友達の安福君をあえてアブと呼んでいた。こんな事も思い出したのだった。不思議な名前の付け方だ。それから安福田の八幡神社へ歩いて行く。秀吉が先勝を祈願した道中である。そこから引き返して、当時の豪族の今井家へ足を向ける。そして、もう一つの竹中半兵衛の墓に足を伸ばした。今井家の墓所を横目に睨みながら、急な坂道を歩いて行く。ここでも三木自然愛好研究会のメンバーである池田さんが、成虫で越冬中の黄色のキタキチョウを発見。まさに、三木自然愛好研究会魂である。それからしばらく歩いたところの寺で昼食タイムとなった。わずかの休息の後、与呂木の出発点を目指して、再度太閤道の山中を歩いて行く。帰りは少し、ショートカットして道を進む。無事出発点に到着し、何気なくスマートウォッチみだが、10,000歩にはなっていなかった。

まだ午後2時前だったと記憶しているが、その後のお茶の時間が道中の辛さを忘れさせてくれた。

## 2 歩く為の道

山の尾根が別の地域の入口に見えたのは、私だけなのか？

三木の盆地を阿蘇の外輪山よろしく低い山が取り巻いている。見た目には外界をさえぎっているようであるが、太閤道を歩いてみて、実はこの山が外界へ導く抜け道である事に気がついた。会員の清地さんが増田から井上の「こさる」まで酒を飲みに通った道。家内のおじいさんが淡河から荻谷に通った道。当人達にとっては当たり前の道だが、現代の車社会においては車が通れない道は道ではなく、人が歩いて良いのは歩道だけか？

それとも土手の上。河川敷。あぜ道どれも全て道ではない。だがこんな処も歩かなくなった。少し前からカワガキでお世話になっている御坂神社の下の河原に降りていく道。沈下橋を渡って対岸へと行く道。子供

の川遊びぐらいにしか使わなくなっている道。これらが本来の道なのに。

### 3 ハイキング

オリエンテーリングで公認コース（パーマネントコース）を100キロ以上歩いたことがある。勿論達成証もバッチも持っている。家内が厳しく管理して、オリエンテーリング協会に郵送して、公認された達成証を集めていたから。地図を片手に野山でスポットを探していくゲームである。

長男が学校で地図の問題を解けなかった事が始まりだった。なんで地図が分からないのだ。それから祭日ごとに家族全員で朝早く起きて、おにぎりを握って、歩きはじめる。地図を参考に近くのパーマネントコースの場所へ行き、その近隣の店等で購入した地図に、マスター地図を見ながら注意深く書き写す。大概の地図は二万五千分の1の地図である。その地図に1センチの○を写す。実際は1センチ×25,000、つまり二百五十メートルの範囲である。写すときにちょっとでも間違えると、もっと広い範囲を探さなければならない。そのほかに高低差が加わる。五メートル以下の高低差は地図上の表現方法がない。また、細い村道は総てが書かれている訳ではないので、新しい道はこっちと誘うが、古い道は静かに佇んでいて、いったいどっちが書かれているのか？誰が分かるというのか？歩いて目的地に到着しないことがほとんどである。

でも、楽しい時間だった。私はモーレツ社員時代にサラリーマン生活を送ったので、こんなことがなければ子供達と話す時間がとれなかっただろう。家内に全てを任せて、当時の当たり前のサラリーマン生活で終わっていただろう。家内が乳飲み子をおんぶで連れて行くのは、当たり前と思っていた。家族でキャンプに行ったときも、全て家内まかせである。今、家内がリュウマチと糖尿病に冒され、台所に立てなくなったのも、無理をさせた私にも十分責任がある。

「その健やかなときも、病めるときも、これを愛しこれを慈しみ…」結婚式に誓った言葉が、今再びわたしに語りかける。

人生は生活であり、生活が人生である。

## ホソバヘラオモダカとヘラオモダカの違い

丸岡道行

ホソバヘラオモダカ (*Alisma canaliculatum* A. Br. et Bouch. var. *harimense* Makino) は三木市志染町で最初に見つかり牧野富太郎博士が「シジミヘラオモダカ」と名付けたオモダカ科の植物で、その経緯については小倉滋先生によって「NATURE BOOK 三木の自然」2007年に詳しく書かれている。私は地元に住んでいながらその詳しい形態や生態について調べたことがなかったため、母種であるヘラオモダカと比較することで再確認してみることにした。

1. 2022年に三木市とその近辺のヘラオモダカ X・Y の2地点・ホソバヘラオモダカ A・B・C の3地点の自生地の群落の株と、それぞれの1株ずつ計5株を鉢で栽培して観察した。鉢植えには小ぶりだが花を咲かせそうな同程度の大きさの株を選び、鉢底を水に浸らせた状態で栽培した。

### a) 生育場所の違い

ヘラオモダカ・・・農水路や道路の側溝・廃棄された池の湿地・ため池畔等で、農業や人の生活がやや影響している場所に生えている。(図1)

ホソバヘラオモダカ・・・湿地や沼地・谷水が注ぎこむ山際の池畔・山中にある池畔などの貧栄養な湿地に生えている。(図2)

○ホソバヘラオモダカの方がより貧栄養な所に生えている。山際にあるため池畔ならどちらの種も生育が可能と思われるが、一緒に生えているのは見えない。

### b) 葉の幅・長さの違い (鉢に植えて開花後の成長した葉を比較)

ヘラオモダカ・・・葉の幅 1.9 cm : 葉の長さ 26.5 cm = 1 : 14

ホソバヘラオモダカ・・・葉の幅 0.7 cm : 葉の長さ 22.5 cm = 1 : 32

生育地に生えている株の葉を比較した場合は、

ヘラオモダカ・・・葉の幅 3.6 cm : 葉の長さ 52.5 cm = 1 : 15

ホソバヘラオモダカ・・・葉の幅 1.5 cm : 葉の長さ 46.2 cm = 1 : 31

○鉢植えにするとかなり矮小化して葉の幅・長さは小さくなるが、その比は自生地で観察したのとはあまり変わらない。ただしホソバヘラオモダカでもB地点の貧栄養の深い泥沼地に生えている場合は葉があまり成長できずにずんぐりとした形で、幅：長さの比の値が1：14と小さくなり環境による変異が大きかった。また花茎が出るよりも前に出る葉では幅が広くて長さが短くヘラオモダカの葉の形によく似ていた。花茎が出始めるころになってから



細長い葉が出るように思われるので再度観察してみたい。

c) 花茎の姿の違いを花が終わったところに真上から見た花茎の広がりや花茎の長さについて比較した。(図 3)

ヘラオモダカ・・・横幅 50.0 cm : 花茎の長さ 54.5 cm = 1 : 1.1

ホソバヘラオモダカ・・・横幅 34.5 cm : 花茎の長さ 51.0 cm = 1 : 1.6

自生地の株では、

ヘラオモダカ・・・横幅 121 cm : 花茎の長さ 140.5 cm = 1 : 1.16

ホソバヘラオモダカ・・・横幅 62 cm : 花茎の長さ 132.2 = 1 : 2.15

○花茎の姿も葉と同様にホソバヘラオモダカの方が縦に長いという傾向があった。ただし自生地での観察では周囲の環境による変異が大きかった。また最下位の花序はホソバヘラオモダカの方が低い位置から出ることが多いようであったので再度観察して確かめてみたい。

d) 開花時刻の違い。1 つ目の蕾が開き始めた時を開花初めとし、その日に咲く蕾の内の 3 分の 1 ほどの花弁が水平に開いた時を開花完了とした。(7 月 17 日は晴れ時々曇り、気温 27 度。7 月 24 日は晴れ、気温 32 度。)

ヘラオモダカ(鉢植え株)

7 月 17 日開花初め 10 時 50 分。開花完了 11 時 15 分。

7 月 24 日開花初め 10 時 34 分。開花完了 10 時 57 分。

ホソバヘラオモダカ(鉢植え株)

7 月 17 日開花初め 11 時 54 分。開花完了 12 時 49 分。

7 月 24 日開花初め 12 時 8 分。開花完了 12 時 27 分。

○同じ株であっても日のよって時刻に多少の変動はあるが、ホソバヘラオモダカの方が 90 分ほど遅れて開花した。2022 年の数回の観察ではいつもヘラオモダカは午前中に開花が完了し、ホソバヘラオモダカの開花完了は午後になった。自生地でも数回観察したが天候や生育場所の日の当たり具合が影響してもほぼ同様の傾向があった。

7 月 25 日の自生地での観察(晴れ時々曇り、気温 32 度)では、

ヘラオモダカ：開花初め 10 時 44 分、開花完了 11 時 14 分。

ホソバヘラオモダカ：開花初め 11 時 55 分、開花完了 12 時 17 分。

e) 開花初日の日の比較(鉢植え株)

ヘラオモダカ・・・7 月 9 日

ホソバヘラオモダカ・・・6 月 24 日

○鉢植えではホソバヘラオモダカの方が 2 週間ほど早く開花したが各 1 株だけの観察であったので両種間に差異があるとは言い切れない。また自生地に生えていて開花日をピンポイントで特定することは難しく、同じ自生地内でも生えている場所による環境の違いはかなり大きかった。

f) 花卉の色と葯の色の比較 (図 4)

2022 年には 2 地点のヘラオモダカと 3 地点のホソバヘラオモダカの自生地とその鉢植え株を観察したが、いずれのヘラオモダカも花卉の色は白で、ホソバヘラオモダカでは花卉の先が薄く紅色を帯びていた。葯の色はどちらの種類も濃淡の違いがあるが黄～褐色で、A 地点の自生地で見つめた 1 株のホソバヘラオモダカだけが赤みを帯びていた。

観察した株数が少ないのでヘラオモダカの花弁が白で葯が黄～褐色、ホソバヘラオモダカの花弁が紅色を帯びて葯が赤色であるとは言い切れない。花卉の色や葯の色では両種の区別はできないのではないかという観察例もあると聞いている。

2. 2023 年におこなった追加観察では前年と同じヘラオモダカ 2 地点・ホソバヘラオモダカ 3 地点の生育地の株を、それぞれ 3 株ずつ計 15 株をプランタで栽培して観察した。

a) ホソバヘラオモダカの開花完了時刻のばらつき

ほとんどのホソバヘラオモダカの株では開花完了の時刻は 12 時 10 分～13 時 30 分の間であり、花がほぼ閉じるのは 16 時 30 分～17 時 15 分の間であった。しかし A 地点の 1 株のホソバヘラオモダカだけはいつも開花完了が 14 時 30 分前後と非常に遅く、花がほぼ閉じるのは 19 時 20 分～20 時 30 分の間でこれも非常に遅かった。この 1 株だけは葯の色が赤っぽかった。

一方 B 地点のホソバヘラオモダカの 1 株は開花完了が 12 時 10 分ごろと他の株よりもやや早く、日によっては 11 時 30 分に開花が完了した。

○以上の結果からホソバヘラオモダカは個体によって開花時刻にかなりの差があり、個体間の遺伝的な変異が大きいのではないかと推測される。

b) ホソバヘラオモダカとヘラオモダカの種子の形 (図 5・図 6)

ルーペで種子を観察するとはっきりとした違いがあることが分かった。

ヘラオモダカ・・・ふっくらとした丸みを帯びた形

ホソバヘラオモダカ・・・先の尖ったやや半月に近い形

○2 地点のヘラオモダカと 3 地点のホソバヘラオモダカの数株ずつを観察したが種子の形はいずれの株でも上記の通りであった。この形質は生育地の環境には影響を受けないと考えられるので、この種子の形の違いが一番はっきりとした両種の識別点ではないかと思われる。

3. まとめ

ホソバヘラオモダカとヘラオモダカの特徴の違いについていくらか確かめることができたが、観察した株数が少なかったので確実なことは言えないと思っている。特に自生地での観察では深い泥沼地のために近づけない株が多く、各個体の周囲の草や岸に生える樹木による日当たりの具合などの違いな

どの環境による影響が大きくて、個体毎の特性を正確に調べることは極めて難しかった。2年間の観察の中で新たな疑問点も出てきたので、今年も引き続き観察したいと思っている。



図1：ため池岸のヘラオモダカ



図2：沼地のホソバヘラオモダカ

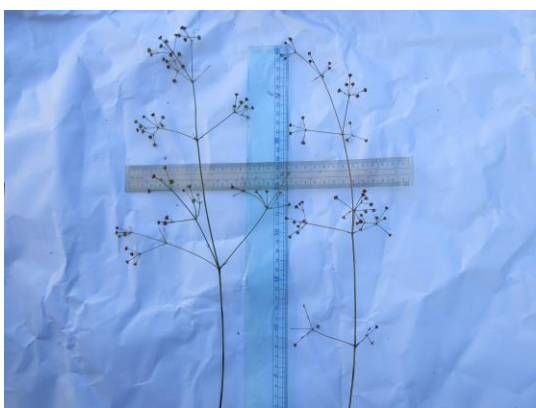


図3：花茎の姿（左：ヘラ、右：ホソバ）



図4：ホソバヘラオモダカの花



図5：ヘラオモダカの種子



図6：ホソバヘラオモダカの種子

## わたしのたどった道（5）

永 幡 嘉 之

世界のブナを追う

30代の頃は、「ライフワークは2つ」と答えていた。ひとつは極東ロシアに通うこと、もうひとつは世界のブナ全種の林を見て歩くこと。今ではそこからさらに派生して、「里山の姿を描き出すこと」という大きな柱ができていて、20代から約30年にわたって、私はこの2つに熱中してきた。

播州で育った私にとって、ブナ林への興味とは、今にして思えば生物の豊かさへの憧れだったのだろう。氷ノ山や扇ノ山のブナ林に行けば、身の回りにはいなかった様々なカミキリムシがたくさんいたし、ミドリシジミの仲間も豊富にいた。本来は生物の多様性は温暖な地方に行けば高くなるのだが、そこは乾燥した播州の特殊性。三木で育った私にしてみれば、より山の高いところ、より北国に行けば虫はたくさんいたのだった。それに、但馬では氷ノ山や扇ノ山ばかりでなく、標高の低い久斗山などにもブナ林が存在することを確かめて回り、「ブナ林の虫たち」を意識して調べていた。そうしたブナ林への憧れについては、2回目の文章の中でも少し触れた。

1993年には但馬出身で台湾に通っておられた谷角素彦氏がタイワンブナの森にたどりつき、そこでブナだけを食べるフジミドリシジミの仲間、タニカドミドリシジミを発見された。谷角氏は図鑑の編集をしておられた保育社を離れてフリーの編集者をされていた頃で、学生時代から親しくしていただいていた。やはりブナの仲間が自生している韓国鬱陵島にも同じ仲間が生息している可能性があると考え、大学院生だった1997年の盛夏には友人とともに、タケシマブナというブナを求めて渡島している。ただ、そこにはフジミドリシジミの仲間は生息していないようだった。

信州や東北のブナ林でもそれなりの時間を過ごすなかで、必然的に海外のブナにも興味が広がっていった。世界にはブナの仲間が10種ほどあるということは、専門書の多くに書いてある。しかし、どのような林を作っているかという林の組成については多少書かれているものの、そこにどのような生きものが暮らしているのかというような、私が知りたい情報はほとんど書かれていなかったし、そもそも写真もほとんどなく、どのような葉をしているのかも分からなかった。

1999年の12月には博物館の仕事がかなり減っており、東京の昆虫標本商でアルバイトをしていたが、その用務で出かけたメキシコで、現地在住の日系人の方に無理を言ってメキシコブナの自生するあたりに寄ってもらった。メキシ

コブナは、当時は文献にも自生地がほとんど載っておらず、日本人が自生地を訪ねたという話も聞かなかった。現地の人に尋ねまわって対面できたメキシコブナは、晩秋のはずなのに緑色の葉を残したままで、色づくわけでもなく 1 枚ずつばらばらに散っていた。確かに落葉樹なのだが、南国なので色づくことも、落葉することもできない姿に衝撃を受けた。

これが、世界のブナを自分の眼で見たいという欲求に大きく火をつけた。翌 2000 年 1 月にはその第一歩として台湾に飛んだ。

### 手探りの旅

インターネットもなかった時代だ。まずは、それぞれのブナの自生地をどのように探し当てるか。ブナの仲間は北半球に点々と分布しており、日本の他には台湾、韓国鬱陵島に各 1 種、そして中国南部には複数種があるという。しかし、朝鮮半島やロシアには分布していない。大陸の西側ではヨーロッパから中近東にかけて分布しており、アメリカとメキシコからも知られている。

常勤アルバイトをしていた博物館では標本の整理をすごい勢いで進めた結果、仕事がなくなり、2 年目からは時間が自由に使えるようになっていた。同時に、多少のアルバイトをすれば航空券を買って海外に飛べることも、すでに覚えていた。

ブナの自生地に関する断片的な情報を、主に昆虫の関係者から聞いて尋ねて回った。各国で植物の研究が盛んになってブナ林の正確な分布についての論文が出てくるのは、2010 年頃になってからのことだ。現在ならばインターネットでそれらを検索することもできるし、地図も航空写真さえも自由に見ることができる。当時は地図を入手することも困難だったし、書店などでどれほど探しても、道路や山岳が正確に記入された地図を外国人が手に入れることはまず不可能だった。だから、どの国でも最初に街中に数泊して通りを歩き回り、最も大きな書店や登山道具店などを探しては地図の入手に努めたものだ。

わずか 20 年前のことだが、こうした情報の変化には隔世の感がある。当時は海外にどのようなブナがあるのか、誰もが簡単には知ることができなかったからこそ、私には「本を作りたい」という強い意欲があった。だが、パソコンに学名を入れて検索するだけで次々に写真が出てくる時代になると、すでにそうした書物自体が社会から必要とされなくなった。いま、自然科学の本は盛んに出版されているけれども、それは未知だった情報を人々に届けるものではなく、どちらかといえば生きてきた証を残すことに重きが置かれるようになっている。本が氾濫するなかで、自分で歩いて動植物を探し回り、写真や文章でまとめるという「探検写真家」が仕事をするような空間は、消滅してしまった。

心が躍る日々

2000年1月。初めての台湾では、ブナ林はまさかの霧氷に覆われていた。雪の山形からずっと南下したはずなのに、夜ごとに濡れた衣類を乾かしながら寒さに震えていた。

次はヨーロッパブナを見に行こうと思ったが、まったく手がかりがない。最初は「ゴッホで有名な美術館のまわりにブナ林があった」と聞いたので4月にオランダに行き、美術館には入りもせず、公園のなかをレンタサイクルで走り回った。パリ郊外のフォンテーヌブローという森が深いという話も聞いたので、列車でベルギーを経由してパリに向かい、列車を乗り継いでそのあたりに行った。

この頃は無駄の多い時間を過ごしながらも、度胸も決断力もない私には郊外の二次林に行くことが精いっぱい、今から思えば旅は初心者そのものだった。それでも当時の記憶は新鮮で、新たな出会いに心は弾むばかりだった。

チェコではカミキリムシのホームページを作っていた気鋭のアマチュア虫屋に連絡をとり、よさそうなブナ林を教えてもらっては列車を乗り継いだ。6月の長い陽が傾くまで歩き続け、夜遅くにプラハの安宿に戻る日を繰り返した。そして真冬のチェコではブナの朽木から輝くオサムシを掘り出したけれども底冷えの寒さに音をあげ、ずっと南下して暖かいところに逃げたつもりが、トルコのブナ林は腰までの雪に覆われており、最後の民家より奥には進めなかった。

中国にも行った。外国人による昆虫の採集が禁止されているという話を繰り返し聞いていたこともあって、不安ばかりが大きかった。目的の自然保護区を歩くために、最初は香港に飛び、そこから列車で往復二日ずつかけながら貴州省に入り、わずか1日だけブナ林を歩くことができたが、9月とはいえ虫の多さに驚いた。その翌年には調査団の採集要員として四川省に入る機会を得たことで、それまで日本の書物では3種とされてきた中国のブナが、実は4種であったことを自分の眼で確かめた。

旅を続けることを選ぶ

こうして旅を続けるなかで、2003年の年明けには、世界のブナのひととおりに見ることはできていた。ただし、旅費を稼ぐためには日本でアルバイトもしなければならなかったし、何よりも東北地方での生活が楽しくて仕方なかった時期である。4月から10月までの、ブナ林が春の花に美しく彩られ、あるいは季節を追って様々な北国の虫たちが姿を見せる期間には、少しでも東北地方を留守にしたくなかった。だから、世界のブナを見て歩いた時期は春と晩秋、そして冬に集中しており、ブナ林に暮らす虫たちの姿をそれほど見ることができたわけではなかった。

原稿を書いている、いまひとつ思い出したことがある。山形で博物館でのアルバイト生活を始めて2年目の1999年のこと、実は西日本のある博物館から正職員としての声がかかっていた。しかし、私は憧れだった東北での生活を始めて2年目。ブナ林で過ごすのが楽しくて仕方なかった頃で、丁重に辞退している。翌年にも同じ場所から声をかけていただいたが、すでに世界のブナ林を訪ね始めた日々の只中におり、ブナ林を歩きたいがために、やはり詫び状を書いた。周囲の関係者からはどうしても理解できないと言われたが、このあたりが私にとっての、組織のなかで勤めるかどうかの分かれ道だったと思う。

さて、当時から各地のブナ林の生きものを精一杯撮影していたが、写真というものを意識したこともなかったのも、構図から何からあまりにも拙く、フィルム束を資料として手元に残してはいるものの、写真として使えるようなものはない。20年を経た今では、各地のブナ林で当時とは比較にならないほど核心部まで入ることができているし、動植物もそれなりに撮りためた。ただ、20年も経てば、やはり新しい場所を訪れる際の感激も薄れている。20代の後半では知識も浅く、十分な取材にはならなかったけれども、がむしゃらに旅を重ねていたこの当時は、動植物を見て回るうえでも、最も心躍る時間を過ごしていた日々だったことは間違いない。

もっとも、ブナ林の探訪は2003年の終わりごろまでで一区切りを迎えていた。中断するつもりもなかったのだが、その頃からは極東ロシアに通うことが年を追うごとにエスカレートしていたし、2011年の東日本大震災以降の4年間は、津波跡を奔走するうちに終わってしまった。時々中国のブナ林に思い出したように出かけてはいたものの、2015年に加速度をつけて再開するまでは、ブナの取材については10年以上の足踏みを続けていた。

### ルリボシカミキリ

さて、それぞれのブナ林を見て回っている視点についても少し書いておきたい。

日本のブナ林を代表するカミキリムシに、ルリボシカミキリという美しい種がいる。北日本では平地でも見られ、今では山形市の自宅の玄関にいることもあるのだが、三木で過ごしていた頃には図鑑では知ってはいても、身の回りにはいない高嶺の花だった。氷ノ山の山麓で初めて手にしたときには、見る角度によって鮮やかに引き立つ色彩に驚き、標本を飽かずに眺め続けたものだ。幼虫は様々な広葉樹の枯木を食べ、ブナも好む。

このルリボシカミキリの仲間が、ヨーロッパにもいる。日本のものほど鮮やかではないが、やはり水色をしており、触角には黒い毛束があることや、上翅に6つの黒斑が並ぶところ、幼虫がブナを食べることまでよく似ている。2016

年の盛夏にスロバキアのウクライナ国境に近い山のなかで、心行くまでその姿を見ることができた。

驚いたことに、活動習性は日本のものとほとんど変わらない。この仲間はアメリカにも東アジアにもおり、大局的にみれば分布がブナの仲間とよく似ていることから、大陸がひとつだった頃からブナと同じような場所で暮らし、同じように北半球の各地に広がったのではないかと考えていた。各地のブナ林に暮らす虫たちを調べるなかで、こうした世界的な分布がブナと分布が似た動植物を拾い出し、つなぎあわせていった。

カタクリも、意識した花のひとつだ。カタクリの仲間は北米で繁栄しているが、世界各地のブナ林に点々と自生が知られている。日本のカタクリは桃色だが、アメリカブナの林では黄色になる。黒海沿岸のジョージアではクリーム色、そしてヨーロッパのものは桃色。花の色は、それぞれの地域で受粉を担うハチの視覚と連動しているのだろう。

一方で、日本のブナ林で見かけるエンレイソウは、北米では大きく美しい花を咲かせる種が多いものの、ヨーロッパには見られない。さらに、トルコやバルカン半島のブナ林の下で早春に咲くシクラメンやクリスマスローズ、クロッカスそれにスノードロップは、ユーラシア大陸の西側でしか見られない。こうしたブナ林の動植物を通して、各地のブナ林の成り立ちを考え、それぞれの大陸の動植物の歴史を考え続けている。

## 人の利用

それぞれの地域で、ブナの材は人に利用されてきた。ただ、動植物と違い、人の利用の歴史を地域ごとにどのように比較すればよいかという視点は、なかなか定まらなかった。人が伐って使っていれば二次林になるし、伐ったことがなければ原生林が残っている。

ヨーロッパではブナが主要樹種で、材もまっすぐなので、ブナの材が家具や柱として多用されている。これは日本では見られないことだ。ギリシャをはじめとしたヨーロッパ各地ではブナを木鉢や杓子などの木器に加工している場面を見たが、日本でもかつては木地師がブナを木器に加工していた歴史がある。

こうした利用は地域によってさまざまで、情報を拾い集めても、体系化が難しかった。やがて、日本で炭焼きに使われた名残である「あがりこ」というブナの巨木を通して、薪と炭焼き、つまり燃料としての利用方法に集約することで、各地でのブナの材の利用頻度を統一的に比較する視点を生み出していった。

## 写真家と名乗り始める

この時期には、いくつかの大きな変化があった。そのなかで最大のものは、



いや、実際には他愛ない話なのだが、「写真家」と名乗り始めたことだろう。

そもそも、世界のブナ属の「全種」を見たいという欲求は、虫を調べている興味の行きつく先でもある。ただ、20代の終わり頃になると、標本を集めるコレクション欲は減り始めていた。ものすごい勢いで虫の標本をつくっていたのは大学生・大学院生時代で、多い年では年間に昆虫針を15,000本使い、博物館で廃棄する標本箱も多数手に入れた結果、すでに200~300箱以上の標本を抱えて標本用のアパートまで借りていたが、次第に管理にも手が回らなくなり、興味の広がりに対して標本をつくる速度もついていかなくなっていた。それでも30代の終わり頃までは、紙包みの状態で標本を飽かずに作り続けていた。

虫だけでもそのような状態だったので、植物の標本まで作ろうとは思わなかった。いや、手間ばかりがかかって新聞紙の束だけが増えていく植物標本自体にも、それほど興味が持てなかった。花の美しさ、若葉や紅葉の美しさに憧れて山を歩いている者としては、その美しい姿を何とかとどめたい思いが強く、写真での記録という方向に向かっていったこと自体は、必然だったのだろう。

世界のブナを訪ね始めた2000年から、山形新聞に連載を始めている。当時はアルバイトとはいえ、博物館で仕事をしていたこともあって、新聞記者に取材を受ける機会が少なからずあった。折しも山形新聞では記者が世界のブナに興味をもって、研究者の調査に同行する形で日本各地や韓国鬱陵島、それにアメリカのブナについて連載をしていたが、管理職になって自身が取材に出歩けなくなり、中断していたという幸運が重なった。世界のブナの記事を連載させてほしいと頼み込んで、年に30回~50回の連載を数年間続けた。もともと、まだ駆け出しで勉強も足りず、写真を美しく撮ろうと考えたこともなかったから、いま読み返せば恥ずかしさが先に立ち、資料として残そうとさえ思わないが、無知は時に強さになる。原稿料は航空券代に届くかどうかという状態だったが、それでも個人の趣味で終わらせているのではなく、曲がりなりにも物を書いているという励みが、私を次の旅へと駆り立てていった。

連載にあたって肩書をつける必要が出てきた。アルバイトでは肩書にならず、作家でもない。こういう時に免許もなければ資格もいない「写真家」という肩書は実に便利で、連載を始める前夜の打ち合わせのなかで、私は写真家になった。

世界のブナを追い始めて2年が経った2003年の年明けに、恥も知らずに出版社を訪ね、その編集者に「今のフィルムは全部使えない。こういう写真を撮りなさい」と2冊の本を渡された日に、初めて図鑑用の植物写真の撮り方がどのようなものかを知り、その翌日から、私の写真もまた、曲がりなりにも図鑑に使えるようなものになってゆく。

ライフワークとして

ブナを訪ねる旅には終わりが無いだけに、そろそろ情報の整理にかからねば、とも思う。行くたびに新たな生きものとの出会いが重なるし、少し地域を変えて再訪すれば、また新たな森が広がっている。

まだ訪ねることができていない場所は、イランだ。ラムサール条約という呼称のもとになったカスピ海沿岸の街、ラムサールの南側には広いブナ林が広がっている。黒海沿岸の大カフカス山脈も、政情が許すならば特にロシア側をしっかりと歩きたい場所だ。

次に、中国では昆虫の多様性が素晴らしく、5~7月にどのような虫たちが暮らしているのかを長期で調べてみたい。ブナが生えている場所の多くは湿潤な雲霧林であり、滞在中の半分は雨になるだろう。四川省米倉山、湖北省神農架、貴州省梵浄山、浙江省天目山の4ヶ所では、ある程度の時間をかけて虫を調べてみたい。

他にも、バルカン半島のモンテネグロやセルビア、アメリカ北部の五大湖周辺など、いつか行かねばと予定している場所は多い。

最初は「ブナ属の全種が見たい」という興味に突き動かされてきたが、自身の興味が「生物地理」という切り口にあてはまることに気づいたのは、三十代になってからである。ブナ林を求めて各地に出かけ、そこで様々な動植物を見て歩くなかで、大陸がひとつだった頃に繁栄していたブナという植物が北半球の各地に分かれて、それぞれの場所で生き続けてきた様子確かめてきた。世界のブナ林を歩き続けた時間は、私自身が生物相の成り立ちを理解してゆく過程でもあった。

**著者略歴** 自然写真家、山形県在住。著書に「白畑孝太郎」（無明舎出版）、「巨大津波は生態系をどう変えたか」（講談社ブルーバックス）、「里山危機」（岩波ブックレット）など。雑誌「月刊むし」での連載多数。Facebook アカウントは「Yoshiyuki Nagahata」、ブログ「世界のブナの森」  
<https://ameblo.jp/rosalia-coelestes/>は不定期更新。

## 三愛研 第2回座談会

### ～「増田ふるさと公園」に寄せる想い～

植田 吉則

話者：初代理事長 小倉 滋  
第二代理事長 室谷 敬一  
第三代理事長 北村 健  
司会：副理事長 植田 吉則  
記録：理 事 米村 環  
傍聴：副理事長 横山 法次、監事 池町 敏彦



日時：2024（令和6）年1月23日（火）14：00～16：30  
場所：三木市立市民活動センター 多目的室

植田：三愛研の重要な活動拠点である「増田ふるさと公園」は市がその土地を買い取り、自然環境を保全しているという、全国的にも非常に珍しい公園ですが、今日は「増田ふるさと公園」が2001年にできるまでの話を聞かせていただけたらと思います。まずお聞きしたいのは、昔の増田地区の自然の様子についてです。

#### 【細川中学校周辺の自然の様子・1955(昭和30)年～1960年頃】

小倉：室谷さんがまだ中学生やったころ。その頃の自然ゆうたらね……。学校に宿直室があって、そこで寝泊まりしていた。宿直の夜に校舎を巡回してハンコ押すところがあって、コースが決まっている。ある夜、2階からふと外を見た。怖いがあ。山のところに青い光がポワーッと揺れとんねん。何や分からへんさかい、最初は自分でも心地悪いなあ思ってた。そんな、ほんとに田舎の風景やった。その青い光は、後で知ったことですけど、ツキヨタケ（図1）というキノコが木の枝にひっついて、それが風で揺れよるということやったんや。それから、運動場が100mないねん。85mぐらいしかなかった。それで登校口の道が坂になっているんやけど、その上まで行ったら100mぐらいある。だから、そこで陸上の練習をよくやっていた。（中略）練習をしながら、今のふるさと公園の前からずっとグリーンピア三木（今の

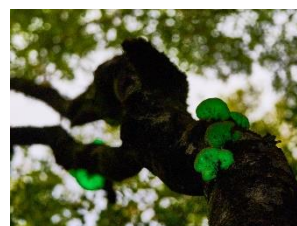


図1 光るツキヨタケ

ネスターリゾート神戸) やな、そこへ行く途中まで走って行って、時には伽耶院まで足を伸ばして走って行きよった。その途中で見た風景が、今のふるさと公園を残す動機になった。今のふるさと公園で、東の方の網を張った入り口がある。あれから外の田んぼがK君の家の田んぼで、その向こうにK君の家が今は別荘になっているところ。そこに小さな池があつて。その上にもう一つ池がある。その池は今でもカワバタモロコやフナもおる。細川で一番最初にカワバタモロコを見つけた池や。その下が小さな、今はもう空掘りになって、底樋が壊れてるので水が溜まってない。当時は田んぼや池ゆうたら、ものすごい大事な資産やった。だからK君のところも樋を大事にして、水を貯めて田植えに使いよったったと思う。その池のところにはナニワトンボとか、それからその上に、ウラキンシジミの食草のコバノトネリコがあつた。そのウラキンシジミがたくさん飛んでいるのを初めて見て「こんな蝶、見たことない。」と、私が言ったら三重大大学の先生が「これは珍しい蝶なんですよ」と教えてくれたった。Sさんという方が、精農いうのか非常に一生懸命になって農作物を育てられた人で、今のふるさと公園のほとんどの土地がその人の土地やったと思う。その家のまわりに大きな池があつて、その池にオニビシ、それから普通のヒシもあつたし、サンショウモも前の小さい池にたくさん生えてた。それからマコモやショウブが生えてたり、青いカキツバタか、アヤメなんかがあつたり、どこもごく普通に、いろんな植物があつて。陸上の練習で走ってた横にカワラナデシコや、秋の七草の仲間ほとんど全部あつた。印象的なのは、一重のノカンゾウか八重のヤブカンゾウかというカンゾウなんかがあつてね。小さいハナヤスリもあつた。なんでか知らんけど、おそらくあそこの土地は小石がぎょうさんあつて、畦の肩のところに拾った小石をいっぱい捨てる場所になつたんやな。そのところからハナヤスリが生えていた。葉(胞子囊群を付けた棒状の胞子葉)が目立てをするヤスリとよく似ていて、こんな変わ



図 2 昭和 40 年空撮(国土地理院)  
増田地区の一部

った花があるんやなあとか。そういうことがあって、福岡先生<sup>1</sup>に聞いたら「それは珍しいねんで。」という話やった。「珍しいねんでえ〜」言われたら、何や興味を引かれた。Mさんの池だったと思うけど。その池にはチョウトンボや、水草にたまごを産むトンボがいっぱいおった。一番印象に残っているのは、チョウトンボがいっぱいいたことや。そんな風景があって、あの土地を耕地改善事業というのかな、農地を冬の間水がジュクジュクした田んぼやなしに、二毛作をするのに野菜を育てて、百姓の人たちの生活を確立させようという、そういうことやったと思うけどな。志染や口吉川は、先々あって、細川が最後やったと思う。その時に、その風景を潰してまうという。言い落としたけれども、一つだけ、本当に私も感動した自然があって。それは加古川にもゲンジボタルはおった。その蛍をどうして捕りよったかゆうと、柄のついた竹ぼきで叩き落としよった。そうやって捕りよったら、一晚兄貴と一緒に行って、たくさん採れたときでも十匹くらい。ところがS君らと陸上の練習しよった時のある晩、見たら牡丹雪みたいに、もう本当に光の玉が、あの逢染川の竹藪の校舎のほうからウワーッと繋がった。それ以後、蛍はおらへんなってきよったな。昭和32年か33年くらいやった。



図3 チョウトンボ

室谷：たぶん昭和30年から35年くらいの間の話だと思いますけど、先生は5~6年間、細川中学校だったんじゃないですかね。

小倉：とにかく昭和34年か35年だったと思う。松枯が三木市に侵攻した。ヘリコプターがブーンと飛んでな。昭和31年とか2年とかいうのはマツタケ山の最盛期でな。槇山にマツタケがいっぱい生えていた。僕もIさんの山に一度連れて行ってもらったら、マツタケがシバハリほど生えとる。マツタケいうたら、山のある特定の場所でしか見たことがない。ところがIさんの山に行ったときは、座っとなら籠にいっぱい採れる。昭和18年生まれのO君やKさんの時代に、小野の草加野（満州開拓団から帰ってきた人たちが住んでいた）から脇川のお寺の近所を歩いて細川中学校へ通っていたA君がいた。ある日、私が教室に入ったらマツタケの匂いがする。（笑）「誰かマツタケ持っとんちゃうのん？」と聞

<sup>1</sup> 福岡誠行：現在三愛研顧問、頌栄短期大学・教授

いたら、A君が「登校しよったら、マツタケ生えとったから持ってきた」ゆうてカバンの中に入れてた。「それどないするん？」と聞いたら「持って帰って食べる。」との返事や。クラスの中でそういう話をして、それがいかんとかいう、そんな時代やなかった。みんな笑っていた。マツタケは脇川の道のそばに何個でも生えていたという時代だったと思う。

北村：僕の時は、よーく探して「アッター」いうぐらいだけど、上の世代やったらマツタケは蹴飛ばして歩いてたと聞いています。

小倉：池町耕一先生の近所に栗畑があった。その栗畑の下をよく手入れしてあったんやろな。スマレがたくさん咲いていた。そのスマレの葉を食べに来たチョウチョ。それは、初めて見たクモガタヒョウモンというチョウチョ。忘れへんな。それは非常に珍しくて、後でチョウの専門家に聞いたら結構珍しいでえ、という話だった。それと陸上の練習で一緒に大谷まで走りよった時に、栗畑の下を練習用に使って、上の増田の終点まで坂道を上がって行きよった。そこに池があって、上に大きな松が横たわるように生えていた。練習がすんだら、その松の上から飛び込んで池で泳ぎよった。その池の栗林のところで初めて尾が二つのチョウチョを見た。アリに育てられるキマダラルリツバメというチョウチョやった。栗畑へ行く道の中間の角にナラガシワの木が1本、それから上の方にもう1本あった。それにミズイロオナガシジミというチョウチョがおった。今では、キマダラルリツバメなんかは、三木では絶滅したんちゃうかと思うし、ミズイロオナガシジミは、三津田の「吞吐ダム」へ行く道で3年ほど前に見たから、それは絶滅してないと思う。ふるさと公園で自然の様子を見ていったら、我々の知らないことはまだ他にいっぱいあると思う。例えば、米粒みたいな花が咲く……。

北村：ママコナですね。

#### 【ふるさとの自然を残したい】

小倉：そのママコナ。福岡先生に聞いたら共生植物で、例えばツツジの根にひっついたら、その根と一緒に育って大きくなる。けど単独やったら小さい。そういう話を聞いて、「それは珍しいのですか？」と聞いたら、「それは寄生といって、寄主とひっついてこんなにたくさん花が咲くようなことは滅多にないからなあ、珍しいのとちゃうか」という



図 4 ママコナ

話だった。公園になってからやけど、ある時、守池の上の池の土手いっぱい咲いて、室谷さんの2~3級下の女の子が観に来て、写真に撮って帰ってたのが記憶にある。池の淵回りに小さなランの仲間やムラサキミミカキグサや黄色い小さいアサガオのような花のゴマクサなど、そうゆうものが大事や！ということを知って初めて、耕地整理したら、みんな消えてまうなあという話になった。それでなんとか残されへんか、ゆうて。初めて加古（当時の三木市長）さんにそんな話をしたことがあった。そしたら加古さんが「よおー」「よおー」と言うた。 「ほんなもん、お前、どこでもあるやろがえ」、あの人の口調やからそういう言い方で言うたわ。「そやけど、僕、細川で6年ほどお世話になって、お宅の妹さんも担任させてもらった時に『**やっぱりふるさとを大事にしたい**』』といいよった。せやから、なんとかなりまへんか？」言うたんがきっかけやった。その時分に池町さんや、それからS君やK君ら教えた子が、この土地をどうするかという会に出て来てくれてな。「なんとか残されへんやろか？」言うて、お願いをしよったら、はじめはみんな黙っとった。まあ、めんどくさいこと言よんなあ~思て聞いとったと思うねん。だけど、5回目ぐらいの会合のときに、市の耕地課の井上さんが、なんとか口をきって、最後、池町さんらはもちろん賛成してくれたと思うとんねんけど、Yさんが「小倉さんが、あないゆうてまでいよんねんさかい。何とかしたらんかいな」と言うてくれたときに、しばらく沈黙が続いてんけど、まあ最終的に反対する人がなかった。それは、一つが池を潰して減歩の土地を保障するいうことがあって、土地がそんなに減らない、ということもあったように思う。それと公的な土地の池は、それを処分するときには何か一つの行為が必要やいうことがあったんちゃうかと思うんや。

室谷：何が必要？

小倉：公有財産やからな。その一つの地域とか個人の池みたいに処分できない部分があったんかな？そんなことないの？

北村：あの大きな池がああSさんのところの東側にあった大きな池は個人池じゃなくて、あの財産区財産やね。

室谷：それは勝手にでけへん。

小倉：まあ難しい話は私ら全然わかれへんやん。そやけど、ちょっと引かかる部分が何かあったんかな。それで井上さんが「何とか減歩の部分は最小になるさかい。頑張って、頑張って。市長も賛

成しとんねんさかい、してくれたらどないや」いうことで、まとまっていったと思う。当時は県内で初めて市が単独予算を計上して土地を買収し公園化した。全国的にみたら、あの当時、和歌山県の天神崎が国による土地の買い上げで初めて自然保護ができたようや。一つの市や県がその土地を買い上げて、今の「網引湿原」のように県が事業をすとかいうのは、まだずっと後の話や。あの当時やったら本当に先進的な取り組みやった。その頃、環境省主催の研修で、僕は自然観察指導員の資格を取りに大阪まで2年毎に毎回行っていた。それで環境省の役人に知り合いができて、国の機関におる人にちょっと聞いた。「何か補助をもらえるような事業がありませんか？」と聞いたら「そんな事業は聞いたことない」ゆうて。あの当時は、環境省<sup>2</sup>ができて間もない時やったから、予算なんか少しも持ってないような状況やったと思う。それでしばらくしよったら西岡君が来て「先生、池をどないしたいと思とんの？」と尋ねてきた。守池1号の下から水が漏れて池が潰れそうになったので、Sさんが「わし個人で治したらええねんけど、そんな力は無いしなあ」ということやった。今ある樋のところから水がどんどん流れ出して全然止まれへん。いっぺんには落ちないけど、しばらくしたら水が底をつくような状態になる。現在イシモチソウが生えてる、あのあたりからジクジクジク水が漏れて、ほっといたら穴が開いてまうのんちゃうかあ、いうてSさんがいうたった。「こんなもん市が買い上げて、保護してもあかんなあ」とうった。そこで、西岡君が土木課の関係やったと思うんで相談したら、環境省から補助金1,600万円を調達してくれた。そのお金で土手を改修した。土の中に粘土を固めて板みたいにしたものをたたきこんで、水が漏れんようにして、その上にまた粘土をのせてたたいて、さらにその上はそんな粘土やなしに池の底にある土や泥で固めて今の池ができた。それと擬木の柵、あれも環境省の補助金でできた。あるとき、池のヒシが半分ほど残ったのに、しばらくしたら全部なくなっていた。それはアメリカザリガニのせいやった。それでえらいこっちゃゆうて室谷さんが一生懸命に退治してくれて、今は北村先生が頑張ってくれてるからヒシはあるんやないかな。池の上からオオタカ

---

<sup>2</sup> 2001(平成13)年1月6日中央省庁再編により環境庁を改組し、環境省設置



がジッと獲物を狙ろとる姿を最近、見かけへんけんど 6～7 年程前までは枝に止まっとった。

北村：ちょっと前も見ましたよ。

小倉：代が変わったかもしれんけど、そうゆうタカが餌場にできるような部分が残っとるということは、逆に言うと自然が守られとることかなあと。現在ある西の小さな池は、以前は池ではなく湿地やった。そこを掘って叩いて水溜めて池にした。その後の話し合いで、あそこの一角は他の地域から、細川地域中心に、水草は持って来て入れてもええかあゆうて。それは何回か討議しながらきたと思う。だから今、それが繋がって、まあ僕の見てきたのは大体そういうことです。

植田：ありがとうございます。

先ほど、話の中で細川中学校<sup>3</sup>の話が出てきたんですけど、細川中は今の星陽中の場所じゃなくて、もうちょっと東のほうの、メタセコイヤがあるところですね。



図 5 細川中学校(ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 三木 松村義臣編集より)

北村：あそこのことです。さっき小倉先生が言われてたように、下っていく坂が。陸上 100m の直線が取れないから・・・

小倉：みんな文句を言いよったけど、最後に一番きつい坂やった。

植田：ふるさと公園にするために、村の人との話し合いが何度もあったということはよく分かったんですが、市が了解したら、それでゴーサインということなんですか？

小倉：単独事業だから、いわゆる補助金を国からもらったり、県からもらったりしたら、やっぱりそこにいろいろの問題が出てくるから。市長の決断だけで予算を確保したと思う。あの当時、ゴルフ場がたくさんできて、お金がどんどん入ってきてた時代。その最後の頃やった。市に勤めてる人が「先生、ええ時にものを言うたな。」とってくれた。

---

<sup>3</sup> 1950（昭和 25）年に細川村立として新築開校。1954（昭和 29）年三木市立となり、1969（昭和 44）年 3 月 31 日吉川中学校と統合し市立星陽中学校となり廃校。跡地は工場になっている。なお、星陽中学校は 2022（令和 4）年 3 月 31 日市立三木中学校への統合により廃校。

植田：時代的にタイミングがよかったんですね。

小倉：それで、最後に高畠助役が、僕らの二級先輩やさかいに「高畠さん、何とかならんのかいなあ」いうて、高畠さんの家の前の美囊川の土手のところで座って話したら「三木かて、ちょっとぐらい文化的なことをせなあかんのう」と言われた。それから市長さんと馬がおうた話ができるようになった。

(次にサイカチの話題になる)

小倉：それから、室谷さんが言ってた、シャボン玉の木。

室谷：サイカチ（図6）ですか？

小倉：そう、あのサイカチを、加古川の土手から三木山総合公園に運んで植樹するという事業も高畠さんの仕事やった。



図 6 サイカチ

### 【市への要望書のための資料づくり】

室谷：あの当時、何度も書面を作って市役所へ持って行った。

植田：そうですね。

室谷：こんな珍しい動植物が生息していると写真を付けて持って行った。だけど市の対応は、そら大変や、はよ何とかせなあかんという認識はあまりなかった。教育長さんところにも小倉先生と一緒に行ったことがある。「ふるさと公園を作ってください」ゆうて。「行かなあかん。行かなあかん」ゆうて。

《中略》

植田：室谷さんが言いかけられたんですけど、ふるさと公園を、きちんと公園にするための資料づくりですね。それがなかなか大変やったということで、武田義明先生や角野康郎先生に観てもらったというのは、ふるさと公園になった後からのことですか。

室谷：小倉先生が作った資料は、これだけの希少な動植物が生息しているから守らないといけないと、ダーッと希少生物の名前を書き出したものやった。

植田：その資料作成は、大学の先生が協力されたということですか？

小倉：それはな。兵庫県で初めて自治体買い取って残したいということを角野先生は以前から知っておられた。植物を調査していた人の敏感さというのか、耳聡さいうのかな。そういうのがやっぱり学者としてあったと思う。それで、神戸大学の学生が、ふるさと公園の地面に穴を開けて、その土を持って帰って、大学でその土を蒔いて、それから発芽してくる植物を冊子にまとめていた。

室谷：ふるさと公園を要求していた時は、今の広さよりももっと広く残すように要求していた。だから、こちらにまだたくさん希少種があるということで、その土を、土手にするときに張り付けた。そういう方法をこちらから提案した。

植田：角野先生が？

室谷：いやいや、三愛研から。

小倉：それはどこかで例があったと思う。例えばノカンゾウなんかが生えているところで「この花、移植してほしいねんけど…」と業者に言うたら、業者が「そんなこと、聞いてない」とゆうたと思う。それで市に「何とか残して欲しい」といった。それで幅1メートルぐらいかな、芝生を切るみたいに、その部分を切って新しい土手を作るときに上に並べていくという工法で、今の一番下の土手が出来ると思う。

室谷：そのときな、赤いテープで、ここは貴重種があったから、この土を持って行ってゆうて。僕、手伝いましたわ。

植田：幅は1メートルぐらいですか？

室谷：いやいや、この範囲で、と言うような感じで。

植田：厚さはどれくらいですか？

室谷：何センチかわからないけど。深さのこと？

植田：そうです。20センチぐらいですか？

室谷：知らない。ただ、ここの土を持って行ってと、印は付けた。

小倉：それはな、ウツボグサやとか、それからカンゾウとか、そんなんがいっぱいあったのに、開発するときには重機でガーッと搔いて、捨ててしまうというような状況やった。だけど、我々としては、たとえちょっとでもそういう状況の場所は残してほしいと思うてなあ。今の建物が立っているところのこっち側とか、それから今の堀の前とかへ。それを叩いて何とか残してほしいと言うてんけど、カンゾウはすぐ消えてしまった。何で消えたのか分からへんねんけど。

室谷：そういう工法をとったところは、今まであまり無いから、実際に効果があるかどうかを確認せなあかんいうて、神戸大学の角野先生が、研究室の学生に調査をさせた。その時に、これぐらいの土をポンポンと採取しますが、よろしいかと言われたもんやから、世話人会にかけたんや。その時、不思議やったんは小倉先生がわりと消極的やった。自分が提起していて、それを確認して、それを他のところにも発展させていかなあかんいうのに。小倉先生自身はなん

かちょっと消極的やったと思った。

小倉：それはな、大学の先生のやり方を知らなかったからや。角野先生が自分自身で調査研究されると思ってたんや。ところが学生の卒論の、まあ言うたら材料のひとつに。学生だけがひょこっと来てな。今の学生なら環境保全の意義とかもよく知ってるから僕は納得したかもわからへんねんけど。その時は、なぜ先生が来ないのかと、ちょっと不満やったんや。

植田：学生が調査研究する内容は、大学の先生が指導教官ですから、先生も一緒にされているということにはなるのですが。

小倉：それがよう分からなかったんや。

室谷：あれは、結局そういうふうにすることによって、一番種が増えとると。それは価値があることやったんや、というのがあの報告書の結論やと思うんやけどな。

植田：埋土種子からの発芽とその後の調査もしてあるということですね。実際、土を持って帰って、どれだけ発芽してきたかを学生が調べ、そのデータがあの一覧表ですね。結果をまとめた論文は神戸大学にあるはずですね。

室谷：あれがすべてやと思うけどな。

植田：当時としては、そういう工法（剥ぎ取り工法）は珍しかったわけですね。まあほかでも先行事例があったようですけど。

室谷：僕は小倉先生が提起して、それで実際にやって、その効果があったから、これは素晴らしいことやというふうに思ったんやけど。

小倉：まあ大学の先生が来てくれだけでも、今、考えたら良かったかもわからんけどな。そういう研究しとる所は「やしろの森公園」でも、西宮の公園でも、いっぱい森林公園みたいなんができて。それらは、厚労省が開発している。三木山森林公園は、農林関係がやとる。農林関係は昔から百姓や国とつながとるから、予算を持っている。厚労省いうたら予算をあまり持っていない。そやけど「健康と福祉の森」とかいうて新しい公園をどんどん作っていった。今は、「ゆめさきの森公園」とかたくさんできて。そやけど三木山森林公園<sup>4</sup>ができて、そのすぐあとぐらいに「増田ふるさと公園」ができた。

---

<sup>4</sup> 兵庫県立三木山森林公園は1993（平成5）年5月23日開園。「増田ふるさと公園」はその8年後の2001（平成13）年4月、三木市と増田地区、三愛研の3者でふるさと公園の維持・管理に関する委託契約を締結。

室谷：お金がたくさんある時は、年金保養施設「グリーンピア三木」も作ったけど、国はお金がなくなってくると一服してしまう。

小倉：だいたい予算は使わなあかんし、そらそうやろな。僕自身は、大学の先生がきて調査してくれたら嬉しいなと思って。で、その資料を楽しみにしとったけど、私らのレベルと先生のレベルとはだいぶ違うさかいに、よう分からんかったな。

室谷：しかし、結論として一番下の土手が一番種が多い。ただ少しでも多いということは、それが効果があったということに結論づけてもいいんじゃないですかね。

北村：剥ぎ取りや貼り付け工法は、手間もかかるし、お金もかかる。普通の、ほ場整備のやり方は土木工事そのもので効率重視や。だから結果、全国どこ行っても外来種ばかり増えて、昔の風景は全くなくなってしまった。

(中略)

### 【二代目理事長が一番気になっていたことは？】

植田：二代目理事長の室谷さんの時に一番苦勞されたというか、気になっていたところは何ですか？

室谷：気になったんはトンボがすごく減ったこと。

植田：今も結構いると思いますが、減っていますか？

室谷：観察に来る人も「トンボがたくさんおったのに、減りましたねえ」と言われた。その原因はアメリカザリガニだろうと。僕は、あの貴重な自然が残っている場所やから公園にして残してほしいと要望して、草刈りは三愛研がするんかいないわれて、やりますいうておきながら、今度はトンボが少なくなってきた。そういう状態で、自然が、種が減ってるということは、これは許せない。ということは、もうアメリカザリガニを取るしかないと考えた。

北村：一生懸命、原因を調べられてましたね。アメリカザリガニの性質を家で飼育して、どんな習性か、どんな能力があるかを。

室谷：まあ、そこが一番だった。元々ふるさと公園には、持ち込まない、持ち出さない。これで最初はスタートした。ところが、そんなこと言っても、このままやったら、徐々に無くなってしまいうやないか等々。そしたら、西の池の近くに限定して、希少種を他から入れようということで、やっと思ったんやけども、あの場所だけでは、すまないようになってきた。だから今はもう元々のふるさと公園とは、だいぶ様変わりしているけれども、それは、それではないのかなあ、と思いますけどね。だけど保全の方法は、ぐっと変

わってきたということは事実だと思います。

植田：今、トンボは戻ってきてますか。

室谷：戻ってきている。だけれど、それは北村さんがずっとアメリカザリガニ駆除をやってるから。もし、手を抜いたら、また増えてくるから。アメリカザリガニが増えるとトンボが減るというのは推測できる。

北村：私が一度アメリカザリガニが抱える卵を数えたら、ざっと 180 だったけども、室谷さんの「おもだか」の記述をみたら、もっと多かったですね。200～300 でしたか。

室谷：300 近かったと思う。

植田：卵の数が？

北村：抱えてるやつがね。

植田：大きいのがいたということやね。

室谷：1 匹から 200～300 匹に増えてしまうということや。

北村：私は、室谷さんから理事長を交代したのですが、室谷さんは理事長交代する前にアメリカザリガニ駆除をやめられたのでしたか？それとも交代と同時ですか？

室谷：理事長を降りた時、その時点で止めました。

北村：そやけど、私は直ぐに引き継いだわけやない。

植田：そうでしたっけ？すぐやり始められたかと思ってましたけど。

北村：すぐ引き継いだわけじゃなくて、順調にいつてるかなあと見ていたら、西の池のガガブタが、ほぼ全面覆っていたのが、半分とか三分の一とかになってしまっって、こいつは、やっぱりアメリカザリガニかなと思って、モンドリを入れたらアメリカザリガニがいっぱい入った。そこから私のアメリカザリガニ駆除が始まった。

室谷：私の時は、かなり減ってたから。これはそろそろ潮時だと思った。8 年続けとったから。

植田：アメリカザリガニの数が減ってきてたのですね。

室谷：モンドリ入れてもあんまり入らなかった。交代してよかった。まあ、もうええか、と言う風に思ったことは思った。

北村：ええことないねん。

室谷：けれど、また増えてくる。

植田：完全駆除は、なかなか難しいようですね。

室谷：アメリカザリガニは一度侵入したら完全駆除はできない。かといって、とことん駆除しようとしたら、魚も死んでしまう。

植田：魚もカメもですね。いっしょにモンドリに入ってしまうから。  
北村：とにかく、しつこく親をとり続ければ、次の代ができないから  
いけると思うねんけど、次の代をこしらえてしまったから。  
室谷：生殖能力がないうちに。  
北村：子どものうちに、どんどん退治して親になるやつを抑えきれば  
ええねんけど…、今はなかなか厳しいなあ。  
小倉：そやけど、なんやなあ、ふるさと公園におるようなドジョウ。  
こんな親指ぐらいのがおるけど。あんな大きなドジョウは、ほかの  
所では見ないなあ。この間、やしろの森の新池いう池やけど、結構  
大きな池を干したら、コイはいたけど、どういわけかドジョウの  
大きいやつはあんまりいなかったな。昔やったら、田んぼの水たまり  
で、スコップでドジョウ掘りしよったんや。横山先生の近所、田  
んぼの側溝、まだドジョウおるか？  
横山：みんなU字溝を入れてるから。昔は素掘りの溝ばかりやった  
から、下に泥一杯たまって、毎年、泥上げしよった。  
小倉：今はコンクリート側溝か。  
横山：そやから、ドジョウはおれへんね。昔はフナやコブナもいた。  
小倉：ふるさと公園だけやな。こんな大きいドジョウがおるのは。  
横山：増田はちょこちょこおりますね。溝に。  
小倉：モンドリいれたらな、太いやつが入っとる。  
植田：ふるさと公園は、まだなんとか維持されてる。  
小倉：言いよったようにな、黄色い花が絶対咲かんように駆除を始め  
たけど、追っつかへんのかなあ。  
植田：セイタカアワダチソウ<sup>5</sup>は、まだ間に合うでしょう。  
小倉：一回、観察会で参加者に呼び掛けて草引きしたらええねん。花  
が咲く前に、こんな草やと実物を見せて、子どもも一緒に。  
植田：アメリカザリガニと同じ在来種の脅威となる外来生物やからね。  
小倉：セイダカアワダチソウがあるか、ないかで随分違うと思う。  
植田：以前は、セイタカアワダチソウが在来のススキに勝ってしまう  
やろと言われよったけど、でもススキがまた盛り返して。  
小倉：一時的に、わーっと増えて3年ぐらいそれが続いたら、地力(ち  
りよく)が彼らの環境とちょっと違くて、だんだん勢いが弱るよう  
になる。それで勢いが衰えるけど、刈って畦焼きしたら、また元  
に戻る。畦焼きしたら元気になるねん。そういうことが、ちょっとわ

---

<sup>5</sup> 日本の侵略的外来種ワースト 100。外来生物法で要注意外来生物に指定された。

かったような気がする。やっぱり引き抜かなあかん。

### 【ふるさと公園での環境学習支援】

植田：次の話題で、豊地小の3年生が毎年ふるさと公園で環境学習をしていますが、それは小倉先生の時からでしたか？

小倉：どんな事情やったか、井戸知事があの頃、環境学習にすごく力入れてな、小学校1年生から環境学習したい言うてな、そんなできひん言うて学校の先生や教育委員会が大反対や。それで妥協して、3年生からになった。4年生は何々、5年生は何々言うて。

植田：5年生は自然学校ですね。

小倉：そういう風にして3年生に環境学習の予算を井戸さんが付けたんや。その時に何校か三木市内の小学校から環境学習の指導の要請が三愛研にあって、口吉川小にいったし、緑が丘小も、緑が丘東小もいった。そやけど、室谷さんに代替わりした時、こんななかなか全部できひんいう話やったと思うねん。そらそうや。市内各校から頼まれたら、指導できる先生おらへんもん。

室谷：小倉先生は、環境学習に対してものすごく張り切っとしてたよ。「いらっしやい！、いらっしやい！」やったから、誰が受け入れる力あるんやろな一と。

小倉：知事が力入れとったさかい、頑張らなあかん思ってな。

室谷：まあ小倉先生は、できるけれども、後に付いていくメンバーが、おれへんような状態でしたわ。

小倉：室谷さんは、レベルがどないや、こないや言うて心配しとんやろうけど、小学校3年やから、そんなにレベルを考えんでもええのんちゃう。体験発表するぐらいの内容で、例えば百姓しよったら自然を見とって、ゴボウの花はキク科やとか、その程度知っと思ったら話ができんのんちゃうか思うで。難しいことを教えようと思わんでええねん。

### 【三代目理事長による学校支援】

植田：今は、北村先生が豊地小学校の学習支援に入っておられますが、どうですか？

小倉：ごっついええのんちゃうか。評判ええやんか。なかなか今の若い先生は外に出て魚捕ったり、トンボ捕まえたりすること、あんまりしてへんさかいな。ごっつい役に立っとるらしいで。

植田：北村先生は、ながく学校支援に関わっておられますが、なんかエピソードというか。これは面白かったとか。

北村：年によって、いろいろ特徴があつて面白い。おとなしい年もあ



れば、自分らでぱっぱっとやっっているいろいろ探し回る年もある。

小倉：担任の先生の耕しやな。先生が、こういう風な児童に育てたい  
思うて一生懸命やる。それに乗かった教室の子どもは、積極的なク  
ラスもあれば、だまって話を聞いとるクラスもある。もの言わへん  
クラスがアカンか言うたら、そうではないねんな。

北村：ありますね。自分から吸収しようという感じ。そういうのが強  
いのと、年によっていろいろ変わる。今のクラスは極めて積極的で、  
こっちが準備してるのに、アレ何ですか？コレは何ですか？と聞  
いてくる。

植田：ふるさと公園にフジバカマが咲いたときに、ちょうどアサギマ  
ダラが飛んできたことがありましたね。

北村：これがフジバカマで、アサギマダラというチョウが蜜を吸いに  
やって来るねんでえ〜という話を子どもたちにしようとした時、  
ヒラヒラってやってきて、絶好のタイミングでした。

#### 【牧野富太郎とシジミヘラオモダカ】

小倉：下東条小学校行ったらな、「私、向山俊作先生に世話になって植  
物勉強しましてん」言うて、よう植物名を知ってる人がおられた。  
もう70歳や言うたった。この人が、植物みんな説明して、すごい  
人やな思うて、後をついて聞いとった。向山さんは河合小学校の校  
長になられて、当時の小野市や加東市の方で、理科教育の指導者と  
して活躍されていた。牧野富太郎が昭和23年に三木にやってきて、  
研修会を開いた。その時の先生は、木下貞祐先生やとか、向山俊作  
先生やとか。その人らが呼んだんちゃうかな。廣田照雄校長とか、  
川崎正雄先生とか、あの時分の若手の先生が研修会や勉強したい  
言うて。

植田：木下貞祐先生や向山俊作先生らが現在も続いている三木市科学  
教育研究会（三科研）を作られたんですね。

小倉：シジミヘラオモダカいう植物があるのを初めて知った。その植  
物を採集した寺口さんという方が神戸市におられたんやな。私が出  
会いに行つて、事情を聞いたら「私が親和の女学校におる時に夏休  
みの宿題で植物採集して、池（現在、三愛研が草薙りしてるあの池）  
にぎょうさん生えとったさかい、それを標本にして、学校へ持って  
行ったら学校のM先生かU先生かが、『こんな植物見たことない』  
言われた。それで牧野さんどこへ送った。そしたら、牧野さんが次  
の機会に立ち寄ってくださって『これ新種やで』と言うてくれた」  
TKちゃんのおばちゃんいう人や。あの時、僕が出会ったときは、

神戸市の団地におられた。「私の名前は出さんというたつた。それを三木さんが新聞記事にしてな。発表しとったやろ。「小倉さん書かせてもらうでー」ゆうて、「それは、あんた商売やから、せんかいな。」いうてな。

室谷：先生が三木でシジミヘラオモダカがあるのを見つけたのは、つい最近の話やったんやなあ。記録を調べたら、世話人会の時に報告されてたけど、その時はピンとこなかった。後からあの時の報告が、それやったんやーと分かった。

小倉：牧野さんは尻軽に動きよつたつたみたい。エラぶらんと。そやから、ふるさと四国へ帰る途中で関西に寄って、それでまた東京へ帰ったりしよつたつたみたい。私は、岩崎先生から牧野富太郎やってんな言うて、その研修会に参加したことを聞いた。今の草刈りをしている池（高男寺）から下、T Tさんの家がある道の反対側が、荒れ地やって、そこに生えとるのんを志染中で初めて向山先生に教わって。向山先生は、確認してはないねんけど、あの上のそこには発見した子が採集したとこ、芝打ち場があるとこで生えとつたさかいに、あの周辺やったら生えとんのんちやうかあ言うてくれたって、どんなもんですか？って向山さんに聞いてん。何の変哲もない、なんやこんなピューと、あれ、こんなんやったら細川のSさんとこの裏の池に生えとつたんちやうかな。よう調べたら葉っぱがすごく細い。ヘラオモダカいうと、もっとひろい葉っぱ。それで、違うということが分かった。まあ、素人は難しい。そんなん、なかなか調べられへんわ。

小倉：《中略》そやけど、豊地小学校の環境体験授業の指導は、できたら続けていって欲しい。

北村：そのつもりです。

【今回はこれまで】

## （第2回座談会を終えて）

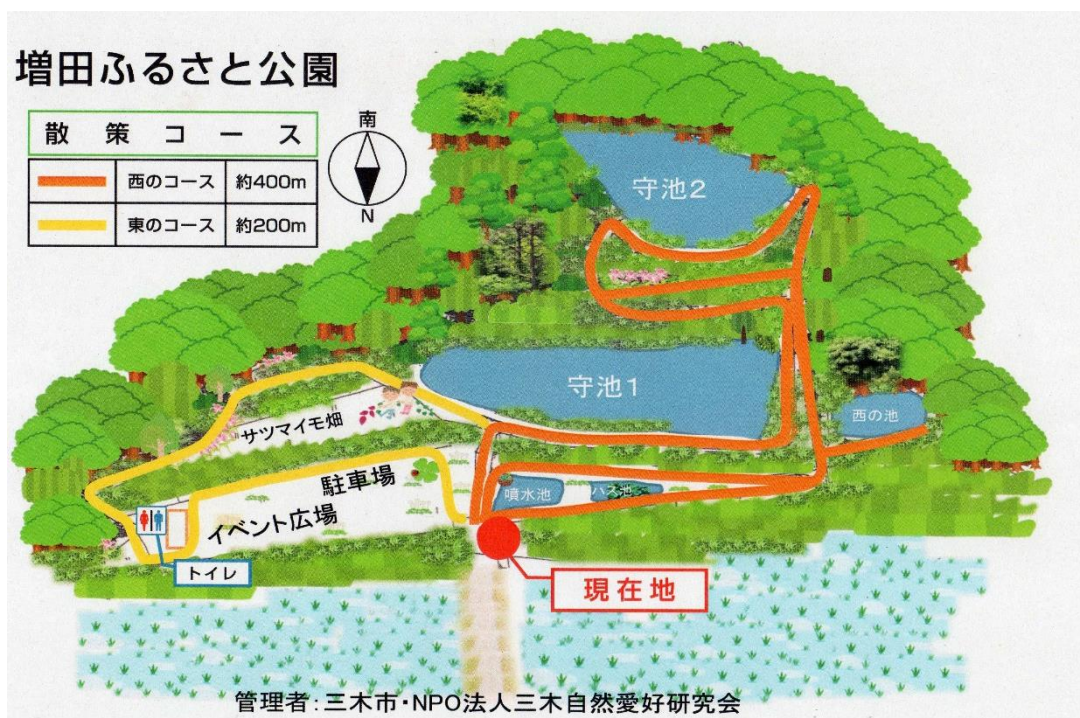
座談会は、この後も、ふるさと公園の希少な動植物やその保全について、熱く語り合いが続きました。限られた紙面の中で、それらを書き記すことはなかなか難しい作業でした。

話の中で、今回のテーマである「増田ふるさと公園」から外れた内容は、やむを得ず省略しましたが、それらはどれも貴重な資料として後世に残しておくべきものだと考え、録画ビデオと録音データ並びに文章は全て無修正のものを事務局において保管します。

この座談会で、全国でも非常に希な経緯をたどって「増田ふるさと公園」が三木市に誕生したことが理解していただけたのではないかと思います。また、初代理事長である小倉 滋先生の動植物に対する深い識見と愛情、それに共鳴した地域の皆さんや行政関係者の理解が揃わなければ現在の「増田ふるさと公園」は無かったであろうということが私には実感できました。そして、その後の公園を懸命に守り続け、後世に引き継ごうとされる二代目、三代目理事長の並々ならぬ努力と苦勞に触れ、心から敬意と感謝の気持ちが湧いてきました。

今回の座談会の記録や文字起こしに際しては、米村 環さんが力を貸してくださいました。また、文章の修正加除には話者の小倉先生はじめ、二代目理事長室谷さん、三代目理事長北村さんからご確認をいただきました。

まずは、話の内容を正確に記述することを最優先にし、めちゃくちゃ播州弁の会話をテキスト化し、読みやすい文章に書き換えていきましたが、正確に記述できたかどうか、やや不安な部分もあります。そこは、また、歴代理事長に直接確認しながら、三木市の貴重な財産である「増田ふるさと公園」を地元地域の皆さんと行政、そして三愛研の総力をかけて保全し続けていきたいと思います。





NPO 法人三木自然愛好研究会

4月のふるさと公園

# 三愛だより

第 228 号 2023 年(令和 5 年)4 月 20 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>



守池 1 号

## 2023 年度『年間イベントスケジュール』のチラシが完成!

**申込用紙**  
5月8日(月)より第一次受け付けを行います。  
下の申込用紙をコピーし、必要事項をご記入の上受付担当(横山)へお申し込みください。  
締切日: 9月1日に於て第一次受付締め切りとなります。  
その後の申し込みも受付可能ですが申し込みの順番は先着順となります。  
参加人数に達しない場合は、追加で申し込み受付いたします。第二次受付も承ります。

**年間イベントスケジュール 保存版**  
2023(令和5)年度  
ふるさと公園の公開かんさつ会  
里山まつり  
自然大好き! 大人も子どもも大集合!

**【おことわり】**  
文字が不鮮明です。  
詳しく知りたい方は、増田ふるさと公園 HP のトップページ右下の 2023 イベント情報をご覧ください。

今年も三木青年会議所の協力を得て、三愛研の市民対象のイベント日程を示したチラシ(両面二つ折り)を作成しました。

昨年度同様に、表(P.1)は 11 月 3 日のふるさと公園里山まつりを案内したデザインなので、前年度と間違わないようにしてください。内面 P.2 にはふるさと公園での公開観察会の案内です。これも昨年度と同じく基本的に第一日曜日に開催、年間 7 回を予定しています。公園の観察会だけではなく、サツマイモ掘りなど「体験」も取り入れたふれあいの場になっています。P.3 は親子で行う自然体験・環境学習の案内です。遊びを通して田圃や川、里山などに住む生き物と触れあうプログラムを提供しています。このイベントは申込みと参加料が必要なので、P.4 にその申込用紙を付けています。P.3 には「ふるさと公園里山まつり」も案内しています。コロナ禍で 3 年続けて中止となりましたが、今年は開催する予定です。

チラシは、市内小学校(全児童配布)、また、市内の公民館等の公共施設にも配布しています。

会員の皆さんには、一部同封しております。会員諸氏の知り合いや地域の方にもご案内願います。更に必要な方は、市内諸施設に問い合わせるか三愛研の役員に直接お問い合わせください。

また、三愛研の活動やふるさと公園については、HP(ホームページ)や SNS(Instagram、Twitter)の QR コードを読み取ってご覧ください。(文責:横山)



HP



Instagram



Twitter

## 2023年3月～4月上旬の事業報告

- 3月 2日(木) 活動推進連絡会 参加9名
- 3月 4日(土) 虫の冬越し探検隊 集合8:30、受付9:30、開始10:00  
参加状況:8組、21名(子供10、幼児1、大人10) 前号に詳細掲載
- 3月 5日(日) おもだかの原稿締め切り 最終11本
- 3月10日(金) 三愛だより発送 6名
- 3月27日(月) 年間事業パンフ仕分け作業 13:30 8名  
(3月15日原案、3月20日印刷依頼6,000枚)
- 3月29日(水) 噴水池の水抜き 6名
- 3月31日(金) 室谷原稿点検 5名 市民活動センター 9:30  
野外活動連絡協議会 エオの森研修センター 19:00 北村
- 4月 2日(日) 噴水池の水抜き 池町 次ページに詳細掲載
- 4月 3日(月) 噴水池レンコン掘り 9名
- 4月 4日(火) 別所地区観察会 9:00 興治公民館集合 稲岡(案内)他3名、別所地区約10名  
観察された主な植物:シュンラン、アマナ、ハナヤスリ、ミヤマウズラ、コ克蘭、トンボソウ
- 4月 6日(木) 三役会 19:00
- 4月15日(土) (ふるさと公園公開観察会～春の野草観察&野草の天ぷら～は雨天中止)  
ふるさと公園への案内板2か所設置 13:00

昨年秋に、増田地区内の交通安全対策とふるさと公園への道案内について、地区の方と検討して三木市に案内板の作製を依頼しました。

この度、増田地区立ち合いのもと、2カ所に設置しました。

ふるさと公園に来られる方は、車は徐行していただき、地域住民に迷惑がかからないようお願い致します。



ふるさと公園の正面北の  
三叉路(両面)



西より村内に進入した最初の  
十字路(右に設置)

- 4月15日(土) 理事会・活動推進連絡会 15:00～18:00 理事11名、監事2名

2023年度最初の理事会を、三木市教育センター中会議室で行いました。

理事(任期2年目)11名(内、委任1名)、監事2名出席のもと、下記の議題を審議しました。

- ①2022年度事業報告、②2022年度決算報告、
  - ③2023年度事業計画案、④2023年度予算案、
  - ⑤2023年度通常総会について
- ①～④の議案については、5月28日の通常総会にて審議・決議されます。

なお、通常総会の日程は右記のように決まりました。

### 【5/28 通常総会の日程】

受付 9:00～  
総会議事 9:20～9:40  
記念講演 10:50～12:20  
昼食・談話 12:20～13:00  
解散・後片付け 13:00  
\*弁当を用意します



**ふるさと公園だより**  
 ちょっと立ち寄って  
 覗いてみませんか！  
 今、このような生きものが・・・

策 コ ー ス

西のコース	約400m
東のコース	約200m



4月に入り、生きものたちが活気をおびてきた。タンポポやスミレが一齐に咲き、次々と息をつく暇もなく草花が開花。溝にはアカガエルのオタマジャクシやメダカが活発に泳ぎまわる。何処からか、シュレーゲルアオガエルの鳴き声が・・・守池2号の堰堤にはツツジ類が、林床にはショウジョウバカマが訪問者を迎えてくれる。チョウやトンボも活動し始める。

**レポート**

～花よりレンコン～ ハスの地下茎掘り上げ記

桜花爛漫の誘いにも負けず、噴水池の大賀ハスの地下茎を掘り上げました。

噴水池は公園ゲートを入って右手にあります。池町会員の記録によると2007年に池の工事を実施。遮水シートを張り堤頂から池底まで90cmの深さがあります。大賀ハスが移植されていますが、このまま放置すると手に負えないことになるため、初めて地下茎の掘り上げを行うことになりました。

3月29日、令和4年度の助成金で購入した4サイクルエンジン搭載のポンプを使いながらバケツリレーも実施。ほぼ一日、池の水抜き作業を行いました。水面に隠れていた魚のシェルター用U字溝の頭頂部が見えるまで水を抜くことができました。

4月2日、排水した水が逆流したため再度噴水池の水抜きを行う。

4月3日、堆積した表面の泥をバケツリレーで掻き出した後、いよいよレンコン掘り。遮水シートを抑えるために転圧された約20cmの土の層の最低部まで延び放題になっていた地下茎を掘り上げました。今後はケースを池に設置して、その中でハスを管理することになります。

4月4日、守池1号から注水し元の水位に戻しました。


追記 池からはザリガニ、コオイムシ、ミズカマキリ、ヤゴ、フナ、ドンコ、タニシなどを採取。また昼食時には北村理事長お手製のレンコンのきんぴらをいただきました。ごちそうさまでした。

(文と写真：米村環)





## 三愛研 2023年4月中旬～5月 事業活動予定表

日	曜	4月 行事 他	日	曜	5月 行事 他	
15	土	(公園公開観察会は雨のため中止) 理事会&活動推進連絡会 15:00～	8	月		
16	日		9	火		
17	月		10	水		
18	火		11	木	議案書・おもだか他発送作業 14:00～ 活動推進連絡会 16:00～	
19	水		12	金		
20	木	三愛だより発送作業 15:00～	13	土	ヤブレガサモドキ (4/11 増田)	
21	金		14	日		
22	土		15	月		
23	日	米村さんが、 4/15の山菜食材を使って 調理されたウドの酢味噌 和えと天ぷら	16	火		
24	月		17	水		
25	火		18	木		
26	水		19	金		
27	木	(三役会議)	20	土		ヤブレガサモドキ株数調査
28	金		21	日		
29	土		22	月		
30	日		23	火		
5月			24	水		
1	月		25	木	(三役会議)	
2	火		26	金		
3	水		27	土	総会準備 15:00～	
4	木		28	日	通常総会・記念講演 9:00～ 役員集合	
5	金		29	月		
6	土		30	火		
7	日		31	水		

【備考】5/28 記念講演 講師：永幡嘉之氏(三愛研会員、自然写真家)  
演題：「裏山から世界各地～森を歩き続けた半世紀～」

お知らせ

## 三愛だより5月号より編集担当者が代わります

平成30年の5月号(169号)より三愛だよりの編集を任されて、この4月で丁度5年になりました。その間、正副理事長をはじめ会員の方々に原稿を依頼するなどして助けて頂き、ミスを重ねながらも何とか毎月途切れることなく発行出来ましたことを深く感謝致します。

この度、米村理事に担当をお願いしたところ快諾して頂き、次号より編集して頂きます。会員の皆さまには今後とも引き続いてご協力のほどよろしくお願い致します。(横山)



NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 229 号 2023 (令和 5) 年 5 月 11 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

我入れば暫し菖蒲湯あふれやまず/高浜虚子

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

## =4 月 15 日の活動推進連絡会より=

4 月 15 日に開催された理事会の内容については、前月号で報告しましたが、理事会終了後引き続き開催された活動推進連絡会で、雨天時のかんさつ会とイベントの開催について話し合いがされ、また、藍について福本麻由美会員から説明を受け、ふるさと公園の畑に藍を定植し、生葉を使って、たたき染めなどの体験を行うことが決まりました。

### 1 雨天時のかんさつ会、イベントの開催判断について

この日は午前 10 時から「春の草花かんさつ&野草の天ぷらを楽しもう」が予定されていました。ところが、14 日の午後から 15 日の午前にかけて、まとまった雨量と強い風との天気予報が出ていたことから、テントの借り上げ、設営などの準備や当日の開催も難しいとの判断から 14 日の午後 10 時 30 分に中止と決定しました。

しかし、実際には予報ほどの雨風はなく 15 日の午前 9 時から正午は雨、風ともなくかんさつ会ができるという状況でした。幸い参加者に混乱はなかったものの、このようなことから、今後のかんさつ会とイベントの開催判断について話し合いの結果、次のとおりになりました。

□基本は、開催日当日の午前 8 時に三木市において、天気予報で雨の「注意報」「警報」が出ている時は開催を中止する。

□事前準備の段階でイベントの中止判断をした場合でも、かんさつ会は、当日に「注意報」「警報」が出ていない時は開催する。(少雨決行)。

★開催か中止かがわかりにくい時は、役員に問い合わせいただく。現地でも役員が対応する。三愛研のホームページ、Instagram、Twitter を利用し情報発信を行う。

### 2 藍の定植について (文と写真:福本麻由美)

今年、ふるさと公園の畑にタデアイを植えさせていただくことになりました。タデアイは藍染めの染料となる植物です。青色の色素インジゴを生成する植物を総じて「藍」と呼び、日本の多くの地域で昔から栽培されているタデアイはタデ科、琉球藍はキツネノマゴ科、インド藍はマメ科、ユーラシア大陸に多い大青(タイセイ、ウオード)はアブラナ科と、全く違う種類がこれに含まれます。

ジャパニーズブルーでお馴染みの紺は、タデアイの葉を有機物とともに手間暇かけて発酵・熟成させた染液で染めます。この染料は木綿と相性がよく、江戸の町は青で埋め尽くされました。また、防虫、抗菌など、機能性も伴った染め方といえます。

同じく藍の葉から、手間暇をかけずに染める方法もあります。使うのは生の葉と水だけ。絹などの動物性繊維なら、すがすがしい水色に染まります。布の上に葉を並べ、ハンマーなどでとんとたたくと、葉が持っているインジゴが布に染めつく「たたき染め」という手法もあります。皆様にも体験していただけたらうれしいです。(次頁へ続く)



3月30日に播種し、5月6日に定植しました。梅雨が藍を大きく育てます。葉の盛りは盛夏です。刈っても刈ってもまた伸びる。非常に生命力の強い植物です。お盆を過ぎると、濃いピンク色の花穂をつけます。



## 2023年4月中旬～5月上旬の事業報告

4月20日(木) 三愛だより、年間イベントスケジュール発送 15:00-17:00 8名

ホームページアドレス <http://mikisizen.gl.xrea.com> をパソコンなどに入力する  
または、4月号IP掲載のHPのQRコードをスマホで読み取ると、カラー版「三愛だより」を、三愛研のホームページで見ることができます。

4月26日(水) 豊地小学校3年生環境学習支援 10:00-11:30 児童8名

2023年(令和5年)5月1日 月曜日 不申 戸 兼所 屋早

### 希少生物 豊地小児童が観察 三木の増田ふるさと公園

小学生が希少な動植物を観察し、特徴や生態を学ぶ授業が、増田ふるさと公園(三木市細川町増田)であった。豊地小学校3年生8人が、セトウチサンシヨウオオなど希少な生き物について、手で触れながら学んだ。(小野明海)

県内の小学3年生が行う環境体験事業。同校の児童は15年以上前から、毎年同公園で学んでいるという。今年4月26日にあり、NPO法人三木自然愛好研究会のメンバーがガイドを務めた。

雨の中子どもたちは、シュレーゲルアオガエルの美しい鳴き声に耳を澄ませ、セトウチサンシヨウオオなど初めて見る生き物をじっくり観察。ニホンアカガエルのオタマジャクシやドンゴにそと指を伸ばし「ムニムニユする!」など歓声をあげていた。

ザリガニが水草を食べてしまい、在来種のすみかや産卵場所を奪っていることも学んだ。田村碧音さん(8)は「絶滅危惧種をいっぱい見られてよかった。ザリガニはおなかをうろこみたいにくらみで面白かった」と話していた。

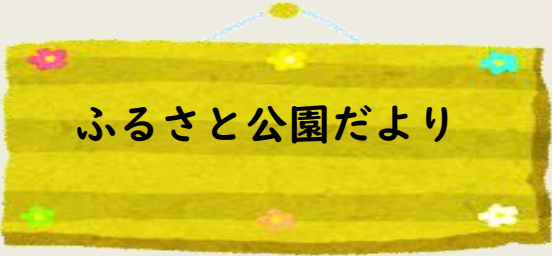
希少な生き物を観察する子どもたち=三木市細川町増田

5月2日(木) 三役会議

5月11日(木) 総会議案書、おもだか、三愛だより発送 14:00

※5月28日の通常総会に議案書をお持ちください。

活動推進連絡会 16:00 市民活動センター



**ふるさと公園だより**

西の池のミヤコグサ、カザグルマが見ごろを迎え、チョウやトンボが増えてきました。



エゴノキ

レンゲ



ミヤコグサ



カザグルマ (紫)



カザグルマ (白)



ホソミオツネントンボ



ベニシジミ



アオスジアゲハ

ハラビロトンボ



ヨツボシトンボ



ヒメウラナミジャノメ

**お詫びと訂正**  
 前月号の P3 ふるさと公園だより中「シハイスミレ」とあるのは誤りです。正しくは「タチツボスミレ」です。お詫びして訂正します。



## 2023年5月中旬～6月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事など	日	曜	行事など
5月			5月		
12	金	三木山森林公園観察会事前打ち合わせ 15:00	6	火	
13	土	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>前月号に誤りがありました。訂正し再掲します。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【5/28 通常総会の日程】</p> <p>受付 9:00- 開会・来賓紹介 9:20-9:40 総会 9:40-10:40 記念講演 10:50-12:20 昼食・談話 12:20-13:00 解散・後片付け 13:00- *弁当を用意します</p> </div> </div>	7	水	
14	日		8	木	三愛だより発送作業 15:00
15	月		9	金	
16	火		10	土	
17	水		11	日	
18	木		12	月	
19	金		13	火	
20	土	ヤブレガサモドキ株数調査 8:45 ふるさと公園集合	14	水	豊地小学校3年生環境学習支援
21	日	ふるさと公園植生調査、草刈り 9:00	15	木	
22	月		16	金	
23	火		17	土	
24	水		18	日	脇川草刈り 教海寺9:00
25	木	三役会議	19	月	
26	金		20	火	
27	土	総会準備 15:00 市民活動センター3F 大会議室	21	水	
28	日	通常総会・記念講演 集合 8:30	22	木	
29	月		23	金	テント設営 教海寺15:00
30	火		24	土	水の中の生き物大発見 集合 8:00 開会9:30
31	水		25	日	
6月			26	月	
1	木	活動推進連絡会 19:00	27	火	
2	金	集合 9:00 開会 10:00	28	水	
3	土		29	木	三役会議
4	日	初夏の生き物かんさつ&サツマイモつる植え	30	金	

**【備考】5/28 記念講演 講師：永幡嘉之(ながはたよしゆき)氏：三愛研会員、自然写真家**  
**演題：「裏山から世界各地～森を歩き続けた半世紀～」**

□三愛だよりのご感想、ご意見、ご要望は米村まで。下記メールアドレスへどうぞ。

□情報をお待ちしています。 email:sirouma2000@yahoo.co.jp

例：ツバメの子育て、庭の花が咲いた、アマガエル、カタツムリの写真、

旅の風景(スマホ写真OK)、花の苗、野菜いりませんかなどなどお気軽にどうぞ。

□NHK朝ドラ「らんまん」は牧野富太郎がモデル

ドラマは、日本植物学研究の基礎を築いた高知県出身の牧野富太郎(ドラマでは槇野万太郎)の好きなもののため、一途に突き進む波乱万丈の人生が、フィクションで描かれています。

兵庫県の花「ノジグク」の命名者でもある牧野富太郎と兵庫とのゆかりについて、六甲高山植物園で7/2まで、人と自然の博物館では7/30まで特別展が開催されています。

編集者コラム

NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 230 号 2023 (令和 5) 年 6 月 8 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

世の中のひとのころにならいいけん  
かはるにはやきあじさいの花/樋口一葉

## ＝令和 5 年度通常総会と記念講演会を開催＝

5 月 28 日、市民活動センター 2 階中会議室に、仲田市長、松原市議会議長、村岡県議会議員、鍋島教育振興部長を来賓に迎え、本年度通常総会を定刻どおりに開会。来賓あいさつの後、議長を選出し、議事に移りました。初めに、議案書修正について、正会員数は 81 名と説明がありました。次に定足数は、出席者 30 名、委任状 25 名で合計 55 名となり、正会員数の過半数を上回り、総会が成立していることを確認しました。議案審議では、提出された 2022 年度事業報告、同じく決算報告、監査報告、2023 年度事業計画案、同じく予算案の合計 5 件の議案は、いずれも可決されました。



北村理事長のあいさつ

### 永幡嘉之会員による記念講演会

#### 「裏山から世界各地へ～森を歩き続けた半世紀～」

三愛研の会員でもある永幡さんは、幼稚園から高校まで三木市内に在住し、三木中学校では生物部員として小倉滋さんの指導を受けておられます。講演では、里山のいまを記録した写真を見ながら、草地の火入れやまき割りなど、里山が維持されてきた文化や技術が途絶える恐れがあること、安易な農作業イベントへの警鐘、言葉がひとり歩きしている日本の SDGs への疑問などを話されました。

また、若者と勉強会を続けることで目的意識の共有や知的好奇心を刺激し、草刈り作業や植物の個体数調査を若者と一緒に行われている永幡さんの情熱と活動に、今後の三愛研が進む方向性のヒントがあるように思いました。また、講演会には生物部の仲間も多く同席され、一緒に活動された芝直幸さんが当時作製されたチョウの標本が、会場に展示されました。(文と写真:米村環)



永幡嘉之さんの講演



芝直幸さんのチョウの標本



## 2023年5月中旬～6月上旬の事業報告

5月12日(金)三木山森林公園観察会事前打ち合わせ 15:00- 3名

5月20日(土)ヤブレガサモドキ株数調査 ネスタリゾート、増田のため池 8:45- 6名

会員6名で市内2か所のヤブレガサモドキの株数を調査しました。株の周囲の伸びている草木を刈り取りながら数えました。ネスタ敷地内の全域では昨年の757株から926株に増え、近くのため池土手では391株から438株に増えていました。ヤブレガサモドキの生育が見つかって最初の2016年の調査と比べるとネスタ内は約4倍、ため池土手は約2.6倍です。毎年冬にしている草刈り作業の効果が確実に出てきています。今回は小さな虫による食害が見られ、ネスタ内では花穂を着ける株数が大きく減少していました。また昨年の観察では不稔の種子ばかりの株が多いことなど気にかかることもあり、これからも継続した観察と管理が必要です。(文:丸岡道行)

5月21日(日)ふるさと公園植生調査と草刈り 9:00- 三愛研9名、水辺ネットワーク2名

5月25日(木)三役会議

5月27日(土)総会準備 市民活動センター2F 中会議室 15:00- 7名

5月28日(日)令和5年度通常総会 市民活動センター2F 中会議室 9:20-12:20 30名

6月1日(木)活動推進連絡会 教育センター 19:00- 10名

6月4日(日)初夏の生き物かんさつ&サツマイモつる植え 10:00-11:45 一般8名、会員11名

会員は9時に集合し園内の草刈り作業。10時になり北村理事長のあいさつで開会。まず、駐車場脇の溝に置かれた「もんどり」に入った生き物をたらいに移して観察。ドジョウ、トノサマガエル、メダカ、セトウチサンショウウオ(幼体)、ヌマガエル、アカガエルとシュレーゲルアオガエルのオタマジャクシが入っていました。園内ではモノサシトンボ、ハラビロトンボ、ショウジョウトンボ、キイトンボ、モンキチョウ、ベニシジミ、ツバメシジミなどの多くのトンボやチョウそしてササユリ、オカトラノオ、イシモチソウの花などを観察できました。観察の後、畑3畝にサツマイモのつる150本を植えました。10月の収穫が楽しみです。ふるさと公園周辺の田植えが終わった水田を渡る風が心地よい一日でした。



6月8日(木)三愛だより発送作業 市民活動センター 15:00-

## ふるさと公園だより

ササユリが咲いています。  
モノサシトンボの姿を多く見るよ  
うになり、午後からはミドリシジミ  
も飛んでいます。



ササユリ



イシモチソウ



ミドリシジミ



ヒツジグサ



アオイトトンボ



モノサシトンボ



ツバメシジミ



ショウジョウトンボ



モンキチョウ



クロイトトンボ



ヒメジャノメ



## 2023年6月中旬～7月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他
6月			7	金	
14	水	豊地小学校3年環境学習支援	8	土	
15	木		9	日	
16	金		10	月	
17	土		11	火	
18	日	草刈り 教海寺(細川町教海寺)9:00	12	水	
19	月		13	木	三愛だより発送作業 15:00
20	火		14	金	
21	水		15	土	
22	木		16	日	ふるさと公園植生調査と草刈り
23	金	水の中の生き物大発見テント設営 教海寺 15:00	17	月	海の日
24	土	水の中の生き物大発見 教海寺 集合8:00 開会9:30	18	火	
25	日		19	水	
26	月		20	木	
27	火		21	金	
28	水		22	土	
29	木	三役会議	23	日	
30	金		24	月	
7月			25	火	
1	土		26	水	
2	日	梅雨の公園かんさつ会 集合9:00	27	木	三役会議
3	月		28	金	親子川がき教室準備
4	火		29	土	親子川がき教室 集合8:00 開会9:30
5	水		30	日	
6	木	活動推進連絡会 19:00	31	月	

【備考】会費納入をお忘れなく。振込先は5月11日付け通常総会のお知らせ文書に記載しています。納められた会費が、法人運営の大事な資金として、さまざまな事業に活用されます。よろしくをお願いします。

□永幡さんの講演会は、ぶれのない情熱的な活動など感動を覚える内容でした。ページ数の関係で、大雑把に要約した内容の掲載しかできないのが残念です。

講演を聞かれた会員から感想が、理事にメールで届いたので掲載します。

## 編集者コラム

「永幡氏の講演は今私が考えている事と共鳴していて同感です。NHK番組の超進化論を見て、最新研究が生き物の方から人間社会を見る見方が変わっています。やはり、映像の力って大きいですよ。同じく、NHK番組の、欲望の資本主義や、映像の世紀や歴史番組を必死で見えています。でも、アウトプットの機会がありませんよね。加齢による、知識の蓄積も再構築力も衰えている。まあ、それでも興味のある分野を出来るだけ詰め込むかね！これぞ本当の自己満足？でも、私にできるアウトプットは、考えながら足元の日常生活を続けること。」

□永幡さんの著書、岩波書店から出版されているブックレット「里山危機」がおすすめです。

NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 231 号 2023 (令和 5) 年 7 月 13 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

板びさし ふれてもりくる 月かげに

うつるも涼し ゆうがおの花/樋ロー葉

## =6 月 24 日、水の中の生き物大発見=

水中の生き物を観察するイベントが、三木市細川町脇川の教海寺周辺であった。子どもや保護者、スタッフなど約 30 人が参加。メダカやヤゴの採集や、顕微鏡でのミシコなどの観察を通して楽しく生

態を学んだ。  
NPO 法人三木自然愛好研究会が先月 24 日に開催。2016 年に始まり、8 回目となる。子どもはまず、教海寺の堀でメダカやアメリカザリガニを捕獲。研究会のスタッフから、ザリガニが水草や生態系に与える影響について教わった。続いて、湧き水「脇川の念仏水」の下流でプラナリアなどを採集。湧き水を口に

メダカなど捕獲、顕微鏡も体験細川町

水中の生き物を観察するイベントが、三木市細川町脇川の教海寺周辺であった。子どもや保護者、スタッフなど約 30 人が参加。メダカやヤゴの採集や、顕微鏡でのミシコなどの観察を通して楽しく生

ザリガニなどを捕まえようと、堀に網を入れる子どもら。三木市細川町脇川(三木自然愛好研究会提供)



## 水中生物探しにワクワク

神戸新聞三木版

2023 年 7 月 7 日

## =7 月 2 日、梅雨の公園かんさつ会 ハンゲショウも見ごろでした=

雲に覆われてどんよりした空、まさしく梅雨の観察会。一般参加者は 3 家族 8 名で、水草プロジェクトの水槽のある場所から観察会をスタート。トチカガミヤガガブタのハート型の葉やアオイトトンボ、キイトンボやモノサシトンボを観察。また、7 月 2 日は暦の上では半夏生にあたり、公園の東端ではハンゲショウが最盛期を迎えていました。守池 1 号ではチョウトンボ、コシアキトンボやハラビロトンボが飛び交うなどふるさと公園がトンボの楽園であることも実感。理事長の日々のザリガニ捕獲の成果です。同池ののり裾ではイシモチソウ、モウセンゴケが復活しており、水草プロジェクトの水槽にあるオオバナイトタヌキモ(水辺ネットの碓井さんが同定)を合わせると、公園内では 3 種類の食虫植物の花を見ることができました。(文と写真:横山法次)



水槽に何がいるかな



オオガハスは閉じていました



## 2023年6月中旬～7月上旬の事業報告

6月14日(水)豊地小学校3年環境学習支援 10:40- 会員3名



6月18日(日)教海寺草刈り 9:00- 4名

6月23日(金)水の中の生き物大発見テント設営 教海寺 15:00- 6名

6月24日(土)水の中の生き物大発見 教海寺 9:30-12:00 一般20名、会員13名

7月2日(日)梅雨の公園かんさつ会 9:20-12:20 一般8名、会員9名

7月5日(水)豊地小学校3年環境学習支援 10:40- 会員3名

// 市史編さん協カプロジェクトロ吉川町ため池調査 雨天中止

7月6日(木)市史編さん協カプロジェクト吉川町ため池調査 8:30-17:00 会員5名、水辺ネット2名

// 活動推進連絡会 教育センター 19:00- 9名

7月7日(金)市史編さん協カプロジェクト細川町ため池調査 8:30-12:00 会員5名、水辺ネット1名

7月13日(木)市史編さん協カプロジェクト志染町ため池調査 8:30-12:00 会員5名、水辺ネット2名

// 三愛だより発送作業 市民活動センター 15:00-



毎月第2木曜日の午後3時から市民活動センターで、三愛だよりを印刷し、封筒に入れる作業を行っています。このあと手分けして、会員各戸へお届けしています。お手伝いいただける方のご参加をお待ちしています。

### ☆☆☆ 参加者募集中 藍の叩き染め体験会 ☆☆☆

日 程 8月2日(水)午前9:30-12:00

場 所 まなびの郷みずほ:市高齢者大学(細川町瑞穂 247-2)

参加費 500円(当日集金)

持ち物 綿または麻のTシャツかハンカチ

参加対象 三愛研会員

その他 事前の申し込みは不要です。

ご質問は池田裕子さん 080-3849-9493 まで



ふるさと公園だより

午前中はオオガハスが咲いています。キイトンボやチョウトンボも見かけるようになりました。

チョウトンボ



モノサシトンボと  
サイコクヒメコウホネ



ハンゲショウ



オオガハス



ウツボグサ



キイトンボ



ニホンアマガエル

ツマグロヒョウモン



ウシガエル



トノサマガエル





## 2023年7月中旬～8月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他
7月			7	月	
14	金	市史編さん協力プロジェクトため池調査	8	火	
15	土		9	水	
16	日	ふるさと公園植生調査と草刈り	10	木	三愛だより発送作業 15:00 市民活動センター
17	月	海の日	11	金	山の日
18	火		12	土	<b>「親子川がき教室」スタッフ募集中</b> 今回はコロナ前の内容で実施します。 ☆用具、機材の運搬設置 ☆食事準備 ☆安全監視、補助 ☆車両誘導、会場誘導 ☆受付など ひとりでも多くの方々の力が必要です。当日は午前8時に現地集合です。ご協力いただける方は、担当の植田さん(090-5257-7701)まで、ご連絡をお願いします。
19	水	市史編さん協力プロジェクトため池調査	13	日	
20	木		14	月	
21	金	市史編さん協力プロジェクトため池調査	15	火	
22	土		16	水	
23	日		17	木	
24	月	市史編さん協力プロジェクトため池調査	18	金	
25	火		19	土	
26	水		20	日	
27	木	三役会議	21	月	
28	金	親子川がき教室準備	22	火	北播磨県民局主催「見て!見て!この虫なあに?」
29	土	親子川がき教室 9:30 御坂サイフォン橋下	23	水	
30	日		24	木	三役会議
31	月	市史編さん協力プロジェクトため池調査	25	金	
8月			26	土	
1	火		27	日	
2	水	叩き染め体験会 9:30-12:00 まなびの郷みずほ	28	月	
3	木	活動推進連絡会 19:00 市民活動センター	29	火	
4	金		30	水	
5	土		31	木	
6	日				

**三木山で昆虫探そう**  
来月22日、県民局がイベント

豊かな自然が保全されている県立三木山森林公園（三木市福井）で8月22日午前10時～正午、チョウやトンボなどの昆虫採集と専門家による解説を行う親子向け体験事業「見て！見て！この虫なあに？」が明かされる。主催の北播磨県民局が参加を募っている。

自然に親しみ、好奇心を育むのが狙い。同公園は普段は動植物の採取が禁じられているが、今回は特別に許可され、捕まえた虫は持ち帰らず園内で放す。当日はNPO法人三木自然愛好研究会のメンバーが解説などを行い、県地球温暖化防止活動推進員北播磨地域連絡会も協力する。

参加無料。対象は北播磨地域の小学生と保護者で、定員は20組40人（応募多数の場合は抽選）。虫捕り網や虫かご、飲料水、タオル、帽子、筆記用具は各自で持参する。応募は7月24日までに、北播磨県民局ホームページの募集案内から入力フォームに進み、必要事項を記入する。同県民局民交流室環境課 ☎0795・42・9377

7/8 神戸新聞三木版

**【備考】8/2の藍の叩き染め体験会の参加者を募集中です。詳しくは今月号2頁をご覧ください。事前申込は不要です。**

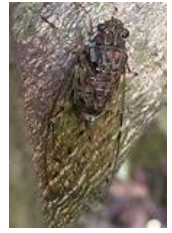
□線状降水帯による豪雨被害がニュースになっています。三木は災害が少ないと言われているが、昭和7年の水害では大きな被害が出ています。油断は禁物です。

**編集者コラム**

**【兵庫県災害年表(気象庁)を抜粋】美囊郡三木町は山間貯水池の堤防決壊による、濁流のため惨害を受けた。同町水災誌によれば7月1日午前8時より降雨、午後に至り雨勢強まり夜に入って強雨となり、2日昨夜来の雨は未明に至って車軸を流す如く、東天漸く白まんとする頃永代池決壊し新墓流失した。美囊川増水12尺、二位谷池・福田池・恵宝池・川池等時を同じくして決壊、水速1秒20間、急勾配の谷川を奔流して芝・平山・下滑原勾配の谷川を奔流して芝町・平山・下滑原町一帯を襲い、死者33名、重傷・軽傷者31名、家屋流失・全壊57戸、半壊17戸、小破23戸、床上浸水73戸、床下浸水1450戸の被害を出した。**

NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 232 号 2023 (令和 5) 年 8 月 10 日 発行

うち向ふ、竹の林の夕じめり

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

ひぐらしのこゑを ひとり聴きみる/北原白秋

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

## ＝4 年ぶりにフルバージョンで開催、親子川がき教室＝

7 月 29 日、食育を含めたフルバージョンでの親子川がき教室を 4 年ぶりに行いました。今年から参加費を 200 円値上げしましたが、植田副理事長の昨年参加者への呼びかけもあり、9 家族 29 名の参加がありました。

北村理事長のあいさつの後、山根会員から川遊びでの注意、松本医師(会員)から熱中症の注意、伊豆原会員から食育の説明を受けました。

参加者は、ライフジャケットを付け、御坂神社の境内から志染川のサイフォン橋の下流へ移動。山根会員から水中での身のこなし方を学びながら、山

根会員や横山副理事長のとても楽しそうなようすに影響され、子どもたちは少しずつ水に慣れ、魚を探したり、水に飛び込んだりと大胆になりました。

川遊びの後、境内に戻り

学習の時間。事前に川に仕掛けたもんどりに入ったオイカワ、カワムツ、ギギなどについて理事長や向山会員から説明を受け、水槽の魚やカメ、特定外来生物のアメリカザリガニを観察。学習の後は、お楽し

みの食育の時間。モツゴ、スジエビの佃煮、モツゴのから揚げやザリガニの炭火焼は大人気でした。楽しい時間はあっという間に過ぎ閉会。参加者の笑顔があふれ、けがや事故もなく無事に終えることができました。スタッフのチームワークの良さもあらためて感じました。追記：会の活動に興味を持たれた参加者、素晴らしいイベントだとの声も役員に寄せられました。(文と写真：米村環)



ごはんがすすむ佃煮



炎天下の冷汁は最高



ザリガニの旨さを知りました



## 2023年7月中旬～8月上旬の事業報告

7月14日(水) 市史編さん協力プロジェクト吉川町ため池調査 8:30-12:00 会員5名、水辺ネット1名

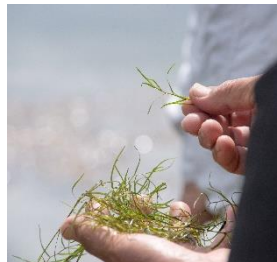


【調査内容】水質測定、水草、魚類、水生昆虫採取、トンボ類の確認  
堰堤の植物確認

※水辺ネット:兵庫・水辺ネットワーク。1996年に発足したさまざまな分野の研究者が参加した団体。2022年末に団体としての活動を中止。

7月16日(日) ふるさと公園植生調査、草刈り 9:00-12:00 会員12名、水辺ネット1名

7月19日(木) 市史編さん協力プロジェクト細川町ため池調査 8:30-12:00 会員6名、水辺ネット2名



【写真】

左:ヒルムシロ

右:採取した水草の種類を同定中

7月21日(金) 市史編さん協力プロジェクト吉川町ため池調査 8:30-12:00 会員5名、水辺ネット2名

〃 「見て見てこの虫なあに」打合せ 県立三木山森林公園 16:00-17:00 会員4名

7月24日(月) 市史編さん協力プロジェクト吉川町ため池調査 8:30-12:00 会員3名、水辺ネット2名

7月27日(木) 三役会

7月28日(金) 県立三木山森林公園運営協議会 10:00- 1名

〃 親子川がき教室準備 15:00-会員13名 ※炎天下お疲れさまでした。

7月29日(土) 親子川がき教室 御坂サイフォン橋下 9:30-13:30 参加:9家族29名、会員28名

7月31日(月) 市史編さん協力プロジェクト細川町ため池調査 8:30-12:00 会員6名、水辺ネット2名



【写真】

左:もんどりに入ったモツゴ

中:水質測定

右:ふるさと公園のガガブタ  
は短花柱花と判明

8月2日(水) 藍の叩き染め体験会 まなびの郷みずほ 9:30-12:00 会員17名

福本会員を講師に会員対象で初開催。藍の葉を叩き、それぞれ個性的な作品ができました。



8月2日(水) ノウサギ対策作業 ふるさと公園サツマイモ畑 14:00- 2名

8月3日(木) 活動推進連絡会 市民活動センター 19:00-21:00 10名

8月10日(木) 三愛だより発送作業 市民活動センター 15:00-17:00

## ふるさと公園だより

コオニユリが咲いています。公園では秋の七草のうち、6種を見ることができますが、7月中下旬から4種が咲き始めました。

### ゴイシジミ



### コオニユリとキアゲハ



### キトンボ



### ベニイトトンボ

### キキョウ



### ナデシコ



### オミナエシ



### ハギ



## 2023年8月中旬～9月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他
8月			5	火	
12	土		6	水	
13	日		7	木	活動推進連絡会 19:00 教育センター
14	月		8	金	
15	火		9	土	
16	水	市史編さん協力プロジェクトため池調査	10	日	
17	木		11	月	
18	金		12	火	
19	土	市史編さん協力プロジェクトため池調査	13	水	豊地小学校環境学習支援
20	日		14	木	三愛だより発送作業 15:00 市民活動センター
21	月		15	金	
22	火	北播磨県民局主催「見て!見て!この虫なあに?」	16	土	場所: 県立三木山森林公園 9:00 全スタッフ集合: 駐車場 9:30 受付開始: 森の小劇場 10:00-12:00 イベント実施 ※小雨決行(延期なし)、中止時は主催者から理事長へ連絡あり
23	水		17	日	
24	木		18	月	
25	金	市史編さん協力プロジェクトため池調査	19	火	
26	土	市史編さん協力プロジェクトため池調査	20	水	
27	日		21	木	
28	月		22	金	
29	火	市史編さん協力プロジェクトため池調査	23	土	秋分の日
30	水		24	日	
31	木	三役会議	25	月	
9月			26	火	
1	金		27	水	
2	土		28	木	三役会議
3	日	早秋の生き物かんさつ会 会員 9:00 集合 10:00-	29	金	
4	月		30	土	

【備考】新三木市史地域編の「三木の歴史」が8月1日発刊されました。旧三木町と旧久留美村が対象地域。理事長も執筆者の一人です。ぜひ手に取ってご覧ください。

□8月は子どもたちには夏休み。「親子川がき教室」は、自然を体験し、楽しさと隣り合わせの危険も学ぶ機会です。

## 編集者コラム

さて、NHKラジオ第1で「夏休み子ども科学電話相談」が、平日の午前8時30分から11時50分まで生放送されています。動植物、天文宇宙、科学、心と体について子どもの純粋な質問に、先生方の真摯な対応、やり取りに心温まることもしばしば。質問する子どもたちは、事前にかなり勉強していて、回答する先生方も、子どもの発想と着眼に驚かれることもあります。

番組は、子どもたちの「なぜ」を育て39年も続いています。夏休み、冬休み期間以外は毎週日曜日の午前10時5分からの2時間放送。個人的には生物学の田中修氏(甲南大学客員教授)の話が面白いと思います。

NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 233 号 2023 (令和 5) 年 9 月 14 日 発行

秋くさの 千草の園に 女郎花

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

穂蓼の花と たかさあらそふ/伊藤左千夫

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

## ◆◆ 9月3日 早秋の生き物かんさつ会を開催 ◆◆

会員は9時に集合し、大粒の汗を流しながら草刈り作業を行いました。一般8名、会員13名の参加があり10時に開会。駐車場脇に涼し気に咲くミズギボウシやサワシロギク、午後に開花するタヌキマメ、ゴマクサなどの希少種、倉庫裏に開花したナンバンギセル、キセルアザミ、秋の七草オミナエシ、フジバカマなどを観察しました。チョウトンボやキイトンボは飛んでいましたが、アカネの仲間やチョウの姿をあまり見かけないのは、暑さのせいではないかとS会員が言われていました。(文と写真:米村環)



フサモを観察



ヘラオモダカを観察



バッタを観察

## ◆◆ 市史編さん協力プロジェクト情報 ◆◆

### ~2023 ため池調査中間報告(概略)①~

#### 1 ため池調査の進捗状況について

- (1) 2020年5月30日から概要調査開始
- (2) 2021年9月4日から本調査開始し、同年10月31日まで、のべ100カ所のため池を調査した。中間報告は、三愛研機関誌「おもだか」通巻第25号で報告済み。
- (3) 2022年7月2日~2023年8月26日に、のべ106カ所のため池調査を実施した。

#### 2 調査内容

本調査の目的や内容、方法、調査道具については前述「おもだか」に記載したのと同様である。三愛研会員に加えて、兵庫・水辺ネットワークのメンバーにも調査協力を依頼し、主に水生植物や堰堤の植物、昆虫等の同定に協力を頂いている。(文:植田吉則)

編集担当より: 2023 ため池調査中間報告(概略) は、紙面の都合上、10月号以降に続きます。



## 2023年8月中旬～9月中旬の事業報告

8月16日(水) 市史編さん協力プロジェクトため池調査(中止:台風7号が県内を通過したため)

台風7号が兵庫県に上陸した15日、北播磨市1町、多可町の一部地域に高齢者等避難が発令された。自治体は対応に追われた。各地で倒木などが相次いだ。自主避難所も加西市を除く各市で開設され、雨が激しくなると、15日午後4時半までの24時間降水量は、西脇市で140.5ミリ、三木市で90.7ミリ、同4時までの最大瞬間風速は、西脇市で14.3メートル、三木市で13.7メートル、多可町では原川上流が氾濫危険水位に達する恐れがあるとして、同3時半に

町内北部の加美区全域に高齢者等避難を発令。町内4カ所を指定避難所とし、避難を呼びかけた。また、県道加美八千代線の一部と、丹波市つながる播州トンネルを通行止めとした。

自主避難所も加西市を除く各市で開設され、雨が激しくなると、15日午後4時半までの24時間降水量は、西脇市で140.5ミリ、小野市で62.1ミリ、加東市で4.1ミリ、三木市で1.1ミリ、三木市では午前8時20分ごろ、三木中学校の木が倒れ、フェンスを越え、そばを通る神戸電鉄栗原線の架橋に接触。同線は風のた

め休止しており列車への被害はなく、木は1時間以内に撤去された。このほか道路などに竹や木が倒れた事例は小野で約30件、加西約20件、加東約10件と各市町で相次ぎ、職員らが対応に追われた。

台風7号  
**大荒れ 倒木相次ぐ**  
けが人なし 多可では避難発令



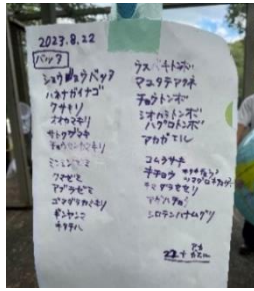
増水した美豊川＝15日午後1時3分、三木市本町2

神戸新聞 三木版  
令和5年8月16日

台風の影響による運転休止を告げる張り紙が出された神戸電鉄三木駅＝15日午前8時23分、三木市末広1

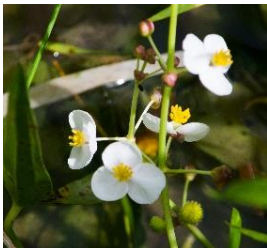
8月19日(土) 市史編さん協力プロジェクト吉川町ため池調査 12:30-17:00 会員5名、水辺ネット1名

8月22日(木) 北播磨県民局主催「見て!見て!この虫なあに?」県立三木山森林公園 10:00-12:00



三愛研からは8名が参加し、事業実施に協力しました。  
虫が大好きな11家族22名の参加があり、22種類の昆虫とアカガエル、カナヘビを見つけました。

8月25日(金) 市史編さん協力プロジェクト吉川町ため池調査 8:30-12:00 会員5名、角野康郎先生、水辺ネット3名



写真左 調査のようす  
写真中 オモダカ  
写真右 ミズオオバコ

8月26日(土) 市史編さん協力プロジェクト吉川町ため池調査 12:30-17:00 会員5名、水辺ネット2名

// 増田ふるさと公園里山まつりについて増田地区三役と打合せ 18:00

8月29日(火) 市史編さん協力プロジェクトため池調査(中止:水質測定機器故障のため)

8月31日(木) 三役会議 19:00-21:00

9月3日(日) 早秋の生き物かんさつ会 10:00-12:00 一般8名、会員13名

9月7日(木) 活動推進連絡会 市民活動センター 19:00-21:00 10名

9月10日(日) モリアザミ地元説明会 13:00 荻谷公民館

9月13日(水) 豊地小学校環境学習支援 10:40-12:00

9月14日(木) 三愛だより、里山まつりチラシ発送作業 市民活動センター 14:00-17:00



ふるさと公園だより

ミズギボウシがたくさん咲いています。午後にはタヌキマメも開花。タムラソウ、ツリガネニンジンも咲き始めました。ゆっくりと秋は来ています。



シオカラトンボ



マユタテアカネ(オス)



クルマバッタ



タヌキマメ



タムラソウ



ミズギボウシ



ナンバンギセル



サワシロギク



ゴマクサ

## 2023年9月中旬～10月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他	
9月			8	日		
15	金		9	月	スポーツの日	
16	土	三木市史編さん関連打合せ 15:00 市民活動センター	10	火		
17	日	さんだネイチャークラブ 増田ふるさと公園観察会	11	水	豊地小学校環境学習支援 10:40	
18	月	敬老の日	12	木	三愛だより発送作業 15:00 市民活動センター	
19	火		13	金		
20	水		14	土		
21	木		15	日		
22	金		16	月		
23	土		秋分の日	17	火	
24	日		18	水		
25	月		19	木		
26	火		20	金		
27	水		21	土		
28	木		三役会議	22	日	
29	金		23	月		
30	土		24	火		
10月			25	水	豊地小学校環境学習支援 10:40、三役会議	
1	日	秋の七草かんざつとサツマイモほり会 会員9時集合	26	木	里山まつり打合せ 19:00 市民活動センター	
2	月		27	金		
3	火	第1回三木市環境審議会 14:00 理事長出席	28	土	細川歴史探訪&ハイキング(実施協力) 9:00-13:00	
4	水		29	日		
5	木	活動推進連絡会 19:00 市民活動センター	30	月	カレンダー野のこよみ納品 11:00 市民活動センター	
6	金	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">                     10/5 加古川市立神野小学校環境学習支援:曇川ビオトープ公園                 </div>	31	火		
7	土					

**【備考】**今年の里山まつり(11月3日)は、コロナ前と同じ規模での開催を予定しています。前日や当日の準備や実施に多くの方々の力が必要です。今月号に同封しているハガキに記入いただき、開催にご協力をよろしくお願いいたします。

□「今年の夏は暑かった」という新聞記事を目にしました。さて三木市の気温は。気象庁のデータで確認した結果、歴史的猛暑と判明。地球沸騰化の始まりか？

- 今年の8月の平均気温は28.2度。これは、統計開始の1978年以降月平均気温の高い方から4番目。過去30年間の8月の平均気温27.1度と比べても約1度高い。なお、1980年代の平均気温は今年よりも約2度低い26度でした。
- 8月13日の日最高気温は36.9度で、史上最高気温を更新。なお、8月6日には、史上3位の36.1度を記録しています。
- 気温35度以上の猛暑日を8月に4日記録。これは2018年と並んでタイ記録。三木市では8月に2日以上の猛暑日は、過去45年間で8年だけ。なお、内7年は2000年以降に記録しています。お疲れサマーも彼岸までならもう少しの辛抱とじっと空を見る。

**編集者コラム**



NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 234 号 2023 (令和 5) 年 10 月 12 日 発行

稲の穂の 伏し重なりし 夕日哉/正岡子規

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

## ◆◆ 市史編さん協力プロジェクト情報 ◆◆

### ～ 2023 ため池調査中間報告(概略)② <9月号からの続き> ～

3 調査結果の概要から ここでは、2022年7月2日～2023年8月26日に、のべ106カ所のため池調査を実施した内容と結果から、いくつかのトピックを報告する。① 足かけ4年にわたる調査期間の間に大きく状況が変化した池があった。口吉川地区のある池は、2022年7月4日の調査では、絶滅危惧種のナガエミクリ(図1)をはじめ、ヒツジグサ、フトヒルムシロ、



図1 2022/7/4の池の様子とナガエミクリ(左)



図2 2023/7/6の池の様子

イヌタヌキモなどが生育する

希少性と生物多様性に富んだ池であった。その池の樋の工事をするために水を抜き、池底の土を一部除去する作業が行われた後の2023年7月6日の調査では、水草の生息を確認することはできなかった(図2)。池の土の中には埋

土種子が残っていると予想されるが、今後も、この池の状況を注視して観察し続ける必要がある。

② これまでの調査で未調査の地域は多いが、その中でも吉川町のある地域のため池群が「気になる」との情報を兵庫・水辺ネットの会員から得た。その地域は、ゴルフ場の中を通る広い道から急に細い農道へ入っていくルートでしか近寄ることができない棚田の村であった。

普通自動車では近寄ることができないので、釣り人が入ることはまずないと考えられる。そこに、直径10m程の小さな池があった。(図3) その池では、絶滅危惧種であるミズオオバコの淡いピンクの花が咲き、イトモ(絶滅危惧種)やオオトリゲモなど(図4)の沈水植物、



図3 多様な水草が生育する小さなため池



図4 左からイトモ、ホンバミズヒキモ、オオトリゲモ

イヌタヌキモ(絶滅危惧種)、シャジクモ類の藻類などがカンガレイやチゴザサ、コウガイゼキショウ、ハリイなどの抽水植物に囲まれて豊かに生育していた。農作業をされていた地域の方に話を聞くと、東播用水は来ているが、使うことは無く、天水と湧き水だけのため池で農業用水は賄えるとのことであった。導電率は45 $\mu$ s/cmという非常に低い値を示した。しかし、この地域でも気になる点があった。それは、イトモの形質とヤナギモの形質を兼ね備えた水草の存在である。(文と写真:植田吉則)<11月号に続く>

## 2023年9月中旬～10月中旬の事業報告

9月16日(土) 市史編さん関連打合せ 15:00 市民活動センター 会員5名

9月17日(日) 三田ネイチャークラブ増田ふるさと公園観察会

9月24日(日)、27日(水) 加古川市立神野小学校環境学習支援のための下見

9月28日(木) 三役会議 19:00

9月30日(土) 細川の歴史探訪ハイキング実施協力のための下見 教海寺 13:30

10月1日(日) 秋の七草かんさつとサツマイモほり会 10:00-12:00 一般5家族12名、会員12名

いくぶん過ごしやすくなったこの日、会員は9時に集合し、駐車場などの草刈りと参加者がいもほりをしやすいようにサツマイモ畑で準備作業を行いました。

10時に開会し、クサガメとイシガメの違い、マムシ、アシナガバチへの注意を聞いてから、園内を散策。サワシロギクやキセルアザミ、サワヒヨドリ、アキノウナギツカミ、秋の七草のハギ、オミナエシ、ススキ、フジバカマ、もんどりに入ったモツゴ、カワバタモロコを観察。ガガブタなどの浮草が増えているのはザリガニ退治を行ったからという説明も聞きました。その後はお楽しみのサツマイモほり。大きなサツマイモを掘り上げたとき、子どもも大人も笑顔がはじけました。今回は畝の西半分を掘りましたが、例年に比べてサツマイモの収穫量が少ないのが気がかりです。



クサガメとイシガメを観察



説明を聞きながら散策



力を合わせてサツマイモほり

10月3日(火) 第1回三木市環境審議会 14:00 市役所5階大会議室 北村理事長

10月5日(木) 加古川市立神野小学校環境学習支援 曇川ビオトープ公園 会員5名



10月5日(木) 活動推進連絡会 19:00 市民活動センター 11名

10月11日(水) 豊地小学校環境学習支援 10:40

10月12日(木) 三愛だより発送作業 市民活動センター 15:00-17:00

☆☆☆ 機関誌「おもだか」の原稿を募集します ☆☆☆

締切:2024年3月3日(日)

内容:自由(研究、体験談、旅行記等) 字数:自由(出来るだけA4、6枚以内)

様式など詳細は別紙のとおりです。 お問い合わせは編集委員の池田裕子さんまで



## ふるさと公園だより

今年もアサギマダラがフジバカマの蜜を吸いに来ました。守池1号のミズトラノオが復活し、守池2号の周りにはママコナが咲いています。



アサギマダラ



ミドリヒョウモン



ママコナ



リンドウ



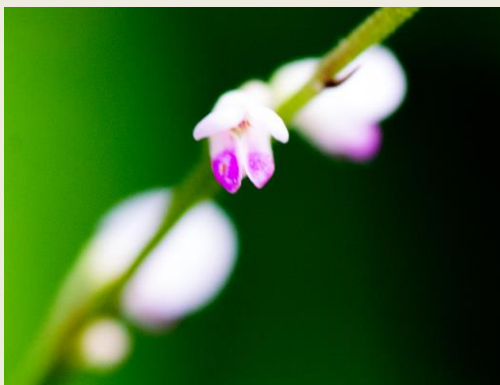
ミズトラノオ



アレチノヌスビトハギ



メドハギ



ヌスビトハギ



イリノイヌスビトハギ

## 2023年10月中旬～11月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他	
10月			8	水		
16	月		9	木	理事会、活動推進連絡会 15:00 市民活動センター	
17	火		10	金		
18	水		11	土		
19	木		12	日		
20	金		13	月		
21	土		14	火	三愛だより発送とカレンダー仕分け作業 14:00 市民活動センター	
22	日		15	水		
23	月		16	木		
24	火		17	金		
25	水	豊地小学校環境学習支援 10:40、三役会議	18	土		
26	木		19	日	みきボランティアフェスタ 2023 9:30 市民活動センター	
27	金		20	月		
28	土	細川の歴史探訪ハイキング協力、里山まつり打合せ	21	火		
29	日		22	水		
30	月	カレンダー野のこよみ納品 11:00 市民活動センター	23	木		-勤労感謝の日-
31	火		24	金		
11月			25	土		
1	水		26	日		
2	木	里山まつり準備 14:00 細川町公民館、大塚公園	27	月		
3	金	-分化の日- 里山まつり 会員 7:30 スタッフ駐車場集合	28	火		
4	土	細川町民文化祭「展示の部」準備 細川町公民館	29	水		
5	日		30	木		三役会議
6	月	細川町民文化祭「展示の部」細川町公民館 12日まで	☆2023年度の会費納入をお忘れの方はありませんか。まだの方は納入をお願いします			
7	火					

**【連絡】里山まつりの打合せは、当初10月26日(木)の午後7時で予定していましたが、28日(土)の午後2時に変更しています。場所は市民活動センター1階多目的室です。お間違えのないようにお願いします。**

□10月は秋祭りのシーズン。1日のかんさつ会の日も、ふるさと公園に近い細川町豊地の三坂神社と細川中の大日神社の祭り屋台の練り合わせを、コロナ前と同様に見ることができました。三木地区では大宮八幡宮は7日8日、久留美の八雲社は8日9日に屋台運行がありました。

また、21日22日には岩壺神社の秋祭りが予定されています。21日の宵宮の午後、屋台7台が県道運行の後、中央公民館で練り合わせをします。22日の本宮では7台の屋台が勇壮な宮入を行います。宮入時間などは広報みき10月号28頁で確認してください。

### 編集者コラム





NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 235 号 2023 (令和 5) 年 11 月 11 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>小春日の 庭に竹ゆい 稲(いね)かけて  
見えずなりたる 山茶花の花/長塚節

## ☆☆☆ 11 月 3 日、増田ふるさと公園里山まつりは大盛況 ☆☆☆

晴天にも恵まれ 4 年ぶりの「増田ふるさと公園里山まつり」。市長、市議会議員、県議会議員、市教育長、地元市議会議員、増田地区区長、豊地小学校長、細川町公民館長を来賓に迎え、午前 10 時に「三木市文化会館・歌の学校」有志の皆さんによる「里山の春」の歌声で開会。

火起こしや工作、サツマイモほり、公園クイズ、地元増田地区による農産物販売、大学いも、黒豆おこわ、豚汁、天然酵母ピザ、綿菓子、ポップコーンなどの食べ物販売、菊、座布団、銀杏など会員提供品の販売、フナ、ドウジョウ、カワバタモロコ、アメリカザリガニなど生き物の展示、増田ふるさと公園の希少生物の写真展示など盛りだくさんの内容でした。閉会の午後 2 時前には用意された品物は、ほぼ完売。

里山の秋を満喫した来場者推定 300 名の笑顔あふれる一日となりました。準備や開催に協力いただいた関係者やスタッフ 34 名の皆さんお疲れさまでした。(文と写真:米村環)





## ◆◆ 市史編さん協力プロジェクト情報 ◆◆

## ～ 2023 ため池調査中間報告(概略)③&lt;10月号からの続き&gt; ～

## 3 調査結果の概要から

角野康郎, 2014, 「日本の水草」, 文一総合出版には、ヒルムシロ属の雑種についての記載がある。その中で、「日本には、未報告の雑種がまだ何種もあることにも触れておこう。… (中略) …エビモとセンニンモの雑種と考えられる「フジエビモ」(仮称)はその1例で、今まで「エビモ×センニンモ」で通用しているが、…」とある。兵庫・水辺ネットのメンバーも頭を抱えてしまうほどの水草であるため、角野先生に直接現地調査でのご指導をお願いした(図5)。その結果「アイノコイトモ」でいだろうとのことであった。しかし、このあたりのイトモには果実が見当たらないものが多い、



図5 水草を観察する角野先生

く、「この時期に果実が見当たらない原因がなぜか?」と角野先生も首を傾げながら標本を持ち帰られた。このように、水草の同定作業はかなり困難を伴うことがあることが分かった。

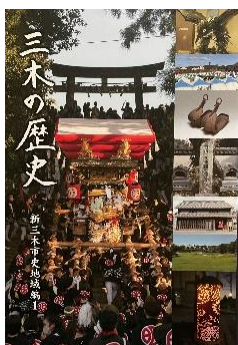
## 4 今後の課題

まだまだ未調査のため池がある。そのすべてを調査しきることはまず不可能であるが、「気になるため池群」が数カ所残っている。今後、その調査を進めると同時に、そろそろ三木市史自然環境編・資料編・本編の執筆作業に取りかかる時期が迫ってきている。

これまで、のべ200カ所を超えるため池の調査を進めてきて、三木市内のため池に生息する生物の現状はかなりデータ化することができた。さらに過去のデータと比較することにより、三木市の貴重な自然環境の現状を浮き彫りにすることができると考えている。

三愛研会員と兵庫・水辺ネットのメンバーの協同作業で、少しずつではあるがデータの積み上げが進んでいる。ため池調査も、いよいよラストスパートといったところである。同時に、自然環境編では、生物分野全般にわたる記載(植生、植物、昆虫、魚類、鳥類、は虫類、哺乳類、巨木・古木等)が必要不可欠である。三木の地質については他の自然環境部員が研究調査執筆を担当するが、広範な生物分野は三愛研会員によるこれまでの研究調査結果を基に記載し、貴重な自然環境の記録として後世に残していくことが求められている。

今後、協力プロジェクト会議を開催し、三愛研として三木市史編さんの原稿執筆にどのように関わっていくか、議論を深めながら進めていきたい。あとひと踏ん張り、どうぞよろしくをお願いします。<おわり> (文と写真: 植田吉則)



## 新三木市史 地域編・通史編【資料編・本編】の刊行状況と本会執筆者

【既刊】2019(R1)年度: 口吉川編(戸田理事)、2020(R2)年度: 志染編(横山副理事長)

2021(R3)年度: 緑が丘編、吉川編(松本会員)

2022(R4)年度: 三木編(北村理事長)、青山編

【予定】2023(R5)年度: 別所編(稲岡会員)、2024(R6)年度: 細川編(室谷会員)

2025(R7)年度: 自由が丘編、通史自然環境編【資料編】

2026(R8)年度: 三木南編、通史自然環境編【本編】

※植田副理事長作成資料より抜粋。上記以外にも植田、小倉、丸岡、向山各氏も協力。

## 2023年10月下旬～11月中旬の事業報告

- 10月25日(水) 豊地小学校環境学習支援 10:40  
 10月26日(木) 加古川市立神野小学校環境学習支援  
 10月27日(金) カレンダーふるさと野のこよみ 1200枚納品受理 11:00 市民活動センター  
 10月28日(土) 細川の歴史探訪&ハイキング ファミリーコース現地案内 9:20-10:40 教海寺  
 // ふるさと公園里山まつり打合せ 14:00 市民活動センター  
 11月2日(木) ふるさと公園里山まつり準備 14:00 大塚公園、細川町公民館  
 11月3日(金) ふるさと公園里山まつり 10:00-14:00 増田ふるさと公園  
 11月4日(土) 細川町民文化祭「展示の部」準備 16:00 細川町公民館  
 11月5日(日) 三枚池かいぼり参加 別所町興治  
 11月6日(月)～12日(日) 細川町民文化祭「展示の部」参加 細川町公民館  
 11月7日(火) 市史編さんの原稿執筆に関する相談 県立人と自然の博物館  
 11月9日(木) 理事会・活動推進連絡会 15:00 市民活動センター  
 11月11日(土) 三愛だより発送とふるさと野のこよみ仕分け作業 14:00 市民活動センター

### ふるさと公園だより

秋が深まりヤマラッキョウの赤紫色の花、リンドウの紫色の花、センブリ、コウヤボウキの白い花が咲き、野山の葉も色づいて来ました。



ヤマラッキョウ



センブリ



コウヤボウキ



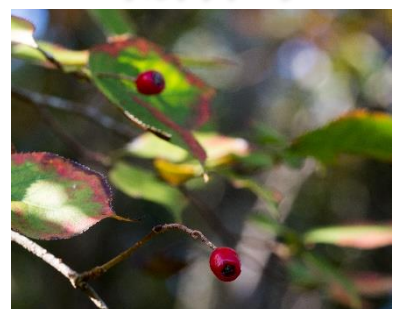
サルトリイバラ



ヤブムラサキ



アキノキリンソウ



カマツカ



## 2023年11月中旬～12月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事など	日	曜	行事など	
11	月		6	水		
12	日	細川町民文化祭「展示の部」最終日 後片付け 14:30	7	木	活動推進連絡会 19:00	
13	月		8	金		
14	火		9	土	11/19のボランティアフェスタ で販売する農産物や不用品、手 作り品があれば当日9時頃に 会場へお持ちください。	
15	水		10	日		
16	木		11	月		
17	金		12	火		
18	土		13	水		
19	日	みきボランティアフェスタ 2023 9:30	14	木	三愛だより発送作業 15:00	
20	月		15	金		
21	火		16	土		
22	水		17	日	ふるさと公園全面草刈り	
23	木		-勤労感謝の日-	18	月	
24	金			19	火	
25	土			20	水	
26	日		21	木		
27	月		22	金		
28	火		23	土		
29	水		24	日		
30	木	三役会議	25	月		
12月			26	火		
1	金		27	水	三役会議	
2	土		28	木		
3	日	ササユリを復活させよう 10:00	29	金		
4	月		30	土		
5	火		31	日	☆良き新年をお迎えください☆	

【お願い】 その1 今年度の会費納入をお忘れの方は、納入をお願いします。  
 その2 機関誌「おもだか」の原稿を募集中です。  
 詳しくは先月号に同封した要項をご覧ください。



□2024カレンダー「ふるさと 野のこよみ」ができました。  
 三愛だよりと同じように、会員が手分けしてお届けします。  
 知り合いの方、ご近所の方にもおすすめください。  
 2024年版は本年版とは違う顔ぶれのトンボが主役です。  
 増田ふるさと公園では40種類以上のトンボを見ることが  
 できるまさに「トンボの楽園」。豊かな自然環境と多様な  
 生態系が守られている証し  
 とも言えるでしょう。

編集者コラム

NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 236 号 2023 (令和 5) 年 12 月 14 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

水仙の 香も押合ふや 年の市/加賀千代女

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

## □□ 11 月 9 日、2023 年度第2回理事会を開催しました □□

まず、理事会が市民活動センターで午後 3 時に開会。理事 10 名とオブザーバーとして監事 2 名が出席し会議の成立を確認しました。定款により理事長を議長に選出し、議事録署名人 2 名を選任。審議では 2023 年度上半期事業報告と同じく上半期決算報告があり、いずれも可決され閉会しました。

引き続き、活動推進連絡会を開催し、10 月と 11 月上旬の事業報告と今後の事業予定について説明がありました。

また、11 月 3 日に開催した「増田ふるさと公園里山まつり」は、収入は近年では最高でしたが、支出を差し引くと赤字(12/7 の活動推進連絡会で 30,000 円超)との報告がありました。運営面で気付いた点について、出席者から発言がありました。(主な意見)

- ・来場者が多かった
- ・来場者が楽しんでいる印象を受けた
- ・入会が期待できる来場者があった
- ・スタッフが足りない
- ・駐車スペースが不足し対応に苦労
- ・ゴミの分別ができていない
- ・サツマイモほりの準備が当日だけでは時間が足りない
- ・来場者に場所がわかりにくいと言われた

神戸新聞 11 月 9 日

(文:米村環)

## 子どもら火おこしに四苦八苦



火おこしに挑戦する子どもたち＝三木市細川町増田、増田ふるさと公園

増田ふるさと公園で「里山まつり」

希少な動植物が生息する

「増田ふるさと公園」(三木市細川町増田)で、自然研究会と増田地区の共催で、3日に開かれた。

に親む「里山まつり」が

開かれた。新型コロナウィ

ルスの影響で4年ぶりの開

催。多数の親子連れらが訪

れ、火おこし体験やサツマ

イモ掘り、工作などを楽し

んだ。

「NPO 法人三木自然愛好研究会と増田地区の共催で、3日に開かれた。火おこし体験では、火打ち石など複数の方法を用意。舞きり式の火おこしに挑んだ子どもたちは、木材の上で道具をこまのように回して点火を試みたが、なかなか火は起こらなかった。

四苦八苦しながら奮闘する子どもたち。その姿を眺める高齢者からは「昔はこんなふうにしとったね」と懐かしそうな声も。約1時間かけて火おこしに成功した小学6年の澤井大和君は「難しかったけど、うまくいってうれしい。昔の人は大変だったと思った」と話していた。

工作教室では、ドングリやスキ、紅葉などを使ってボードを作った。クイズコーナーでは、公園に関する出題があり、担当者のヒントを聞きつつ盛り上がった。飲食の模擬店もあり、訪れた人がさまざまな楽しみ方を満喫した。

同法人の北村健理事長(左)は「コロナ前とほぼ同じ規模でできた。今後もこのかたちで続けていければ」と語った。(長沢伸一)



## 2023年11月中旬～12月中旬の事業報告

11月12日(日) 細川町民文化祭「展示の部」後片付け 14:30- 1名

11月19日(日) みきボランティアフェスタ 2023 準備 8:00-9:00 開催 9:30-15:00 会員 10名

小春日和に恵まれ、40以上の団体やグループが参加。本会は木の実などを使ったメッセージボード作り、ふるさと野のこよみ、会員提供の農産物や手作り品を販売。午前中にはサツマイモ、ギンナン、黒豆が完売。ローリエ、途中補充したサトイモも完売。スタチ11袋、柿42袋が売れ、合計で約19,000円の収益となりました。本会の活動資金として活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。



11月20日(月) 神戸市環境局ふるさと公園視察 14:00-15:00 神戸市4名、三木市1名、会員5名

11月23日(木) 新三木市史自然環境編(生物関係)連絡会 19:00-zoomで試行

11月25日(土) 豊地小学校3年生環境学習発表参観 会員3名

11月28日(火) 生活環境課に外来生物対策について情報提供 理事長

11月30日(木) 三役会議

12月1日(金) 虫のお宿現地確認 10:00 三役

12月3日(日) 公開かんさつ会、ササユリを復活させよう(種まき) 10:00-12:00 一般5名、会員14名

12月7日(木) 活動推進連絡会 19:00-21:00 市民活動センター 12名

12月14日(木) 三愛だより発送作業 15:00-16:00 市民活動センター

12月市議会本会議でアカミガメ対策の質問に対して前向きな答弁がありました。市の積極的な取組が期待されます。

### ☆☆新年会を開催します☆☆

◇日時:1月28日(日)午後5時開会 ◇会費:4,000円(飲酒される方は+1,000円)

◇場所:ニューむさし(三木市本町2-7-18 ☎0794-82-0354)中央公民館から大宮八幡宮方面へ徒歩約5分。神戸電鉄「三木駅」から徒歩約6分 ※会場への送迎はありません。

◇参加される方は、予約の都合上1月10日(水)までに植田副理事長へ次のいずれかの方法で連絡願います。⇒TEL&FAX:0794-82-1969 携帯:090-5257-7701

Email:ueyoshi2010@nike.eonet.ne.jp LINE:右のQRコード

◇◇お誘いあわせのうえ皆さんの参加をお待ちしています◇◇



### ☆☆ 機関誌「おもだか」の原稿を募集中 ☆☆

締切:2024年3月3日(日) 内容:自由(研究、体験談、旅行記など) 字数:自由(出来るだけA4、6枚以内) 様式:パソコン、手書きどちらでも結構です。その他詳細は、10月号に同封の要項を参照願います。お問い合わせは、編集委員の池田裕子さんまで



## ふるさと公園だより

12月3日、公開かんさつ会と「ササユリを復活させよう」(種まき)を行いました

園内の池に薄氷が張る冷え込んだ朝でした。一般5名、会員13名が集まり10時に開会し園内を散策。ヤマラッキョウとリンドウが咲いていました。もんどりにはメダカ、アメリカザリガニ、ヨシノボリ、タニシ、ドジョウ、セトウチサンショウウオ、スジエビなどが入っていました。また、西の池のほとりに猛禽類に食べられたサギの残骸がありました。



もんどりに入っていた生き物



西の池のほとりにあったサギの残骸

かんさつ会に続いてササユリの種まきを行いました。園内で採取したササユリの種を赤玉土、鹿沼土を入れた5台のプランターにまき、種が飛ばないように上からもみ殻をまきました。昨年の参加者が持ち帰られた種を土と一緒に持ってこられ、無事に育っているのを確認。今年の種と一緒にプランターにまきました。プランターは会員が持ち帰り世話をしますが、花が咲くまでに数年かかるので世話をするのも大変です。



種から球根に成長(昨年の参加者持参)



今年園内で採取した種



果皮をむきます



種をまきました



2023年6月1日撮影

## 2023年12月中旬～2024年1月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他	
12月			7	日		
15	金		8	月	-成人の日-	
16	土		9	火		
17	日	ふるさと公園全面草刈り 8:40、虫のお宿修復作業 13:30	10	水		
18	月		11	木	活動推進連絡会 19:00 市民活動センター	
19	火		12	金		
20	水	三役会議	13	土		
21	木	市史編さん生物関係ズーム会議 19:00	14	日		
22	金	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>またも虫のお宿が被害にあいました。囲いの倒れ方、カブトムシの幼虫がほぼ全滅などの状況から、犯人はイノシシかと思われます。子どもたちが楽しみにしています。作業にご参加をお願いします。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>◆虫のお宿被害状況◆</p> </div>	15	月		
23	土		16	火		
24	日		17	水	三愛だより発送作業 15:00 市民活動センター	
25	月		18	木		
26	火		19	金		
27	水		20	土		
28	木		21	日		
29	金		22	月		
30	土		23	火	ヤブレガサモドキ移植地草刈り 8:40 ふるさと公園集合	
31	日		24	水		
1月		2024(令和6)年	25	木	三役会議	
1	月	-元日-	26	金	日時、場所などは2ページをご覧ください	
2	火		27	土		
3	水		28	日		増田地区(ふるさと公園)畦焼き 8:40、 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新年会</span>
4	木		29	月		
5	金		30	火		
6	土		31	水		第32回コープこうべ虹の賞授賞式

**【お願い】会費納入をお願いします。**11月末現在で23名の方が未納です。今月末時点で納入をお忘れの方には、三愛だより1月号の発送時に督促状を同封しますのでよろしくお願い致します。

### 編集者コラム

□今年の紅葉の見頃は、平年より遅かったというニュースを見ました。気温の高さが原因かもしれないと思い、9月～11月の三木市の平均気温を調べました。9月の26.0℃は観測史上1位の高さ。10月は平年並みでしたが、11月も1日～9日まで最高気温が20度を超える夏日。中旬は平年並みでしたが、20日以降も最高気温が20度近い日もあり、寒暖の変動が大きい月となりました。



伽耶院(志染町大谷)



慈眼寺(久留美)

月平均気温(℃)	1991～2020年	2023年
9月	23.2	26.0
10月	17.4	17.1
11月	11.5	12.2

(写真は本年11月21日撮影)



NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 237 号 2024 (令和 6) 年 1 月 17 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

はでやかな 大したれなる 餅の花/阿波野青畝

## 新年のごあいさつ

理事長 北村 健

新年あけましておめでとうございます。今年は穏やかな天候に恵まれ、久々に親戚や知人等とお正月を楽しまれた方も多いのではないのでしょうか。

さて、昨年コロナ感染症が 5 類に移行し、三愛研の活動もほぼコロナウイルス禍以前の状態に戻すことが出来ました。「親子川がき教室」は食育も復活し、4 年ぶりに開催できた「ふるさと公園まつり」は天候にも恵まれ、盛大に開催することが出来ました。「公開かんさつ会」や「貴重種保全活動」、「新三木市史編さんのための生物調査」などは多くの会員の皆様方のご尽力によりまして、ほぼ計画通りに実施することができました。ご協力ありがとうございました。

貴重種保全活動に関しては新たな進展がありました。9 月 10 日に瑞穂地区の荻谷公民館においてモリアザミ群落保全について地元説明会を行うことができ、希少性の周知と共に、これからも維持されるであろうとの見込みを得ることが出来ました。

三愛研の活動において、それぞれの地域の理解と協力は欠かせないので、その他の地域においても積極的に情報発信して協力関係の構築に努めていきたいと思えます。また、地域の学校などとも協力関係が構築できるように努めたいと思えます。

ところで、これまでいろいろな助成金で購入できた物品が、私たちが行っている環境学習や環境保全作業において、内容の充実や効率向上をもたらしてくれています。コープこうべ環境基金で購入できた自走式草刈り機は、「増田ふるさと公園」における公開かんさつ会や小学校の環境体験学習に先立つ駐車場や観察路の草刈りに威力を発揮しました。また、高枝チェンソーは、貴重種のヤブレガサモドキ自生地に通じる道や公園のフェンスに掛かった倒木の撤去に威力を発揮してくれました。そのコープこうべから、第 32 回コープこうべ「虹の賞」を受賞できることになりました。私たちの長年の活動を評価していただけたということであり、これからの活動の励みになります。

今後とも役員一丸となって事業の運営にあたってまいりますので、本年もご協力のほどをよろしくお願いいたします。

最後に、この 1 年が穏やかな年であることを願うとともに、会員の皆様方のご多幸をお祈り申し上げまして新年の挨拶とさせていただきます。



### ☆☆新年会について☆☆

**☆まだ少し席があります。参加される方は、1 月 24 日までに植田副理事長へ連絡してください。**

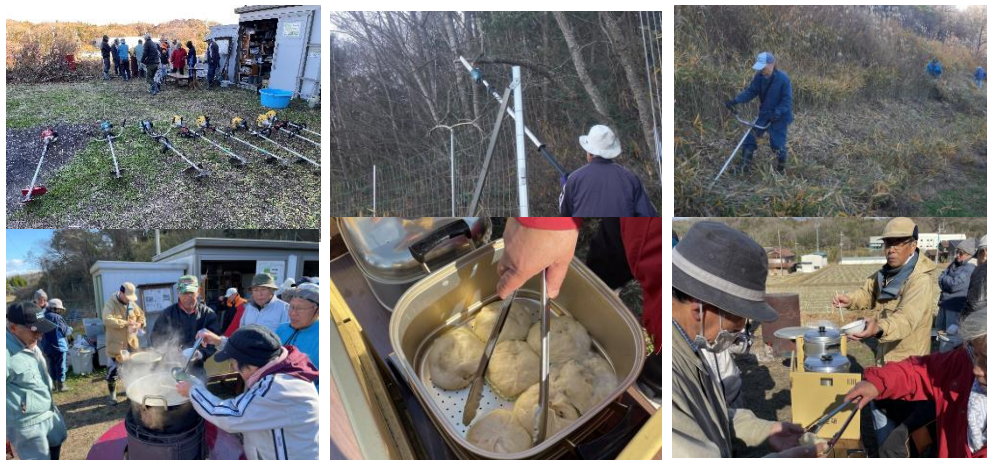
◇日時: 1 月 28 日(日)午後 5 時開会 ◇会費: 4,000 円(飲酒される方は+1,000 円)

◇場所: ニューむさし(三木市本町 2-7-18 ☎0794-82-0354) 中央公民館から大宮八幡宮方面へ徒歩約 5 分。神戸電鉄「三木駅」から徒歩約 6 分 ※会場への送迎はありません。

◇連絡、確認は植田副理事長へ⇒TEL&FAX:0794-82-1969 携帯:090-5257-7701

## 2023年12月中旬～2024年1月中旬の事業報告

12月17日(日) ふるさと公園全面草刈り 8:40-13:30 一般1名、会員18名



北西の冷たい風が吹くなかドラム缶のたき火で暖をとり、園内の草刈りを実施。各自手鎌、刈払機を手に斜面の足場に注意しながら黙々と作業を実施。高枝切も大活躍。作業と並行して調理いただいた豚汁と豚まんてしばし休憩。お腹に染み渡る美味しさに元気も回復。昼食をはさんでの草刈り作業や虫のお宿の修復もがんばることができました。

12月17日(日) 虫のお宿修復作業 13:30-15:30 旧教育キャンプ場 一般3名、会員12名

公園の草刈り作業に引き続き、虫のお宿修復作業。2つ作った宿のうち手前の宿のカブトムシの幼虫は全滅。奥は幸い28匹が生き残っていました。2つの宿の囲いはずし、奥のひとつにまとめ復旧、補強。イノシシに荒らされないことを祈ります。



12月20日(水) 三役会議

12月21日(木) 新三木市史自然環境編(生物関係)連絡会 19:00-zoomで試行

1月6日(土) 新三木市史自然環境編(生物関係)会議 13:00-15:00

市民活動センター 10名(山形から永幡さんがzoomで参加)

1月11日(木) 活動推進連絡会 19:00-21:00 市民活動センター 12名

1月15日(月) 太閤道ウォーキング(平井・安福田間往復)10:30-12:30 一般4名 会員8名

1月17日(水) 三愛だより発送作業 15:00-16:00 市民活動センター

### ☆☆☆ 機関誌「おもだか」の原稿締切は3月3日(日)☆☆☆

内容:自由(研究、体験談、旅行記等) 字数:自由(出来るだけA4、6枚以内)

様式:パソコン、手書きどちらでも結構です。パソコンの場合は、下記の要領で作成願います。

手書きの場合は体裁は自由ですが、浄書の際に次の様式にそろえますのでご了承ください。

- ・用紙:A4 縦長で横書き ・ページ設定:36行、1行=35字、フォント=MS明朝体、文字サイズ=12
- ・\*空白が多く出た場合は、適当な画像やイラストを入れる場合がありますのでご了承ください。
- ・1行目に「題名」を文字サイズ=16で中央に配置する。2行目はあける。3行目に執筆者名を右詰で配置する。4行目から本文に入る。・小見出しは任意とする。・写真やイラストは白黒印刷ですので、カラー画像は見難くなりますがご了承ください。(2010年統一様式 2020年文字サイズ変更)

原稿はEメールまたは担当にお渡しください。Eメールアドレス:8728hiroko@gmail.com

お問い合わせは編集委員の池田裕子さんまで



ふるさと公園だより

ハートのかたちや顔に見えるところは、落葉した葉の柄がついていた跡。その中に目や口のようなものがあります。これは葉に養分を送っていた管の断面。この顔の上にあるのが冬芽。この中に葉や花になるものがたたまれていて、春を待っています。

参考図書「ふゆめがっしょうだん」福音館書店



ヤマハゼ



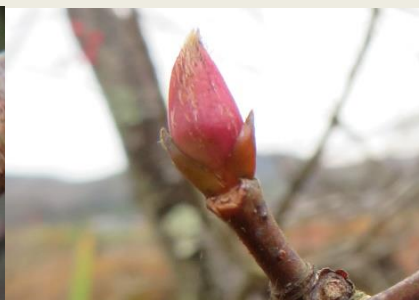
ウルシ



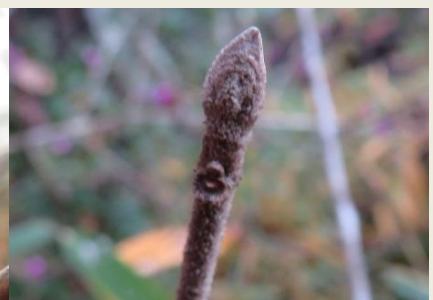
ヤマナラシ



タカノヅメ



ミヤマガズミ



ヤブムラサキ

## 2024 年 1 月中旬～2 月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他
	1 月		8	木	三愛だより発送作業 15:00 市民活動センター
18	木		9	金	
19	金		10	土	
20	土		11	日	-建国記念の日- シジミオモダカ自生地草刈り 9:00 集合
21	日		12	月	-振替休日-
22	月		13	火	集合場所は高男寺公民館
23	火	ヤブレガサモドキ移植地草刈り 7:50 ふるさと公園集合	14	水	
24	水	豊地小学校環境学習支援 10:40-	15	木	
25	木	三役会議	16	金	
26	金	三木市との情報交換会 14:00- 教育センター	17	土	
27	土		18	日	
28	日	増田地区 (ふるさと公園) 畦焼き 8:00、 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新年会</span>	19	月	 ニューむさし
29	月		20	火	
30	火		21	水	
31	水	第 32 回コープこうべ虹の賞授賞式 13:30-	22	木	
	2 月		23	金	-天皇誕生日-
1	木	活動推進連絡会 19:00 市民活動センター	24	土	
2	金		25	日	旧教育キャンプ場草刈り、幼虫補充 現地 9:00
3	土		26	月	
4	日	ふるさと公園公開かんさつ会 集合 9:00-	27	火	
5	月		28	水	
6	火		29	木	三役会議
7	水				

**【お願い】会費納入をお願いします。**会費は、会の活動を安定的に継続して行うために大切な財源です。12月末現在で 23 名の方が未納です。納入をお忘れの方には、督促状を今月号の三愛だよりと同封しています。よろしくをお願いします。

### 編集者コラム

□新年早々の揺れ。アナウンサーの懸命な呼びかけ。

1月1日16時10分ごろ、能登半島で最大震度7の

「令和6年能登半島地震」は、北海道から九州にかけての広い範囲で揺れの観測と(大)津波警報や注意報が発令された。兵庫県北部では震度4、三木市でも震度3を記録。大規模火災の発生、建物の倒壊、道路の陥没、電気、水道、ガス、通信などライフラインの寸断や集落が孤立。2週間が過ぎたが、震災関連死を含む222名の方が亡くなり、安否不明は22名。18,000名が避難生活を送っている。避難所から宿泊施設などへ移る2次避難、中学生の集団避難や仮設住宅が着工。生活再建の動きが始まった。(1月3日～17日の神戸新聞朝刊より)。地場産業への甚大な被害を見ると非常に厳しい道のりかと思いますが、被災地に平穏な暮らしが一日も早く戻ることを祈ってやみません。

### 地震情報



NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 238 号 2024 (令和 6) 年 2 月 8 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

梅一輪 一輪ほどの 暖かさ/服部嵐雪

## 令和6・7年度役員の改選を行います

令和6年度は、三愛研役員(理事、監事)の改選の年になります。定款第14条および第16条の規定により下記の日程で改選を行います。

立候補をされる方は、今月号に同封している立候補届出用紙に必要事項を記入し、選挙管理委員会へ2月26日までに提出してください。

### □□選挙日程□□

【選挙告示】 2月8日(木) \*三愛だより発送時同封 発送(2/8)

【立候補締切】 2月26日(月) \*郵送:消印有効

【選挙投票】(候補者が定数25人を超えた場合)

・投票用紙発送 3月14日(木) \*三愛だより発送時に同封予定(3/14)

・投票締切(郵送) 3月25日(月) \*消印有効

・開 票 3月26日(火) \*選挙管理委員会にて(高橋、室谷)

【理事会】 4月6日(土) \*現役員にて報告・承認、総会議案等審議 14時

【選挙結果報告】 4月11日(木) \*三愛だより紙面にて報告 発送(4/11)

【信 任】 5月25日(土) \*通常総会時

【総会報告】 6月13日(木) \*三愛だより紙面にて報告 発送(6/13)

これからも、NPO 法人三木自然愛好研究会が定款に定める目的を達成するため、本会の運営を担う役員が必要です。現役員の方々には、引き続きお願いするとともに、新たな役員も募りたいと思いますので、会員の皆様には積極的な立候補をお願いします。なお、詳しくは、同封の役員選挙告示をご覧ください。

## 令和6年度通常総会の日程について

決算や事業報告、予算や事業計画、役員改選などの議案審議を通して、会員の意思を表す大事な一日です。ご多忙な時期ですが、会員の皆様には、ぜひ出席されるよう日程調整をお願いします。

1. 場所 市民活動センター(予定)

2. 日程 5月25日(土) \*24日(金曜日)の午後に会場準備を行います。

9:00 受付 会費を領収いたします。

9:20 開会 \*理事長、来賓挨拶

9:40 議事 \*途中休憩し、理事会を開催。理事長、副理事長を互選

10:50 講演(90分)講師:大嶋範行氏「ナガエツルノゲイトウの防除(仮題)」

12:20 昼食、懇親会 \*弁当を用意します。

13:30 後片付け、解散



## 1 月中旬～2 月初旬の事業報告

1 月 23 日(火) ヤブレガサモドキ移植地など草刈り 9:00-12:00 ネスタリゾート神戸ほか 10 名



1 月 23 日(火) 第 2 回座談会「ふるさと公園に寄せる思い」 14:00-16:00 市民活動センター 7 名



1 月 24 日(水) 豊地小学校環境体験学習支援 10:40 3 年生8名、教師2名、会員 3 名

1 月 26 日(金) 三木市との情報交換会 14:00 教育センター 三木市 12 課 14 名、会員 5 名

// 三役会議 16:00-18:00

1 月 28 日(日) 増田地区(ふるさと公園)畦焼き 8:00 増田自治会 30 名、地元消防団員 10 名、会員 18 名



1 月 28 日(日) 新年会 17:00-19:00 ニューむさし 24 名

1 月 31 日(水) 第 32 回コープこうべ虹の賞授賞式 13:30- コープこうべ住吉事務所 理事長

2 月 1 日(木) 活動推進連絡会 19:00 市民活動センター 10 名

2 月 4 日(日) 冬の生き物かんさつ会 10:00 一般 1 名、会員 11 名

2 月 8 日(木) 三愛だより発送作業 15:00-16:00 市民活動センター



☆☆☆ 機関誌「おもだか」の原稿締切は 3 月 3 日(日)☆☆☆

内容:自由(研究、体験談、旅行記等) 字数:自由(出来るだけA4、6枚以内)

様式:パソコン、手書きどちらでも結構です。パソコンの場合は、下記の要領で作成願います。手書きの場合は体裁は自由ですが、浄書の際に次の様式にそろえますのでご了承ください。・用紙:A4 縦長で横書き・ページ設定:36行、1行=35字、フォント=MS 明朝体、文字サイズ=12\*空白が多く出た場合は、適当な画像やイラストを入れる場合がありますのでご了承ください。・1行目に「題名」を

文字サイズ=16で中央に配置する。2行目はあける。3行目に執筆者名を右詰で配置する。4行目から本文に入る。・小見出しは任意とする。・写真やイラストは白黒印刷ですので、カラー画像は見難くなりますがご了承ください。(2010年統一様式 2020年文字サイズ変更)原稿はEメールまたは担当にお渡しください。Eメールアドレス:8728hiroko@gmail.com お問い合わせは編集委員の池田裕子さんまで

**原稿を至急求む!**

現在原稿は、予定を入れて7本だけ。2年度は12本、3年度は15本、4年度は11本掲載しました。皆様のご協力をお願いします。編集委員より



## ふるさと公園だより

今年は暖冬傾向とされていますが、1月から2月は一年で最も寒い時期です。この時期の寒さがある、生き物は春の暖かさを感じ、目を覚まします。

### 1月24日(水) 豊地小学校環境体験学習支援

ふるさと公園の池や溝に氷が張る冷え込みのなか、児童らは小学校から歩いて公園に到着。もんどりに付着した分厚い氷にも負けずニホンアカガエルやセトウチサンショウウオに触れて大喜び。芋畑では霜柱を踏んだり取ったりして寒さを体感。「持って帰りたい」という児童も。守池1号ではハンノキに産み付けられたミドリシジミの卵をルーペで観察しました。また、モズの早にえやカマキリの卵についても熱心に説明を聞きました。今年度の3年生の環境体験学習は今回で最終回。児童に自然の楽しさやふるさと公園の魅力が伝わったと思いました。イベントへの参加や将来、三愛研に入会してくれることを期待しています。



霜柱



### 2月4日(日) 冬の生き物かんさつ会

立春となったこの日、北風が弱く、体感する寒さはそれほどでなく、観察日和となりました。ニホンアカガエルの卵塊、セトウチサンショウウオの卵囊、ガガブタの殖芽(冬芽)、ハンノキの雄花と雌花など生き物の冬越しを観察しました。また、3月の「虫の冬ごし探検隊」のために園内の「お宿」を掘ると丸々とした幼虫が205匹も。2月25日には引っ越し作業をします。



ニホンアカガエルの卵



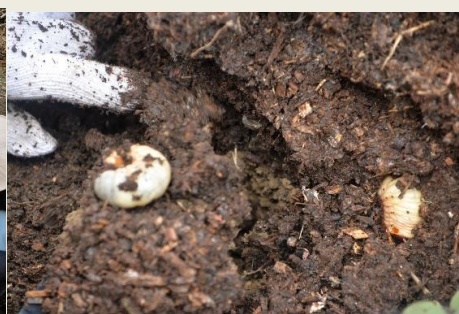
セトウチサンショウウオの卵



ガガブタの冬芽



ハンノキの雄花と雌花



童心に帰ってカブトムシの幼虫を探す参加者

## 2 月初旬～3 月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他	
2 月			5	火		
9	金		6	水		
10	土		7	木	活動推進連絡会 19:00 市民活動センター	
11	日	-建国記念の日- シジミオモダカ自生地草刈り 9:00 集合	8	金		
12	月	-振替休日-	9	土		
13	火	<div style="border: 2px solid gray; padding: 10px;"> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin-bottom: 10px;">集合は高男寺公民館</p>  </div>	10	日		
14	水			11	月	
15	木			12	火	
16	金			13	水	
17	土			14	木	三愛だより発送作業 15:00 市民活動センター
18	日			15	金	
19	月			16	土	
20	火			17	日	
21	水			18	月	
22	木			19	火	
23	金	-天皇誕生日-	20	水	-春分の日-	
24	土		21	木		
25	日	旧教育キャンプ場草刈り、幼虫補充 現地 9:00 集合	22	金	<div style="border: 2px solid brown; padding: 10px;">  </div>	
26	月		23	土		
27	火		24	日		
28	水		25	月		
29	木	三役会議	26	火		
3 月			27	水		
1	金		28	木		三役会議
2	土	虫の冬ごし探検隊 会員集合 8:15 旧教育キャンプ場	29	金		
3	日	おもだか原稿締切日	30	土		
4	月		31	日		

【お願い】令和 6 年度は、役員改選の年になります。理事と監事は現在 11 人と 2 人。定款に定める定数は 25 人と 2 人なので、理事には余裕があります。組織を硬直化させずマンネリを防ぎ、いろいろな意見を法人運営に活かすために、新たに役員になっていただける方をお待ちしています。

### 編集者コラム

□2 ページにあるように「第 2 回座談会」を開催しました。ほ場整備事業に合わせて、地方自治体が農地を買い上げ、公園を整備するという全国的にも珍しい手法により誕生した「増田ふるさと公園」。初代理事長(当時は代表)小倉滋氏の情熱が、地元の方々や行政を動かしました。また、二代目理事長室谷敬一氏、三代目現理事長北村健氏が「ふるさと公園」の保全や種の維持、公園を活用するための思いも語られています。「令和 5 年度おもだか」にその内容を掲載するために作業を進めていますので、楽しみにお待ちください。



【S40 年増田地域、国土地理院空撮より】



NPO 法人三木自然愛好研究会

# 三 愛 だ よ り



第 239 号 2024 (令和 6) 年 3 月 14 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.gl.xrea.com>

鶯や 障子あくれば 東山/夏目漱石

## 虫の冬越し探検隊 ~カブトムシの幼虫を見つけて育てよう~

3月2日、旧教育キャンプ場に会員は8時15分に集合し、トイレやテントの組み立てなどウグイスの鳴き声を聴きながら会場準備。会場への最短ルート沿いにナラ枯れがあることから、参加者は、会員の誘導により駐車場から迂回ルートで会場へ。

10時に開会し、北村理事長の説明を聞きながら、成虫で冬越しするツチイナゴ、幼虫で冬越しするベニカミキリ、タマムシなど昆虫の冬越しのようすを観察しました。

その後、カブトムシの幼虫探し。会員から飼育方法の説明を聞く子どもたちのキラキラした眼差しに、それまでの苦労も報われた思いがしました。参加者の皆さんの観察報告を待っています。

また、ふるさと公園の「虫のお宿」に木材チップを提供いただいた稲見さんが見学されました。イベントへのご理解、ご協力に紙面にてお礼申し上げます。

なお、今の会場では、ナラ枯れによる倒木の危険やイノシシによる被害があることから、来年の虫の冬越し探検隊は、ふるさと公園で行う予定です。



## 「春の草花かんさつ&野草の天ぷらを楽しもう」を開催します

草花咲き乱れるふるさと公園で、春の息吹を楽しみましょう。また、春の野草を天ぷらでいただきます。皆さんの周りに山野草の食材があればご持参願います。ご参加をお待ちしています。

◇日時◇

4月13日(土)

会員集合 9時

開会 10時

◇場所◇

増田ふるさと公園



【昨年は雨天のため中止でした。写真は一昨年ようすです】

## 2月中旬～3月中旬の事業報告

2月11日(日) シジミオモダカ等自生地、移植地の草刈り 9:00-12:00 三木総合防災公園内 7名

2月25日(日) 新三木市史自然環境編(生物関係)担当者会議 14:00 市民活動センター 9名

2月27日(火) 旧教育キャンプ場駐車場草刈り、幼虫引っ越し 9:00-12:00 旧教育キャンプ場 12名

25日に予定していましたが、雨天のため延期。駐車場では伸び放題になっていたクズやノイバラが草刈機に巻き付くなど悪戦苦闘。その後ふるさと公園から、カブトムシの幼虫を引っ越しさせました。



2月26日(月) 令和6・7年度役員立候補締切日

立候補者は理事14人、監事2人でいずれも定数を超えませんでしたので、選挙は行わず、5月25日の通常総会で立候補者の承認について、会員にお諮りします。

なお、理事、監事の立候補者は同封の名簿のとおりです。

2月28日(水) 三役会議

3月2日(土) 虫の冬越し探検隊 10:00-12:00 旧教育キャンプ場 一般5家族12名、会員11名

3月3日(日) 令和5年度おもだか原稿締切日

紙面に余裕があるので第二次募集をします。締切日は3月24日。詳細は前月号を参照下さい。

3月7日(木) 活動推進連絡会 19:00 市民活動センター 10名

3月13日(水) 北播磨県民局との打ち合わせ 15:30 市民活動センター

3月14日(木) 三愛だより発送作業 15:00-16:00 市民活動センター

☆☆ 会員情報 オシドリのこと ☆☆ 実家の村池である炭ヶ谷池には、毎年「オシドリ」がやってくる。オシドリのオスは繁殖期になるとカラフルな羽色になり、よく目立つ。また警戒心がとても強い。池縁の樹木の枝が池の方に伸びた、その下に数十羽単位で潜んでいるし、気配にとっても敏感である。カメラの電源を入れてズームを掛けた状態のまま、そろりそろりと池への斜面を上って行く。私の頭が堤に出るか出ないかというところで、大抵は同じ方向に泳いで逃げていくか羽音を立てて飛び立っていくので、シャッターチャンスはなかなか訪れない。3月上旬のある日のこと、いつものところに潜んでいたが、おや?堤に立っても飛び立たない。しばらくすると大群で飛び立った。その数50羽以上と、2羽残っていた。メスは右方向へ、オスは忙しなく泳いだり山に入って行ったり…。見失ったかと目を凝らすと、枝に2羽止まっていた。まさしくつがいである。オシドリは万葉時代から「をし」「をしどり」、つまり愛(いと)おいしい鳥として愛され、夫婦愛や貞節の象徴とされてきた。ところが近年、つがいの相手を毎年変えるという説が広まり、オシドリが「浮気者」と蔑称されているとか…。ともかく、つがい子育てはしない、メスだけで子育てをするようだ。



(文と写真:塩田尚子会員) 【編集者より 情報をお待ちしています:sirouma2000@yahoo.co.jp】



ふるさと公園だより

冬を越した生き物たちは、芽吹く、花を咲かせる、孵化するなど、暖かさに目覚めて動き出しています。



オオイヌノフグリ



ウグイスカグラ



ホトケノザ



アセビ



カンサイタンポポ



ニホンアカガエルのオタマジャクシ



セトウチサンショウウオの卵囊

## 3 月中旬～4 月 三愛研事業活動予定表

日	曜	行事 他	日	曜	行事 他	
3月			7	日		
15	金		8	月		
16	土		9	火		
17	日		10	水		
18	月		11	木		
19	火		12	金		
20	水	-春分の日-	13	土	春の野草かんさつ&野草の天ぷらを楽しもう	
21	木		14	日	3月号で、発送作業を4月11日と掲載しましたが、諸般の事情により19日に行います。	
22	金		15	月		
23	土		16	火		
24	日	おもだか原稿第二次募集締め切り	17	水		
25	月		18	木		
26	火		19	金	三愛だより発送作業 15:00 市民活動センター	
27	水		20	土		
28	木	イベントスケジュール仕分け 14:00 市民活動センター	21	日		
29	金		22	月		
30	土	三役会議	23	火		
31	日	学校や公共施設へ配布するために仕分け作業をします。お時間があれば、ご協力をお願いします。なお、会員には5月2日に「総会議案書」「おもだか」と同封し発送作業をします。	24	水		
4月				25	木	三役会議
1	月			26	金	
2	火			27	土	
3	水		28	日		
4	木		29	月	-昭和の日-	
5	金		30	火		
6	土	理事会、活動推進連絡会 14:00 市民活動センター				

**【お知らせ】**今年度も寄付をいただきました。本会の活動に有効に使わせていただきます。お名前を掲載してお礼に代えさせていただきます。ありがとうございました。  
 岡本高宏 様(東京都足立区、会員) 日覚卓郎 様(吉川町渡瀬)

### 編集者コラム

守池1号の西にある「増田ふるさと公園の生き物たち」の説明板が、新しくなりました。以前の説明板は、写真や文章が見えにくくなっていましたが、池町会員にきれいにしていただきました。公園内で見ることができる植物53種、両生類3種、魚類2種、水生昆虫1種、鳥類1種の合計60種類が説明されています。このうち絶滅危惧種は植物18種、両生類3種、魚類2種、水生昆虫1種、鳥類1種の合計25種類です。公園散策の際にぜひご覧ください。





# 2023(令和 5)年度 三木自然愛好研究会 一年間の活動

NPO 法人 三木自然愛好研究会

私たちは三木の自然環境の豊かさに興味関心と誇りを持つと共に、貴重な生物や豊かな里山環境が日々失われていくことを危惧しています。

数多く貴重種を有する細川町増田地区の一面を三木市が買い上げ、小さな自然公園「ふるさと公園」として、三木市と増田地区そして我々で管理・活用しています。

私たち三愛研(三木自然愛好研究会の略称)は、この「ふるさと公園」を拠点にして、環境保全活動、自然体験教育活動、情報提供・ネットワーク活動、調査研究活動など、三木市の豊かな自然環境をいつまでも後世に伝え残していくための様々な活動を行っています。

今年は、5月にコロナ感染症が5類に移行され日常生活や経済活動も元に戻り、「ふるさと公園里山まつり」も4年ぶりに計画通りに実施することが出来ました。常にコロナ感染防止に努め、検温や消毒、また必要に応じてマスク着用や三密を避けるなど細心の注意を払いながら活動してきました。

## 自然体験及び環境教育とプログラムの提供事業

### (1) 公開ふるさと公園観察会(年間7回実施)

- ① 4/15「春の草花観察&野草の天ぷらを楽しもう」雨天中止
- ② 6/4「初夏の生き物観察&サツマイモつる植え」19名参加。
- ③ 7/2「梅雨の公園観察会」17名参加。
- ④ 9/3「早秋の生き物観察会」21名参加。
- ⑤ 10/1「秋の七草観察&サツマイモ掘り」24名参加。
- ⑥ 12/3「ササユリを復活させよう」19名参加
- ⑦ 2024/2/4「冬の生き物観察会」12名参加

昨年度の様子です



参加者が持ち寄った山野草の話を聞いた後、天ぷらにして食す(2022/4/9)



モンドリを使って公園のため池の生き物を採集して観察する(2023/6/4)



秋の豊作を願って、参加者と一緒にサツマイモのつる苗を植える(2023/6/4)



園内には多くの種類のトンボやチョウが飛び回っています。採集して観察した後は放してあげる(2023/7/2)



サツマイモ掘りを体験。掘ったイモは里山まつりに使用ものを残して、参加者におすそ分け(2023/10/1)



オミナエシに代わりサワヒヨドリやフジバカマの花が咲き始める。今年もアサギマダラの飛来を願って(2023/10/1)



先ほど見たトンボを今年のカレンダーで確認する(2023/7/2)



## (2) 親子環境学習 ～自然大好き！大人も子どもも大集合～

### ①「水の中の生き物 大発見！～小さな生き物を顕微鏡で見よう～」

日時；6月24日(土) 9:30～12:00 場所；細川町脇川・教海寺周辺

参加者数；30名、スタッフ(会員)；13名



脇川の小川での魚取り



集会場広場にて、生き物を陳列して観察する



集会場にて、微生物を顕微鏡を用いて観察、またデジタル顕微鏡システムを用いて投影する

### ②「親子川がき教室～川の生き物と触れ合おう～」

日時；7月29日(土) 9:30～13:30 場所；志染町 御坂神社境内&御坂サイフォン橋下の志染川

参加者数；29名、スタッフ(会員)；28名



御坂のサイフォン橋の下で・・・  
川での水遊びも体験！

ライフジャケットの着用



御坂神社の境内で川の学習



### ③「虫の冬越し探検隊 ～カブトムシの幼虫を見つけて育てよう～」

日時；2024年3月4日(土) 9:30～12:00 場所；志染町三津田・旧教育キャンプ場

参加者数；30名、スタッフ(会員)；13名



2023/12/17 破壊された「虫のお宿」復旧作業



2024/3/4 カブトムシの幼虫探し(左) & 枯竹に越冬するカミキリムシの成虫探し(右)

## (3) 小学校環境学習支援

### 豊地小学校3年生の環境学習支援～ふるさと公園の生き物観察 (全7回)

4月19日、6月14日、7月5日、9月13日、10月11日、10月25日、2024年1月24日





加古川市立神野小学校 3 年生の環境学習支援～曇川ビオトープ公園(10/5)、学校近郊のため池(10/26)



**自然環境保全事業**

**(1) ふるさと公園での主な保全活動**



← 2023/4/3 公園噴水池にある大賀バスの除去作業(レンコンを掘りだす)

2023/12/17 ふるさと公園 全面草刈り →



← 2023/12/13 ササコリの播種(採集した種子をプランターに蒔く)



2024/1/28 増田地区と共同で畦焼き →

2024/2/11 防災公園の敷地内にあるカンアオイ移植地の草刈り ↓



**(2) ふるさと公園外での主な保全活動**



2024/1/23 ヤブレガサモドキ自生地・移植地の草刈り (ネスタリゾート神戸敷地内)



2024/2/11 志染町高男寺のシジミオモダカ自生地の草刈り →



**自然に関する情報提供とネットワーク形成事業**

**(1) 「ふるさと公園里山まつり」 11 月 3 日 (金・祝)**

来園者数 ; 約 300 人、スタッフ ; 36 名 (会員 35 名、一般 1 名)

開会セレモニー



クイズを兼ねた公園案内



メッセージボード作り



芋ほり





パネル展示 & 生き物展示



火起こし体験



模擬店(豚汁、ダイカクイモ他)

## (2) 各種関係団体の開催イベントに参加

- ・ 細川町民文化祭 (11/6~12)
- ・ みきボランティアフェスタ (11/19)

## (3) 啓発カレンダー「ふるさと野のこよみ」の制作

## (4) 会報誌「三愛だより」(毎月)、機関誌「おもだか」(毎年) 発行



2023/11/19 三木ボランティアフェスタ

## 自然に関する調査研究事業

### (1) ふるさと公園の植生調査と部分草刈り

公園の植生の変化と管理の仕方(草刈り)との関係を知るため、2015年よりを毎年5月と7月に実施する。今年度は1回目は5月21日、2回目は7月16日に実施する。

### (2) ヤブレガサモドキ株数調査 5月20日

- ・ ネスタリゾート神戸敷地内 : 926 株 (昨年度 757 株)
- ・ 増田地区のため池土手 : 438 株 (昨年度 391 株)

### (3) 新三木市史(自然編)編さんに協力

市内のため池について、兵庫・水辺ネットワークの技術的な支援を受けながら調査する。(今年度、7月9回、8月5回 実施) また、野鳥調査や植生ふるさと調査を外部講師と共に調査する。



2023/7/13 ため池調査(志染町広野)



2023/7/21 ため池調査  
(吉川町畑枝)



2023/8/25 ため池調査  
(吉川町米田)



2023/7/16 ため池調査(細川町中里)

# 令和五年度

表紙 題字(おもだか): 須賀宏子

写真(コウヤボウキ): 塩田尚子

## 編集後記

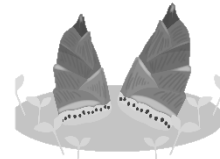
令和五年度「おもだか」通巻 27 号を、今回もお届けすることができ、ホッと胸をなでおろしています。

新型コロナ感染症も 5 類となり、ようやく今まで通りの三愛研としての活動が出来るようになりました。

いろんな活動が再開され、「里山まつり」も以前の賑わいが戻ってきましたことは嬉しい限りでしたが、虫のお宿が何度も被害を被ったことは残念なことでした！

今回も会員の皆様からご寄稿頂きましたこと、感謝申し上げます。これからも多くの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2024 年 4 月吉日 編集委員 : 池田裕子 塩田尚子



令和 5 年度おもだか通巻第 27 号

発行者 NPO 法人三木自然愛好研究会

印刷所 キング印刷

〒675-2302 加西市北条町栗田 346 番地

発行日 2024 年 5 月 2 日

ホームページ



インスタグラム

